

科目名		倫理学					担当教員		清水 俊			
学科	理学療法学科		年次	1	開講期	後期	単位数	2	時数	30	授業形態	講義
区分	基礎分野		教育内容		科学的思考の基盤・人間と生活・社会の理解					選択・必修		必修
担当教員の実務経験			大学や専門学校で倫理学・哲学を担当し、またフィールドワーク調査してきた経験を活かし、専門家に必要な倫理や論理的思考を教えることができる。									
授 業 概 要			基礎から倫理について学び、倫理の必要性や考え方、現代の問題への応用について学習する。									
到 達 目 標			倫理的な考察力を身に着ける。新しい課題に直面した時、自ら考えられる論理的判断力を身に着ける。									
授 業 計 画												
回	テーマ				授 業 内 容							
1	嘘をつくこと(教科書第1節)				カントの考えなどから、「常にすべきこと」という義務について学ぶ。							
2	功利主義(2節)				功利主義的な考え方と、その問題点について学ぶ。							
3	薬の配分方法(3節)				「誰かしか助けられない」ような問題について、自ら考えて答えを出してみる。							
4	エゴイズム (4節)				エゴイズムがどこまで許されるのか、エゴイズムとは何かについて考える。							
5	幸福の計算 (5節)				功利主義の習性案について学ぶ。							
6	判断能力と価値判断 (6節)				判断能力とは何か、それをだれが判断できるのかについて考える。							
7	価値判断と事実判断(7節)				価値がどのように導き出せるかについて学ぶ。							
8	正義の原理 (8節)				正義の原理が定められるかどうかについて学ぶ。							
9	思いやりからの道徳 (9節)				思いやりだけで道徳が成立するか考える。							
10	囚人のジレンマ (10節)				正直者が損をしないためにはどのようにしたらいいか、それが可能かを考える。							
11	愚行権 (11節)				愚かな行為をする権利はどこまであるか、愚かな行為に対してどこまで介入していいのかについて考える。							
12	貧しい人への義務 (12節)				貧しい人、困っている人に対して助けるべきか、誰が助けるべきかについて考える。							
13	未来の人への義務(13節)				未来の人々に対する義務のあり方について学ぶ。							
14	正義の変化 (14節)				時代や文化による正義の違いについて考える。							
15	科学の限界 (15節)				科学の発展に限界を設けるべきかどうかについて考える。							
準備学習(予習復習)の具体的な内容			教科書を読んでおく。									
成 績 評 価			☒ 定期試験 (80 %) ☐ 実技試験 (%) ☐ 小テスト (%) ☒ レポート (20 %) ☐ 課題 (%) ☐ 発表 (%) ☐ その他 ()									
教 科 書			現代倫理学入門(講談社学術文庫)									
参 考 書												
授業の留意点・備考												

科目名	基礎科学	担当教員	緒方 茂・岩北 耕三
-----	------	------	------------

学科	理学療法学科	年次	1	開講期	前期	単位数	2	時数	30	授業形態	講義
区分	基礎分野	教育内容	科学的思考の基盤・人間と生活・社会の理解						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		大学院修士課程において細胞生物学及び解剖学、運動解析学を履修した専任教員が医学の基礎となる生物学、物理学(生体力学)についての講義を行う。大学院における研究内容の経験を活かし、より専門的な知識を教授する。									
授 業 概 要		物理・生物の分野において、医学の基礎となる生体力学や細胞生物学の講義を中心に授業形式で行い必要な知識を習得していく。物理・生物としての人間理解を深める									
到 達 目 標		細胞の構造と機能および細胞分裂について説明できる。遺伝子の構造と遺伝子発現のしくみの基礎的知識が説明できる。物体の運動について説明でき、また運動とエネルギーの関係について説明できる。									
授 業 計 画											
回	テーマ				授 業 内 容						
1	力学の基礎①				基本単位と組立単位						
2	力学の基礎②				ベクトル：力の合成と分解						
3	力と運動①				時間と空間 変位 速度 加速度						
4	力と運動②				運動の法則						
5	仕事とエネルギー				仕事とは 力学的エネルギー 位置エネルギー エネルギー保存の法則						
6	生体力学への応用				身体とてこ：人体の関節運動におけるモーメント						
7	生体力学への応用				重心：重心の合成と位置の求め方						
8	生物学における構造と機能				生命現象の捉え方 形の研究(大きさの概念) 生命現象の研究法						
9	細胞とその構造				真核生物と原核生物について						
10	細胞の化学成分				水、タンパク質、核酸、脂質、炭水化物、無機塩類 細胞膜の輸送						
11	生体内の化学反応				ATPの生合成 解糖系 酸化的リン酸化						
12	細胞分裂				新各節物の染色体の構造 体細胞分裂 細胞分裂の周期						
13	組織と器官				脊椎動物の組織						
14	遺伝情報とその伝達の仕組み				染色体と遺伝子 DNAとその複製 RNAの情報伝達						
15	まとめ				これまでの授業内容を復習し理解を深める						
準備学習(予習復習)の具体的な内容		教科書を読んでおく									
成 績 評 価		☒ 定期試験 (100 %) ☐ 実技試験 (%) ☐ 小テスト (%) ☐ レポート (%) ☐ 課題 (%) ☐ 発表 (%) ☐ その他 ()									
教 科 書		生物学[カレッジ版] 第2版：医学書院 基礎運動学 第6版 医歯薬出版									
参 考 書											
授業の留意点・備考		主体的に学ぶことを前提とし、積極的な姿勢で受講すること。									

科目名	統計学	担当教員	緒方 茂
-----	-----	------	------

学科	理学療法学科	年次	3	開講期	前期	単位数	2	時数	30	授業形態	講義・演習
区分	基礎分野	教育内容	科学的思考の基盤・人間と生活						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験	臨床・教育の領域において、臨床研究および基礎研究によるさまざまな研究デザインに対する統計的手法を実践できることにより、将来臨床で必要な統計リテラシーの学習を行う事が出来る。										
授 業 概 要	医学系とくにリハビリ領域における研究にて用いられる統計学的手法について学ぶ。例題をもとに電卓や統計ソフトを使用した簡単な統計学的手法を実践する。また身近なデータから統計手法を選択し考察を交えた推論ができるようになる。										
到 達 目 標	統計学の概要を大まかに捉えて、統計学の専門用語である正規分布や特性値、各統計的手法を理解できる。さらに例題を通して理解を深め簡単なデータにおける統計処理が出来るようになる。										
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	オリエンテーション			統計学を学ぶ意義を理解する。							
2	統計学の概念と歴史			統計学の概念と過去の歴史から統計学がどのように人類に恩恵をもたらしたか理解する。							
3	データの種類と整理			各尺度の種類と特性を理解し、中央値・平均値・最大値・最小値・標準偏差などを理解する。							
4	データ整理とヒストグラム作成			例題のデータからヒストグラムを作成し、さらに正規分布の特性を理解する。							
5	名義尺度の変数に対する統計学的検定（1）			名義尺度の理解を深め、さらに名義尺度で使用する統計手法を覚える。							
6	名義尺度の変数に対する統計学的検定（2）			名義尺度の例題データを使用し、統計手法の選択から使用までを身につける。							
7	間隔・比率尺度の変数に対する統計学的検定（1）			間隔尺度・比率尺度の理解を深め、その統計手法が選択できるようにする。							
8	間隔・比率尺度の変数に対する統計学的検定（2）			間隔尺度・比率尺度における統計手法を選択できる手順を例題データから演習を通して覚える。							
9	間隔・比率尺度の変数に対する統計学的検定（3）			間隔尺度・比率尺度における統計手法を選択できる手順を例題データから演習を通して覚える。							
10	順序尺度の変数に対する統計学的検定（1）			順序尺度の理解を深め、対応のあるデータで統計手法が選択でき結果まで出せるようにする。							
11	順序尺度の変数に対する統計学的検定（2）			順序尺度の理解を深め、対応の無いデータで統計手法が選択でき結果まで出せるようにする。							
12	順序尺度の変数に対する統計学的検定（3）			例題を通して統計手法を身につける							
13	相関・回帰直線（1）			相関分析の概念とその流れを理解する。							
14	相関・回帰直線（2）			例題を通して演習において相関分析・回帰分析を身につける。							
15	まとめ			レポート及び定期試験のオリエンテーション							
準備学習（予習復習）の具体的な内容		その日に学習したものを、教科書や資料を確認しながらしっかり復習するように									
成 績 評 価		☒ 定期試験 （ 80 % ） ☐ 実技試験 （ % ） ☐ 小テスト （ % ） ☒ レポート （ 20 % ） ☐ 課題 （ % ） ☐ 発表 （ % ） ☐ その他 （ ）									
教 科 書		対馬栄輝他『リハビリテーション統計学』中山書店									
参 考 書		渡邊宗孝他『PT・OTのための統計学入門』、三輪書店 杉山高一他『保健・医療を学ぶ人のための統計学』絢文社 対馬栄輝『SPSSで学ぶ医療系データ解析』東京図書									
授業の留意点・備考		・講義ではデータ処理にて数を扱うが、数字に対して苦手意識を持たず取り組むこと。 ・「なぜ、このような統計学的手法が必要なのか」という意識を持ちながら授業に臨むこと。									

科目名	対人関係論	担当教員	水野 直樹
-----	-------	------	-------

学科	理学療法学科	年次	1	開講期	後期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義・演習
区分	基礎分野	教育内容	科学的思考の基盤・人間と生活、社会の理解					選択・必修		必修	
担当教員の実務経験		【水野直樹】キャリアコンサルタント、人材育成講師、ラジオパーソナリティの経験を活かし、学生の自己理解のグループワークや臨床現場でのコミュニケーションスキルについて講義・演習を行うことができる。									
授 業 概 要		コミュニケーションに必要な要素を分野別に探究する。									
到 達 目 標		1. コミュニケーションの基礎知識を理解できる。 2. ホスピタリティマインドを身につけたコミュニケーションを図ることができる。									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	コミュニケーションとは			言語的・非言語的コミュニケーションについて理解する。							
2	良好なコミュニケーションの要素①			自分の内面と向き合うための演習。							
3	良好なコミュニケーションの要素②			対象となる人物に届く手段を手に入れる。							
4	傾聴とは①			傾聴の意味を知る。							
5	傾聴とは②			傾聴を体験する。①							
6	傾聴とは③			傾聴を体験する。②							
7	報告・連絡・相談			3つの明確な区別を知り、対象となる人物の情報を整理する。							
8	看護場面で求められるコミュニケーション			臨床現場での実践と自分の課題を知る。							
9	行動変容のための言葉かけ			ケアの対象との相互作用に着目し、専門職としての実践力をつける。							
10	患者・看護師間の相互作用			実践を客観的に分析することにより、その必要性を学ぶ。							
11	チームにおけるコミュニケーション			同じ目的を持つチームのリーダーシップ、メンバーシップについて学ぶ。							
12	ホスピタリティ視点での接遇コミュニケーション			ホスピタリティマインドを学び、サービスとの使い分けをする。							
13	クレーム対応とAngerマネジメント			気持ちと言葉の相関関係を学ぶ。							
14	メンタルヘルスとコミュニケーション			自己理解をもとに、のセルフケアについて考える。							
15	試験			まとめと解説							
準備学習（予習復習）の具体的な内容											
成 績 評 価		☒ 定期試験 （ 80 % ） ☐ 実技試験 （ % ） ☐ 小テスト （ % ） ☐ レポート （ % ） ☒ 課題 （ 20 % ） ☐ 発表 （ % ） ☐ その他 （ ）									
教 科 書		リハベリック コミュニケーション論・多職種連携論（医歯薬出版）									
参 考 書		なし									
授業の留意点・備考											

科目名	総合教育 I							担当教員	大石 宝予 菊池 仁美 西本 守		
学科	理学療法学科	年次	1	開講期	前期	単位数	2	時数	30	授業形態	講義・演習
区分	基礎分野	教育内容	科学的思考の基盤・人間と生活・社会の理解						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験	10年以上におよぶ専門学校での教育経験と広報に携わった経験を活かし、医療人としての心構えや今後の学校生活に必要な学習の進め方などの指導ができる。また、看護学科教員や元高校教諭経験者と共にチームワークの考え方やノートの取り方等の講義が実施できる。										
授 業 概 要	専門学校における学習の意義や心構え、基本的なスタディースキルを習得することを狙いとし、ここで得られた基本的学習スタイルは、全ての専門教科・専門基礎教科を学ぶための共通技能となる。また、学校生におけるルールやそれを守ることの意義、過ごし方についても考える。										
到 達 目 標	専門学校における学習の意義について説明できる。授業を受ける上での心構えについて説明できる。効果的な集中の仕方・記憶の方法について実践できる。効果的な文献の読み方、専門書の活用の仕方、学習補助ツールの活用について実践できる。効果的な自宅学習の進め方・ノートの取り方について実践できる。あらためて自己目標を見つめ直す。										
授 業 計 画											
回	テーマ				授 業 内 容						
1	オリエンテーション (大石・菊池)				オリエンテーション。医療人としての倫理観など、心構えについて学ぶ ◆課題：感想を提出する						
2	学校生活におけるルールについて① レポートの書き方とルール (大石)				レポート表紙の書き方やレポート提出のルール、レポート表紙規定やレポート本文規定について学ぶ ◆課題：前回の授業の課題をに表紙を付け提出する						
3	文章の書き方について (大石・西本)				前回提出した課題（感想文）を元に文章の書き方を学ぶ						
4	学校生活におけるルールについて② 図書室の利用について (大石)				基本的な図書室の利用方法について学ぶ						
5	書籍の活用法 (大石)				図書室で興味ある雑誌を選び、文章の書き方（3回目講義）を元に感想をレポートとして提出する						
6	ノートの取り方① (大石)				ノートのまとめ方について学び、演習する						
7	ノートの取り方② (大石)				ノートのまとめ方について学び、演習、発表する						
8	動画の内容のまとめ方について① (大石)				動画視聴した場合のノートのまとめ方について学ぶ						
9	動画の内容のまとめ方について② (大石)				動画視聴した場合のノートのまとめ方について演習する 提出課題とする						
10	模擬講義（未学習の疾患を体験する）① 模擬講義の内容をノートにまとめる (大石)				授業におけるノートのまとめ方応用編、演習する						
11	模擬講義（未学習の疾患を体験する）② 模擬講義の内容をノートにまとめる (大石)				授業におけるノートのまとめ方応用編 小テストの活用について学び、演習、提出する						
12	学校生活における学びとの向き合い方① 目標設定 (大石)				これまでの学習内容と想定していた内容とのギャップについて考え、他者の意見を統合する						
13	学校生活における学びとの向き合い方② 目標達成を考える (大石)				これまでの学習内容と想定していた内容とのギャップについて考え、今後の学校生活についての学びを主観的に捉える						
14	事例課題 (大石)				学校生活あるあるについて、事例を通し、考え、解決方法についてグループ討議とし、今後の学校生活に活かす						
15	事例課題・総合まとめ (大石)				学校生活あるあるについて、事例を通し、考え、解決方法についてグループ討議とし、今後の学校生活に活かす→総合まとめ、課題提出						
準備学習（予習復習）の具体的な内容		ここで学んだ内容を、日々の学習や学校生活に活かすこと									
成 績 評 価		☐ 定期試験 （ % ） ☐ 実技試験 （ % ） ☐ 小テスト （ % ） ☒ レポート （ % ） ☒ 課題 （ % ） ☒ 発表 （ % ） ☒ その他 （ レポート/課題/発表を総合し 100%の評価とする ）									
教 科 書		なし ※資料は教員が準備します									
参 考 書		なし									
授業の留意点・備考		参加型の授業の際は、学生同士で積極的に意見を交わすこと									

科目名	総合教育Ⅱ/キャリアワーク	担当教員	越地 真一郎
-----	---------------	------	--------

学科	理学療法学科	年次	1	開講期	前期	単位数	2	時数	30	授業形態	講義
区分	基礎分野	教育内容	科学的思考の基盤・人間と生活・社会の理解						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		新聞社での取材・編集や、それを生かした教育現場でのNIE（教育に新聞を）活動									
授 業 概 要		どんな仕事（職種）であれ、それをやっていく上で必要とされる力＝社会人基礎力を磨く。「社会を知る⇒考える⇒伝える」という学習サイクルを重視し、実社会につながる実践的な学びを目指す。									
到 達 目 標		・国内外や地域のさまざまな問題に目を向け、社会人としての“常識”を身につける。 ・グループ活動の中で相手の思いを理解し、自分の考えを的確に言えるようになる。 ・発表や討論に慣れ、アドリブでの対応を怖がらないようになる。									
授 業 計 画											
回	テーマ（順不同）				授 業 内 容（順不同）						
1	社会に目を向ける				ニュース穴埋め＋コメント						
2	「伝える」から「伝わる」へ				相手に届く伝え方						
3	答えは一つじゃない				「正解のない問い」にどう答えるか						
4	要約のワザ				言いたいことは何か～要点をつかむコツ						
5	結論ファースト				結論を先に示し、理由・根拠を後で述べる表現法						
6	言葉に強くなる				記事の見出しを組み合わせた川柳づくりなど、ゲーム感覚で言葉に親しむ						
7	シンボン（新聞×本）バトル				活字メディア（新聞と本）を組み合わせたプレゼンテーション大会						
8	まとめ				授業総括、課題文作成						
9											
10											
11											
12											
13											
14											
15											
準備学習（予習復習）の具体的な内容		日頃からニュース（世の中のいろいろな出来事）に関心を持つこと。									
成 績 評 価		☐ 定期試験 （ %） ☐ 実技試験 （ %） ☒ 小テスト （ 50% ） ☐ レポート （ %） ☒ 課題 （ 50 %） ☐ 発表 （ %） ☐ その他 （ ）									
教 科 書		なし									
参 考 書											
授業の留意点・備考		人前で話したり、文章を書くことに対する苦手意識を捨てること。 「習慣は才能を超える」を信条に!!									

科目名	総合教育Ⅱ/キャリアワーク	担当教員	田畑 博敏
-----	---------------	------	-------

学科	理学療法学科	年次	1	開講期	前期	単位数	2	時数	30	授業形態	講義
区分	基礎分野	教育内容	科学的思考の基盤・人間と生活・社会の理解						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		約35年にわたり、大学で「哲学」や「論理学」等の人文系科目の教育研究に従事した経験を生かして、文章表現・読解の指導ができる。									
授 業 概 要		自分の意見や、調べた情報を、的確な文章に表現できることを目指す。そのために、語彙・文法の理解、資料分析の方法、文章読解の要点を学ぶ。手紙文や意見文の例を学び、自分で文章を書く練習をする。									
到 達 目 標		本講義により、受講者は、日本語の文章を正しく読解し、その内容をわかりやすい日本語の文章に表現できるようになる。									
授 業 計 画											
回	テーマ（順不同）				授 業 内 容（順不同）						
1	語句及び語彙				文章に出てくる語句・語彙の意味を正しく知る						
2	文法				文法的に正しい言い方・表現法を学ぶ						
3	資料分析				表やグラフ等の資料の分析方法を学ぶ						
4	文章読解				文章読解の基本を学ぶ						
5	文章読解				文章読解の技術を深める						
6	手紙文				手紙文についての基本知識を学ぶ						
7	意見文				意見文を読解し、自分で書いてみる						
8											
9											
10											
11											
12											
13											
14											
15											
準備学習（予習復習）の具体的な内容		参考書の指定部分を予め読む。授業内容を深めるため復習する。									
成 績 評 価		☐ 定期試験 （ %） ☐ 実技試験 （ %） ☒ 小テスト （ 10 %） ☒ レポート （ 90 %） ☐ 課題 （ %） ☐ 発表 （ %） ☐ その他 （ ）									
教 科 書		基礎から学べる！文章カステップ 文章検3級対応：公益財団法人日本漢字能力検定協会 文章検公式テキスト3級：公益財団法人日本漢字能力検定協会									
参 考 書											
授業の留意点・備考		国語辞典（電子書籍で可）を持参すること。自分の考えを他者に伝えるにはどうすべきか、常に考えること。									

科目名		国際コミュニケーション					担当教員		ジェフェリーアランケアンズ			
学科	理学療法学科		年次	1	開講期	後期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義
区分	基礎分野		教育内容		科学的思考の基盤・人間と生活、社会の理解					選択・必修		必修
担当教員の実務経験			教育現場で培った経験を活かし、将来、医療現場で働く学生に学んでいて欲しい基礎的な知識を講義できる。									
授 業 概 要			医療及び看護の専門分野の英語文献資料を読解できる英語力を養う。									
到 達 目 標			To review and improve English communication skills, Build practical English vocabulary; Expand English communication ability. (英語のコミュニケーション能力を伸ばすため、英語の語彙力を確立する。英語のコミュニケーション能力を発展させる。)									
授 業 計 画												
回	テーマ				授 業 内 容							
1	Orientation				orientation (オリエンテーション)							
2	Vocabulary Practice (語彙の練習)				Communication Practice Topics -Food							
3	Vocabulary Practice (語彙の練習)				Communication Practice Topics -Japan							
4	Vocabulary Practice (語彙の練習)				Communication Practice Topics -Shopping							
5	Vocabulary Practice (語彙の練習)				Communication Practice Topics -Music							
6	Vocabulary Practice (語彙の練習)				Communication Practice Topics -Transportation							
7	Vocabulary Practice (語彙の練習)				Communication Practice Topics -Work							
8	Vocabulary Practice (語彙の練習)				Communication Practice Topics -Family							
9	Vocabulary Practice (語彙の練習)				Communication Practice Topics -Travel							
10	Vocabulary Practice (語彙の練習)				Communication Practice Topics -Europe							
11	Vocabulary Practice (語彙の練習)				Communication Practice Topics -Famous People							
12	Vocabulary Practice (語彙の練習)				Communication Practice Topics -Sports							
13	Vocabulary Practice (語彙の練習)				Communication Practice Topics -Home							
14	Vocabulary Practice (語彙の練習)				Communication Practice Topics -Health, Entertainment							
15	Examination											
準備学習 (予習復習) の具体的な内容			all instruction done in English (講義は英語で行われます) Students are expected to communicate in English (授業中、学生は英語でコミュニケーションをとることが望ましい) monthly vocabulary quizzes (毎月英語の語彙クイズを実施します)									
成 績 評 価			☒ 定期試験 (100 %) ☐ 実技試験 (%) ☐ 小テスト (%) ☐ レポート (%) ☐ 課題 (%) ☐ 発表 (%) ☐ その他 ()									
教 科 書			"Let's Talk About It" by PERSON Longman Craig Drayton&Mark Gibbon									
参 考 書			適宜、示す									
授業の留意点・備考			a good "Learner's" dictionary will be needed by every student in every class (毎回、学習者用の辞書を持参すること。電子辞書でも構いません)									

学科	理学療法学科	年次	1	開講期	前期	単位数	2	時数	30	授業形態	講義
区分	専門基礎分野	教育内容	人体の構造と機能及び心身の発達						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		作業療法士として病院勤務した経験に基づき、作業療法士の視点で解剖学を講義する。									
授 業 概 要		人体を構成している各器官の成り立ちを理解する。解剖学Ⅰでは骨学について学ぶ。骨は、受動的運動器と称されるように、ヒトの運動に欠かすことのできない器官である。特に療法士にとっては運動器の理解は不可欠となるため、それらについて系統的に学習する。									
到 達 目 標		・解剖学的重要性がわかる。 ・運動器について理解する。 ・骨及び各部位の名称を理解し覚える。 ・人体の構成要素を理解する。 ・解剖学用語を理解し覚える。									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	解剖学総論			解剖学の定義、解剖学を学習する目的、解剖学的位置、方向、身体部位を解剖学用語を用いて理解する。							
2	骨学総論			骨の形態、構造について理解する。							
3	骨学各論 肩甲骨・上腕骨			肩甲骨・上腕骨の構成と特徴を理解する。							
4	骨学各論 肘・前腕			肘・前腕の構成と特徴を理解する。							
5	骨学各論 手根骨・指骨			手根骨・指骨の構成と特徴を理解する。							
6	骨学各論 骨盤			骨盤の構成と特徴を理解する。							
7	骨学各論 大腿骨・膝蓋骨			大腿骨・膝蓋骨の構成と特徴を理解する。							
8	骨学各論 脛骨・腓骨			脛骨・腓骨の構成と特徴を理解する。							
9	骨学各論 足根骨・趾骨			足根骨・趾骨の構成と特徴を理解する。							
10	骨学各論 頭蓋骨			頭蓋骨の構成と特徴を理解する。							
11	骨学各論 脊柱			脊柱の構成と特徴を理解する。							
12	骨学各論 胸郭			胸郭の構成と特徴を理解する。							
13	関節・靭帯総論			骨の連結の関節の正常な構造と機能を学ぶ。							
14	関節・靭帯各論			上下肢の連結を安定性と可動性を理解する。							
15	まとめ			これまでの授業内容を復習し理解を深める。							
準備学習(予習復習)の具体的な内容		各骨をよく観察し、テキストと比較しながら立体的に捉えること。									
成 績 評 価		☒ 定期試験 (60 %) ☐ 実技試験 (%) ☒ 小テスト (40 %) ☐ レポート (%) ☐ 課題 (%) ☐ 発表 (%) ☐ その他()									
教 科 書		標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 医学書院									
参 考 書		プロメテウス解剖学コアアトラス 医学書院									
授業の留意点・備考		毎回、授業開始時に小テストを実施するため復習をすること									

科目名		解剖学Ⅱ					担当教員		小野 厚美		
学科	理学療法学科	年次	1	開講期	前期	単位数	2	時数	30	授業形態	講義
区分	専門基礎分野	教育内容	人体の構造と機能及び心身の発達						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		総合リハビリテーション病院での業務経験を活かし講義を行う。									
授 業 概 要		人体を構成している各器官の成り立ちを理解する。解剖学Ⅱでは筋学を学習する。筋は能動的運動器と称され、骨と筋とがヒトの動きを作り出している。特に療法士にとっては運動器の理解は不可欠となるため、それらについて系統的に学習していく。									
到 達 目 標		骨格筋の構造と機能を理解する。各筋の付着部（起始・停止）、神経支配を覚え、その作用を理解する。									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	オリエンテーション 筋学総論①			筋組織の種類と特徴、骨格筋の構造、筋に関係する構造、組織について学習する。							
2	筋学総論②			骨格筋の付着部（起始、停止）と作用について学習する。							
3	神経系①			骨格筋と運動に関係する脳及び脊髄の構造を学ぶ。骨格筋の神経支配について学習する。							
4	神経系②			脊髄神経と上肢の筋に分布する腕神経叢について学習する。							
5	神経系③			脊髄神経と下肢の筋に分布する腰神経叢、仙骨神経叢について学習する。							
6	筋学各論 上肢の筋①			上肢帯（肩甲帯）の筋の名称、構造と付着部、筋の作用について学習する。							
7	筋学各論 上肢の筋②			上腕にある屈筋、伸筋の筋の名称、構造と付着部、筋の作用について学習する。							
8	筋学各論 上肢の筋③			前腕にある屈筋群、伸筋群の筋の名称、構造と付着部、筋の作用について学習する。							
9	筋学各論 上肢の筋④			手の内在筋の名称、構造と付着部、筋の作用について学習する。							
10	筋学各論 下肢の筋①			股関節周囲にある筋の名称、構造と付着部、筋の作用について学習する。							
11	筋学各論 下肢の筋②			大腿部にある伸筋群、内転筋群、屈筋群の名称、構造と付着部、筋の作用について学習する。							
12	筋学各論 下肢の筋③			下腿部、足部にある背屈筋群と底屈筋群、腓骨筋群の名称、構造と付着部、筋の作用について学習する。							
13	筋学各論 体幹の筋①			頭部、頸部にある筋の名称、構造と筋の働きについて学習する。							
14	筋学各論 体幹の筋②			胸部、腹部、背部にある筋の名称、構造と筋の働きについて学習する。							
15	まとめ			これまで学習したことを復習し、理解を深める。							
準備学習（予習復習）の具体的な内容		小テストで確認していき各項の復習を欠かさず取り組み、確実に覚えていくこと。									
成 績 評 価		☒ 定期試験 （ 80 % ） ☐ 実技試験 （ % ） ☒ 小テスト （ 20 % ） ☐ レポート （ % ） ☐ 課題 （ % ） ☐ 発表 （ % ） ☐ その他 （ ）									
教 科 書		標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学(医学書院) プロメテウス解剖学アトラス (医学書院)									
参 考 書		なし									
授業の留意点・備考		各自の身体や模型を用いて文字だけの理解ではなく、3次元でのイメージ構築できることを目標とする。									

科目名	解剖学Ⅲ	担当教員	遠山健一
-----	------	------	------

学科	理学療法学科	年次	1	開講期	後期	単位数	2	時数	30	授業形態	講義
区分	専門基礎分野	教育内容	人体の構造と機能及び心身の発達						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		急性期、回復期、維持期リハビリテーション病院で勤務した経験を活かし、神経系の解剖について講義することができる。									
授 業 概 要		人体を構成している神経系の成り立ちを理解する。療法士に必要な不可欠な神経系について系統的に学習していく。神経疾患はリハビリで扱う代表な部分である、疾患理解のために、各部位の位置関係、働きも学習していく。									
到 達 目 標		神経系の構造、位置関係を認識する。神経系の働きを理解する。疾患や検査、治療のために神経系の学習が必要であることを知る。									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	神経系総論について			神経系の概要について学習する							
2	神経系の循環について			脳血管系と脳室について学習する							
3	脊髄について			脊椎や脊髄神経について学習する							
4	脳幹について			中脳・橋・延髄について学習する							
5	小脳について			小脳中部・小脳半球について学習する							
6	間脳について			視床、視床下部について学習する							
7	終脳について①			大脳皮質や灰白質について学習する							
8	終脳について②			大脳基底核や大脳辺縁系について学習する							
9	伝導路について①			下行性伝導路について学習する							
10	伝導路について②			上行性伝導路について学習する							
11	末梢神経について①			脊髄神経について学習する							
12	末梢神経について②			神経叢について学習する							
13	末梢神経について③			脳神経について学習する							
14	末梢神経について④			自律神経について学習する							
15	まとめ			これまでの授業内容を復習し理解を深める							
準備学習(予習復習)の具体的な内容		指定教科書の該当箇所について、事前に目を通しておく									
成 績 評 価		☒ 定期試験 (80 %) ☐ 実技試験 (%) ☒ 小テスト (20 %) ☐ レポート (%) ☐ 課題 (%) ☐ 発表 (%) ☐ その他()									
教 科 書		標準理学療法学・作業療法額 専門基礎分野 解剖学 第5版：医学書院									
参 考 書		適宜資料を配布する									
授業の留意点・備考		小テストを実施するため、予習、復習を心がけること。									

科目名	解剖学Ⅳ	担当教員	吉永 一也
-----	------	------	-------

学科	理学療法学科	年次	1	開講期	後期	単位数	2	時数	30	授業形態	講義
区分	専門基礎分野	教育内容	人体の構造と機能及び心身の発達						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		大学医学部（医学科・保健学科）並びに医療系専門学校において解剖学の講義・実習を長年担当した経験を活かし、理学療法士・作業療法士養成のための解剖学の講義を行うことができる。									
授 業 概 要		解剖学では人体を構成する各器官の構造と立体配置について学習する。そのうち、解剖学Ⅳでは医療および疾患の理解に必要な感覚器および内臓諸器官の正常構造について系統的に学習する。									
到 達 目 標		・人体を構成する各器官の構造と立体配置を説明できる。 ・解剖学の基礎的知識を身につける。 ・解剖学の知識を各種検査や治療手技へ応用できる。									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	感覚器系①			感覚器系の全体像、外皮について学ぶ。							
2	感覚器系②			視覚器、平衡聴覚器①について学ぶ。							
3	感覚器系③			平衡聴覚器②、味覚器、嗅覚器について学ぶ。							
4	循環器系①			循環器系の全体像、心臓について学ぶ。							
5	循環器系②			動脈系について学ぶ。							
6	循環器系③			静脈系について学ぶ。							
7	循環器系④			胎児循環、リンパ系について学ぶ。							
8	消化器系①			消化器系の全体像を学ぶ。							
9	消化器系②			消化管（口腔、咽頭、食道、胃、小腸、大腸）について学ぶ。							
10	消化器系③			消化腺（肝臓、胆嚢、膵臓）、腹膜について学ぶ。							
11	呼吸器系			鼻腔、（咽頭）、喉頭、気管、気管支、肺について学ぶ。							
12	泌尿器系			腎臓、尿管、膀胱、尿道について学ぶ。							
13	生殖器系			生殖系器官（男性生殖器、女性生殖器）について学ぶ。							
14	内分泌系			内分泌系器官（下垂体、松果体、甲状腺、上皮小体、副腎、膵島など）について学ぶ。							
15	まとめ			重要事項の復習							
準備学習（予習復習）の具体的な内容		・毎回の講義内容について、教科書を一読しておく。 ・その日の講義内容を復習し、重要なポイントを整理しておく。									
成 績 評 価		☒ 定期試験 （ 100 % ） ☐ 実技試験 （ % ） ☐ 小テスト （ % ） ☐ レポート （ % ） ☐ 課題 （ % ） ☐ 発表 （ % ） ☐ その他 （ ）									
教 科 書		標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学（医学書院）									
参 考 書		参考資料を適宜配布									
授業の留意点・備考		不明な点は、積極的に質問すること。									

学科	理学療法学科	年次	1	開講期	後期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義・演習
区分	専門基礎分野	教育内容	人体の構造と機能及び心身の発達						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		理学療法士として、主に急性期から回復期における病院勤務の中で、実際のリハビリテーションに関わった経験を活かし講義・演習を行うことができる。									
授 業 概 要		解剖学演習は解剖学等で学んだ人体の構造について、教科書等の平面上で覚えた知識を立体的に3Dへ変換していく科目である。主に人体模型を用いたり、体表解剖学として体表面からの観察や骨および筋を体表から触診（触察）し、それぞれの位置関係を明確にしていく。									
到 達 目 標		人体の構造を三次元に理解しながら、骨指標を正確にとらえることができ、骨や筋の触診（触察）を行う中でその位置や特徴を把握できる。									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	オリエンテーション			触診（触察）技術の基礎と技法について学ぶ							
2	上肢における骨指標			上肢における骨の形態的特徴を学習し、触知して理解を深める							
3	肩甲上腕関節の運動に関わる主な筋①			肩甲上腕関節周囲筋の形態的特徴を学習し、触知して理解を深める							
4	肩甲上腕関節の運動に関わる主な筋②			肩甲上腕関節周囲筋の形態的特徴を学習し、触知して理解を深める							
5	肘関節の運動に関わる主な筋			肘関節周囲筋の形態的特徴を学習し、触知して理解を深める							
6	肘関節・手関節の運動に関わる主な筋			肘関節・手関節周囲筋の形態的特徴を学習し、触知して理解を深める							
7	胸郭・脊柱における骨指標			胸郭・脊柱における骨の形態的特徴を学習し、触知して理解を深める							
8	下肢における骨指標			下肢における骨の形態的特徴を学習し、触知して理解を深める							
9	股関節の運動に関わる主な筋①			股関節周囲筋の形態的特徴を学習し、触知して理解を深める							
10	股関節の運動に関わる主な筋②			股関節周囲筋の形態的特徴を学習し、触知して理解を深める							
11	膝関節の運動に関わる主な筋			膝関節周囲筋の形態的特徴を学習し、触知して理解を深める							
12	足関節および足部の運動に関わる主な筋①			足関節および足部に関わる筋の形態的特徴を学習し、触知して理解を深める							
13	足関節および足部の運動に関わる主な筋②			足関節および足部に関わる筋の形態的特徴を学習し、触知して理解を深める							
14	全身の骨指標についての触察			臨床でも触察の機会が多い骨指標を復習し、触知して理解を深める							
15	まとめ			これまでの授業内容を復習し理解を深める							
準備学習(予習復習)の具体的な内容		触診（触察）には、指先の感覚の鍛錬が必要。日頃から自主的にも時間を作り、標本や体表に触れて練習を行ってください。									
成 績 評 価		☒ 定期試験（ 60 %） ☒ 実技試験（ 20 %） ☐ 小テスト（ %） ☐ レポート（ %） ☒ 課題（ 20 %） ☐ 発表（ %） ☐ その他()									
教 科 書		骨格筋の形と触察法 改訂第2版 大峰閑									
参 考 書		運動療法のための機能解剖学的触診技術 上肢 MEDICAL VIEW 運動療法のための機能解剖学的触診技術 下肢・体幹 MEDICAL VIEW									
授業の留意点・備考		演習では体表に触れて学習するため、爪を必ず切る。軽装とバスタオルを毎回準備する。特に演習の際は体表に投影を行いイメージをつけて学習します。積極的に触察に参加し理学療法士として大切になる手指の感覚を養えるよう1人1人が集中し努力してください。実技内容によって男女分けて授業を行うことがあります。時間が限られるため授業準備・片付けを全員で協力して行ってください。									

科目名	生理学 I	担当教員	遠山 健一
-----	-------	------	-------

学科	理学療法学科	年次	1	開講期	前期	単位数	4	時数	60	授業形態	講義
区分	専門基礎分野	教育内容	人体の構造と機能及び心身の発達						選択・必修	必修	

担当教員の実務経験	臨床における各種疾患を解剖学及び生理学的視点から見て来た経験を活かし、理学療法士、作業療法士、言語聴覚療法士のための生理学の講義を行うことができる。										
授 業 概 要	生理学は生命活動のしくみを解き明かすことを目的とした学問であり、解剖学と密接に関連した医学の基礎となるものである。まず、生命現象の基本となる細胞機能、ついで植物と動物に存在する機能、そして動物に特有な機能として、生理学を理解していく。										
到 達 目 標	生理学における重要事項を説明できる。器官・組織の機能とその仕組みを説明できる。生理機能と理学療法・作業療法・言語聴覚療法と関連を説明できる。										

授 業 計 画											
---------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション・PT, OTにとっての生理学	生理学とは
2	生命現象と人体 浸透圧、水分、体温①	身体の階層性
3	生命現象と人体 浸透圧、水分、体温②	生命現象、水
4	生命現象と人体 浸透圧、水分、体温③	体温、ホメオスタシスと負のフィードバック
5	細胞の構造と機能①	細胞の構造と機能
6	細胞の構造と機能②	静止膜電位と活動電位
7	神経の興奮伝導と末梢神経①	神経細胞の構造、興奮の発生と伝導
8	神経の興奮伝導と末梢神経②	末梢神経の種類
9	神経の興奮伝導と末梢神経③	自律神経
10	神経の興奮伝導と末梢神経④	シナプスにおける興奮の伝達
11	中枢神経①	中枢神経とは、脊髄
12	中枢神経②	脳幹、小脳
13	中枢神経③	間脳：視床と視床下部、大脳皮質
14	中枢神経④	脳の高次機能、大脳基底核、辺縁系、脳室と脳脊髄液・血液脳関門
15	筋と骨①	筋の分類、骨格筋

授 業 計 画		
回	テーマ	授 業 内 容
16	筋と骨②	心筋
17	筋と骨③	平滑筋
18	筋と骨④	骨
19	感覚①	感覚とは
20	感覚②	体性感覚
21	感覚③	内臓感覚
22	感覚④	特殊感覚
23	血液①	血球の組成、赤血球・白血球の役割を学ぶ(遠山)
24	血液②	血液の凝固・線溶、血漿成分、血液型を学ぶ(遠山)
25	血液③	非特異的生体防御、免疫反応、Tリンパ球・Bリンパ球を学ぶ(遠山)
26	血液④	自然免疫・獲得免疫、液性免疫・細胞性免疫を学ぶ(遠山)
27	前期復習	小テストを利用して前期の復習を行う(緒方・遠山)
28	前期復習	小テストを利用して前期の復習を行う(緒方・遠山)
29	前期復習	小テストを利用して前期の復習を行う(緒方・遠山)
30	まとめ	定期試験
準備学習（予習復習）の具体的な内容		教科書を読んで予習をする。講義プリント、練習問題を復習し、小テストの準備を行う。
成 績 評 価		☒ 定期試験 （ 80 % ） ☐ 実技試験 （ % ） ☒ 小テスト （ 20 % ） ☐ レポート （ % ） ☐ 課題 （ % ） ☐ 発表 （ % ） ☐ その他 （ ）
教 科 書		標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学 第6版：医学書院
参 考 書		からだが見える 人体の構造と機能 MEDIC MEDIA
授業の留意点・備考		・授業中に講義内容と関連した復習、グループ学習を行うため、ノート等を準備しておく。 ・小テストは事前に告知するため準備しておく。小テストを欠席した場合は担当教員へ1週間以内にコンタクトをとること。コンタクトがない場合は評価対象外とする。 ・疑問点が生じたときは教科書や参考書、担当教員を積極的に活用すること。

科目名	生理学Ⅱ					担当教員	遠山健一・山下俊
-----	------	--	--	--	--	------	----------

学科	理学療法学科	年次	1	開講期	後期	単位数	4	時数	60	授業形態	講義
区分	専門基礎分野	教育内容	人体の構造と機能及び心身の発達						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		臨床における各種疾患を解剖学及び生理学的視点から見て来た経験を活かし、理学療法士、作業療法士、言語聴覚療法士のための生理学の講義を行うことができる。									
授 業 概 要		生理学は生命活動のしくみを解き明かすことを目的とした学問であり、解剖学と密接に関連した医学の基礎となるものである。まず、生命現象の基本となる細胞機能、ついで植物と動物に存在する機能、そして動物に特有な機能として、生理学を理解していく。									
到 達 目 標		生理学における重要事項を説明できる。器官・組織の機能とその仕組みを説明できる。生理機能と理学療法・作業療法と関連を説明できる。									

授 業 計 画

回	テーマ	授 業 内 容
1	心臓と循環①	心臓の構造と働きを学ぶ(山下)
2	心臓と循環②	心臓の自動性と刺激電動系について学ぶ(山下)
3	心臓と循環③	心電図の記録法と各波形の意味を学ぶ(山下)
4	心臓と循環④	心拍出量と血圧について学ぶ(山下)
5	心臓と循環⑤	血圧の調節メカニズムを学ぶ(山下)
6	心臓と循環⑥	微小循環における物質交換を学ぶ(山下)
7	呼吸とガスの運搬①	気道の構造とその役割を学ぶ(山下)
8	呼吸とガスの運搬②	呼吸運動と呼吸器気量の分画を学ぶ(山下)
9	呼吸とガスの運搬③	ガス交換・ガス運搬を学ぶ(山下)
10	呼吸とガスの運搬④	化学受容器と呼吸の調節を学ぶ(山下)
11	腎臓と排泄①	腎臓の構造と役割を学ぶ(山下)
12	腎臓と排泄②	尿の生成メカニズムを学ぶ(山下)
13	腎臓と排泄③酸塩基平衡①	クリアランス、糸球体濾過量、腎血漿流量を学ぶ・血漿pH調節について学ぶ(山下)
14	腎臓と排泄④酸塩基平衡②	畜尿反射と排尿反射を学ぶ・アシドーシスとアルカローシスについて学ぶ(山下)
15	消化と吸収①	消化管の構造と消化メカニズムを学ぶ(遠山)

授 業 計 画		
回	テーマ	授 業 内 容
16	消化と吸収②	消化液・栄養の吸収を学ぶ(遠山)
17	消化と吸収③	消化管ホルモン、消化管の調節を学ぶ(遠山)
18	消化と吸収④	肝臓、膵臓の構造と役割を学ぶ(遠山)
19	代謝と体温①	各栄養素の意義と代謝を学ぶ(遠山)
20	代謝と体温②	体温の調節と発熱メカニズムを学ぶ(遠山)
21	内分泌①	ホルモンの作用、種類、発現メカニズムを学ぶ(遠山)
22	内分泌②	ホルモンの分泌調節を学ぶ(遠山)
23	内分泌③	下垂体・視床下部・甲状腺・副甲状腺のホルモンを学ぶ(遠山)
24	内分泌④	副腎皮質・髄質・膵臓・性腺などのホルモンを学ぶ(遠山)
25	運動生理①	筋力と持久力、筋収縮のエネルギー源を学ぶ(遠山)
26	運動生理②	運動に伴う全身の変化、トレーニングと老化について学ぶ(遠山)
27	後期復習	小テストを利用して後期の復習を行う(山下・遠山)
28	後期復習	小テストを利用して後期の復習を行う(山下・遠山)
29	後期復習	小テストを利用して後期の復習を行う(山下・遠山)
30	まとめ	定期試験
準備学習（予習復習）の具体的な内容		教科書を読んで予習をする。講義プリント、練習問題を復習し、小テストの準備を行う。
成 績 評 価		☒ 定期試験 （ 80 % ） ☐ 実技試験 （ % ） ☒ 小テスト （ 20 % ） ☐ レポート （ % ） ☐ 課題 （ % ） ☐ 発表 （ % ） ☐ その他 （ ）
教 科 書		標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学 第6版：医学書院
参 考 書		消して忘れない 生理学要点整理ノート（PT、OT必修シリーズ） 羊土社
授業の留意点・備考		授業中に講義内容と関連した練習問題を行う。次回講義前に小テストが行なわれるので、授業終了後は必ず復習すること。疑問点が生じたときは教科書や参考書、さらには教官を積極的に活用すること。 (山下：心臓と循環、呼吸とガスの運搬、腎臓と排泄) (遠山：消化と吸収、代謝と体温、内分泌、運動生理)

科目名	生理学演習							担当教員	緒方 茂		
学科	理学療法学科	年次	2	開講期	後期	単位数	1	時数	30	授業形態	演習
区分	専門基礎分野	教育内容	人体の構造と機能及び心身の発達						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験	患者の症状を生理学的側面から捉えるため、研修や大学院等で基礎的な生理現象の理解に努めてきた。										
授 業 概 要	1年次で学んだ生理学の知識を基礎とし、様々な環境に呼応する生体兆候の変化を主要なテーマとし、計測、結果の分析・解釈を行いレポートを作成する。内容の理解を確認するため演習問題を実施する。卒業研究の基礎のひとつとなる。臨床実習で求められる技術も含まれる。										
到 達 目 標	生理学の主要なテーマについて、実際に検査・測定することで理解を深める。 人の体と心を意識して、被験者の気持ちを理解し、人と接する態度を向上させる。 治療に役立つ生理学的データを得るための、科学的方法の基礎を身につける。 得た知見をレポートとして他の人に伝える能力を養う。										
授 業 計 画											
回	テーマ					授 業 内 容					
1	オリエンテーション 体温調節					体温調節の生理学					
2	体温調節					体温調整の生理学					
3	体温調節					体温調節の生理学					
4	身体組成					身体組成モデルと基本的な身体計測額の指標					
5	身体組成					身体組成指標とその測定方法					
6	身体組成					身体組成計測					
7	血圧測定					血圧の原理と取り扱い方					
8	血圧測定					血圧の原理と取り扱い方					
9	血圧測定					運動負荷前後の血圧の変化					
10	血圧測定					運動負荷前後の血圧の変化					
11	エルゴメーターによる体力測定					体力とは 体力の種類について					
12	エルゴメーターによる体力測定					最大酸素摂取量とは					
13	エルゴメーターによる体力測定					体力測定					
14	エルゴメーターによる体力測定					体力測定					
15	まとめ					これまでの授業内容を復習し理解を深める					
準備学習（予習復習）の具体的な内容		予習は教科書に軽く目を通しておき、講義の資料および個人の学習ノートを用いて復習を行なう。									
成 績 評 価		☐ 定期試験 （ % ） ☐ 実技試験 （ % ） ☐ 小テスト （ % ） ☒ レポート （ 90 % ） ☒ 課題 （ 10 % ） ☐ 発表 （ % ） ☐ その他 （ ）									
教 科 書		特に無し									
参 考 書		入門運動生理学 基礎運動学第6版補訂 その他、図書室生理学教科書を参照									
授業の留意点・備考		1年次の生理・解剖・運動学を再度学習するつもりで、さらに理解を深めていく。									

科目名		運動学					担当教員		山本 英夫・野仲 泰良			
学科	理学療法学科		年次	1	開講期	後期	単位数	4	時数	60	授業形態	講義
区分	専門基礎分野	教育内容		人体の構造と機能及び心身の発達						選択・必修		必修
担当教員の実務経験		総合リハビリテーション病院での業務経験を活かし講義を行う。										
授 業 概 要		本授業では、人体の構造と機能及び心身の発達を理解するために、運動学の基礎となる力やてこなどの生体力学や、関節の基本構造、筋の収縮の様式や関係する神経機能について学習する。また、上肢、下肢、体幹の各関節の特徴と機能、運動について学習する。										
到 達 目 標		身体の関節の特徴的な構造と機能を説明できる。また、関節の動きや筋の作用、靱帯やその他器官の機能を理解しイメージできる。また、それを各関節のみでなく人の全身の動きの中で理解し他に説明することができる。										
授 業 計 画												
回	テーマ				授 業 内 容							
1	オリエンテーション				運動学とは何か学習する。							
2	運動器の構造と機能①				骨、関節、筋の構造と機能について学習する。							
3	運動器の構造と機能②				基本の肢位と面、運動の名称について学習する。							
4	運動器の構造と機能③				筋収縮の様式、筋の張力について、運動に関係する神経系の機能について学習する。学習する。							
5	股関節の運動学①				股関節を構成している骨、靱帯などの軟部組織の構造と、その特徴や機能を学習する。							
6	股関節の運動学②				股関節を構成している骨、靱帯などの軟部組織の構造と、その特徴や機能を学習する。							
7	膝関節の運動学①				膝関節を構成している骨、靱帯などの軟部組織の構造と、その特徴や機能を学習する。							
8	膝関節の運動学②				膝関節を構成している骨、靱帯などの軟部組織の構造と、その特徴や機能を学習する。							
9	股・膝関節の筋				股・膝の運動に関係する筋の働きについて学習する。							
10	足関節および足部の運動学①				足関節および足部を構成している骨、靱帯などの軟部組織の構造と、その特徴や機能を学習する。							
11	足関節および足部の運動学②				足関節および足部を構成している骨、靱帯などの軟部組織の構造と、その特徴や機能を学習する。							
12	足関節および足部の筋				足関節および足部の運動に関係する筋の働きについて学習する。							
13	脊柱の運動学①				脊柱を構成している椎間板、靱帯などの軟部組織の構造と、その特徴や機能を学習する。							
14	脊柱の運動学②				頸椎の構造と、その特徴や機能を学習する。							
15	脊柱の運動学③				胸椎、腰椎の構造と、その特徴や機能を学習する。呼吸運動について学習する。							

授 業 計 画		
回	テーマ	授 業 内 容
16	脊柱の運動学④	脊柱の運動に関係する脊柱起立筋や腹筋などについて学習する。
17	肩甲帯・肩関節の運動学①	肩複合体（肩甲上腕関節、肩鎖関節、胸鎖関節）を構成している骨、靱帯などの軟部組織の構造と、その特徴や機能を学習する。
18	肩甲帯・肩関節の運動学②	肩複合体（肩甲上腕関節、肩鎖関節、胸鎖関節）を構成している骨、靱帯などの軟部組織の構造と、その特徴や機能を学習する。
19	肩甲帯・肩関節の運動学③	肩甲帯・肩関節の運動に関係する筋の作用について学習する。
20	肩甲帯・肩関節の筋	肩甲帯・肩関節の運動に関係する筋の働きについて学習する。
21	肘関節の運動学	肘（肘尺関節、腕橈関節、上橈尺関節）を構成している骨、靱帯などの軟部組織の構造と、その特徴や機能を学習する。
22	前腕の運動学①	前腕（上橈尺関節、下橈尺関節）を構成している骨、靱帯などの軟部組織の構造と、その特徴や機能を学習する。
23	前腕の運動学②	肘関節、前腕の運動に関係する筋の作用について学習する。
24	肘関節・前腕の筋	肘関節・前腕の運動に関係する筋の働きについて学習する。
25	手関節、手指の運動学①	手と手指を構成している骨、靱帯などの軟部組織の構造と、その特徴や機能を学習する。
26	手関節・手指の運動学②	母指の運動について学習する。手指屈筋、伸筋機構について学習する。
27	手関節・手指の運動学③	手関節、母指、手指の運動に関係する筋の作用について学習する。
28	まとめ	これまで学習したことを復習し、理解を深める。
29	まとめ	これまで学習したことを復習し、理解を深める。
30	まとめ	これまで学習したことを復習し、理解を深める。
準備学習（予習復習）の具体的な内容		毎回小テストで確認していくため、各項の復習を欠かさず取り組み、確実に覚えていくこと。
成 績 評 価		☒ 定期試験 （ 60 % ） ☐ 実技試験 （ % ） ☒ 小テスト （ 40 % ） ☐ レポート （ % ） ☐ 課題 （ % ） ☐ 発表 （ % ） ☐ その他 （ ）
教 科 書		協同医書出版社 人間の運動学
参 考 書		プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論/運動器系（医学書院）
授業の留意点・備考		各自の身体や模型を用いて文字だけの理解ではなく、3次元でのイメージ構築できることを目標とする。

科目名		臨床運動学						担当教員		栗野 博子		
学科	理学療法学科		年次	2	開講期	前期	単位数	2	時数	30	授業形態	講義・演習
区分	専門基礎分野	教育内容		人体の構造と機能及び心身の発達						選択・必修		必修
担当教員の実務経験		運動に対する身体機能の反応と変化を急性期医療から回復期医療において様々な疾患におけるリハビリテーションに携わり経験してきたことを基に講義・演習を行う。										
授 業 概 要		解剖学や生理学、運動学の知識を統合し、ヒトの動きの基礎を学ぶ。姿勢、基本動作、歩行を中心に正常（健常）の動作の基礎となる用語、機能的役割、原理を理解し、異常な現象や動作の要因となりうるところを推測できるようになるための基盤を習得する。										
到 達 目 標		姿勢、基本動作、歩行などのヒトの正常（健常）な動作を理解する。 正常のヒトの姿勢や動作についての国家試験を解釈できるようになる。 姿勢における重心位置や姿勢制御について説明することができる。 基本動作における正常パターンについて説明することができる。										
授 業 計 画												
回	テーマ				授 業 内 容							
1	臨床運動学 総論				基本的動作に関する運動力学の基礎を学び理解する。							
2	姿勢①				姿勢制御のバイオメカニクスを学び理解する。							
3	姿勢② ～演習～				姿勢制御のバイオメカニクスを学び姿勢の異常や基本的動作との関連・評価について理解する。							
4	寝返り				寝返り動作における運動パターンの概要と、動作を可能にするメカニズムを学び、正常動作を理解する。							
5	起き上がり				起き上がり動作における運動パターンの概要と、動作を可能にするメカニズムを学び、正常動作を理解する。							
6	寝返り・起き上がり ～演習～				寝返り・起き上がり動作の様々なパターンを実際に観察し理解する。							
7	起立・着座				起立・着座動作における運動パターンの概要と、動作を可能にするメカニズムを学び、正常動作を理解する。							
8	起立・着座 ～演習～				起立・着座動作の様々なパターンを実際に観察し理解する。							
9	歩行① ～正常歩行の運動学と歩行周期～				正常歩行における運動パターンの概要と、動作を可能にするメカニズムを学び、正常動作を理解する。							
10	歩行② ～正常歩行の運動学的分析～				正常歩行における重心のコントロールと各関節運動との関係について理解する。							
11	歩行③ ～正常歩行の運動学的分析～				正常歩行の動きを生じさせる要因である力について学び理解する。							
12	歩行④ ～様々な正常歩行～				小児・成人・高齢者の歩行の特徴について学び違いなどを理解する。							
13	歩行⑤ ～異常歩行～				運動器疾患、神経筋疾患などによくみられる主な異常歩行について、その特徴や名称、原因などを学び理解する。							
14	歩行⑥ ～演習～				正常歩行について観察・計測などの演習を行う。							
15	まとめ				これまでの授業内容を復習し理解を深める							
準備学習（予習復習）の具体的な内容		講義ごとに随時復習を行い、理解度を高めること。 1年次に学習した解剖・運動学を復習すること。										
成 績 評 価		☒ 定期試験 （ 80 % ） ☐ 実技試験 （ % ） ☒ 小テスト （ 20 % ） ☐ レポート （ % ） ☐ 課題 （ % ） ☐ 発表 （ % ） ☐ その他 （ ）										
教 科 書		随時資料配布、基礎運動学 第6版補訂：医歯薬出版株式会社 動作分析 臨床活用講座 バイオメカニクスに基づく臨床推論の実際：MEDICAL VIEW 観察による歩行分析：医学書院										
参 考 書		プロメテウス解剖アトラス 解剖総論運動器系 第3版:医学書院、動作のメカニズムがよくわかる 実践！動作分析:医歯薬出版株式会社、日常生活活動の分析-身体運動学的アプローチ:医歯薬出版株式会社										
授業の留意点・備考		動作観察および分析を行い、動画を撮影できるものを準備する。使用する際は事前に準備の連絡を行う。 演習を行う際は、軽装の準備をすること。										

科目名	人間発達学						担当教員	小野 厚美			
-----	-------	--	--	--	--	--	------	-------	--	--	--

学科	理学療法学科	年次	2	開講期	前期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義
区分	専門基礎分野	教育内容	人体の構造と機能及び心身の発達						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		臨床に携わった経験を活かし、リハビリテーションにおいて理解すべき小児の運動発達について講義・指導ができる									
授 業 概 要		小児の運動発達の基盤となる発達概念、発達理論を理解し、姿勢反射、反応から始まる正常な運動発達を時期とともに段階的に学ぶ。									
到 達 目 標		正常な小児の運動発達を学習し、どのような順番で運動を獲得していくのかを説明できる。									
授 業 計 画											
回	テーマ					授 業 内 容					
1	オリエンテーション					小児の運動発達のイメージを作る。					
2	発達概念					人間発達を表現する用語や発達の流れを学ぶ。					
3	人間発達（発達理論）					発達理論モデルを理解する。					
4	姿勢反射・反応①					姿勢反射・反応の出現と消失を時期とともに学ぶ。					
5	姿勢反射・反応②					姿勢反射・反応の出現と消失を時期とともに学ぶ。					
6	運動発達（0～3ヶ月）					0～3ヶ月児の運動発達の推移を学ぶ。					
7	運動発達（4～6ヶ月）					4～6ヶ月児の運動発達の推移を学ぶ。					
8	運動発達（7～9ヶ月）					7～9ヶ月児の運動発達の推移を学ぶ。					
9	運動発達（10～12ヶ月）					10～12ヶ月児の運動発達の推移を学ぶ。					
10	運動発達（13～18ヶ月）					13～18ヶ月児の運動発達の推移を学ぶ。					
11	上肢機能の発達					上肢機能と物の操作の発達を学ぶ。					
12	ADLの発達①					遊び・食事・排泄・更衣の発達を学ぶ。					
13	ADLの発達②					遊び・食事・排泄・更衣の発達を学ぶ。					
14	感覚・知覚・認知・社会性の発達					感覚・知覚・認知・社会性の大きな発達を学ぶ。					
15	まとめ					これまでの授業内容を復習し理解を深める					
準備学習（予習復習）の具体的な内容		配布資料を参考に復習する事。									
成 績 評 価		☒ 定期試験 （ 100 % ） ☐ 実技試験 （ % ） ☐ 小テスト （ % ） ☐ レポート （ % ） ☐ 課題 （ % ） ☐ 発表 （ % ） ☐ その他 （ ）									
教 科 書		イラストでわかる人間発達学 医歯薬出版株式会社									
参 考 書											
授業の留意点・備考		配布資料をファイルし整理しておくこと									

科目名		運動生理学						担当教員		緒方 茂/山下 俊		
学科	理学療法学科		年次	2	開講期	前期	単位数	2	時数	30	授業形態	講義
区分	専門基礎分野	教育内容	人体の構造と機能及び心身の発達							選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		急性期、亜急性期、術後症例を担当し、運動器・代謝・心血管疾患を中心に検査・測定を行った経験を活かし、各疾患の検査・測定手技について講義・演習を行う。										
授 業 概 要		近年死因の第1位は、悪性新生物だが、それ以降の死因は、生活習慣病（動脈硬化性疾患）が主である。この生活習慣病に対して運動処方に基く身体運動は推奨される手段の一つであるが誤った方法は、身体に不利益をもたらす可能性がある。本科目は、運動処方の基礎理論を深め、運動による身体反応（運動生理学）を理解し、各疾患の運動療法へ繋げる。										
到 達 目 標		運動に対する身体器官（筋・神経・循環・代謝・呼吸）の反応と変化を理解し、運動により身体が受ける影響を説明できるようになる。										
授 業 計 画												
回	テーマ				授 業 内 容							
1	オリエンテーション				講義の進め方や受講時の注意点を理解する、生理学・解剖学・運動学を復習する							
2	筋の運動生理学①				筋収縮とエネルギー供給系、筋線維の種類とその特徴について学習する							
3	筋の運動生理学②				収縮様式と筋力の関係について学習する							
4	神経の運動生理学①				神経の構造と機能、活動電位について学習する。							
5	神経の運動生理学②				運動と神経活動の関係について学習する。							
6	栄養の運動生理学				食物摂取と消化・吸収、エネルギー代謝について学習する							
7	身体組成				基本的な身体計測的指標とその測定方法について学習する							
8	換気の運動生理学①				呼吸器系の構造と換気メカニクスについて学習する							
9	換気の運動生理学②				呼吸筋疲労および呼吸中枢と呼吸調整について学習する							
10	ガス交換の運動生理学①				ガス交換と呼吸代謝について学習する							
11	ガス交換の運動生理学②				呼吸代謝の指標と運動時の呼吸循環応答について学習する							
12	循環の運動生理学①				循環系の構造と心周期、一回拍出量・心拍数・心拍出量について学習する							
13	循環の運動生理学②				重力および運動による循環反応について学習する							
14	体温の運動生理学				体温と体熱バランス、運動と体温調節について学習する							
15	まとめ				これまでの授業内容を復習し理解を深める							
準備学習（予習復習）の具体的な内容		予習は教科書に軽く目を通しておき、講義の資料および個人の学習ノートを用いて復習を行なう。										
成 績 評 価		☒ 定期試験 （ 90 % ） ☐ 実技試験 （ % ） ☒ 小テスト （ 10 % ） ☐ レポート （ % ） ☐ 課題 （ % ） ☐ 発表 （ % ） ☐ その他 （ ）										
教 科 書		リハビリテーション運動生理学										
参 考 書		入門運動生理学 基礎運動学第6版補訂 その他、図書室生理学教科書を参照										
授業の留意点・備考		1年次の生理・解剖・運動学を再度学習するつもりで、さらに理解を深めていく。										

科目名		基礎医学特論Ⅰ						担当教員		理学療法学科教員			
学科	理学療法学科		年次	4	開講期	後期	単位数	2	時数	30	授業形態	講義・演習	
区分	専門基礎分野		教育内容		人体の構造						選択・必修		必修
担当教員の実務経験			理学療法に関係する修士および博士課程での学習経験から、専門基礎分野における国家試験問題対策を教授する。										
授 業 概 要			国家試験対策として自己学習、ペアでの学習、グループでの学習、特別講義、模擬試験 等を行なう。学習状況や理解度を確認しながら炊事検討を図り、妥当な時期や実施の必要性を見極めながら取り入れていく。										
到 達 目 標			理学療法士国家試験における専門基礎分野における知識を理解する。										
授 業 計 画													
回	テーマ				授 業 内 容								
1	オリエンテーション				近年の国家試験における専門基礎分野の出題傾向を説明する。								
2	専門基礎（共通）分野				中枢神経(脳・脊髄)について学習する。								
3	専門基礎（共通）分野				脳神経・末梢神経について学習する。								
4	専門基礎（共通）分野				脳血管・循環器系について学習する。								
5	専門基礎（共通）分野				内臓諸器官について学習する。								
6	専門基礎（共通）分野				骨・関節について学習する。								
7	専門基礎（共通）分野				神経筋支配、筋・靱帯、発声と組織について学習する。								
8	専門基礎（共通）分野				代謝、血液について学習する。								
9	専門基礎（共通）分野				免疫、循環について学習する。								
10	専門基礎（共通）分野				呼吸、消化と排泄について学習する。								
11	専門基礎（共通）分野				内分泌、女性の生理・妊娠・出産について学習する。								
12	専門基礎（共通）分野				神経系および感覚と受容器、病理について学習する。								
13	専門基礎（共通）分野				顔面および頸部・体幹の運動学について学習する。								
14	専門基礎（共通）分野				上・下肢の運動学について学習する。								
15	まとめ				これまでの専門基礎分野のまとめおよび習得内容の確認								
準備学習（予習復習）の具体的な内容			日々の国家試験過去問やリハナビでの問題回答をしっかりと行なっていく。										
成 績 評 価			☒ 定期試験 （ 100 % ） ☐ 実技試験 （ % ） ☐ 小テスト （ % ） ☐ レポート （ % ） ☐ 課題 （ % ） ☐ 発表 （ % ） ☐ その他 （ ）										
教 科 書			・クエスチョンバンク 理学療法士・作業療法士国家試験問題解説 ・TRY過去問 専門基礎分野										
参 考 書			その他、専門基礎分野に関連する教科書										
授業の留意点・備考			グループ（活動班）による学習を通して、国家試験合格率の向上に努める。										

科目名	基礎医学特論Ⅱ							担当教員	理学療法学科教員		
学科	理学療法学科	年次	4	開講期	後期	単位数	2	時数	30	授業形態	講義・演習
区分	専門基礎分野	教育内容	人体の構造						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験	理学療法に関係する修士および博士課程での学習経験から、専門基礎分野における国家試験問題対策を教授する。										
授業概要	国家試験対策として自己学習、ペアでの学習、グループでの学習、特別講義、模擬試験等を行なう。学習状況や理解度を確認しながら炊事検討を図り、妥当な時期や実施の必要性を見極めながら取り入れていく。										
到達目標	理学療法士国家試験における専門基礎分野における知識を理解する。										
授業計画											
回	テーマ				授業内容						
1	オリエンテーション				近年の国家試験における専門基礎分野の出題傾向を説明する。						
2	専門基礎（共通）分野				姿勢および歩行について学習する。						
3	専門基礎（共通）分野				バイオメカニクス、椅子からの立ち上がり、筋の収縮様式、運動学習について学習する。						
4	専門基礎（共通）分野				小児疾患および小児の運動発達について学習する。						
5	専門基礎（共通）分野				呼吸器疾患・循環器疾患について学習する。						
6	専門基礎（共通）分野				消化器疾患、代謝内分泌疾患について学習する。						
7	専門基礎（共通）分野				高次脳機能障害、脳・神経の病態生理を学習する。						
8	専門基礎（共通）分野				脳血管障害、認知症、自己免疫疾患、筋疾患を学習する。						
9	専門基礎（共通）分野				防衛機制、移転記憶、発達心理、心理テスト、統合失調症、気分障害、薬物療法について学習する。						
10	専門基礎（共通）分野				神経症性障害、小児の精神医学、転換、パーソナリティ障害について学習する。						
11	専門基礎（共通）分野				骨折、脱臼について学習する。						
12	専門基礎（共通）分野				末梢神経障害、脊髄・脊椎疾患及び損傷について学習する。						
13	専門基礎（共通）分野				変形性関節症、小児整形外科、切断について学習する。						
14	専門基礎（共通）分野				リハビリテーション概論、リスク管理感染症について学習する。						
15	まとめ				これまでの専門基礎分野のまとめおよび習得内容の確認						
準備学習（予習復習）の具体的な内容		日々の国家試験過去問やリハナビでの問題回答をしっかりと行なっていく。									
成績評価		☒ 定期試験（100％） ☐ 実技試験（　　％） ☐ 小テスト（　　％） ☐ レポート（　　％） ☐ 課題（　　％） ☐ 発表（　　％） ☐ その他（　　）									
教科書		・クエスチョンバンク 理学療法士・作業療法士国家試験問題解説 ・TRY過去問 専門基礎分野									
参考書		その他、専門基礎分野に関連する教科書									
授業の留意点・備考		グループ（活動班）による学習を通して、国家試験合格率の向上に努める。									

科目名	病理学	担当教員	熊本大学病院病理部
-----	-----	------	-----------

学科	理学療法学科	年次	1	開講期	後期	単位数	2	時数	30	授業形態	講義
区分	専門基礎分野	教育内容	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		病理疾患の研究に携わった経験を講義に活用する。									
授 業 概 要		適切なリハビリテーションを実践するためには、疾病についての基礎的な知識を修得している必要がある。本講義では、疾病についての基礎的な知識や病態生理を教授し、さらに病理学の魅力についても伝えたい。									
到 達 目 標		・専門科目の学習に必要な最低限の病理学的知識と、生涯学習の方法を修得すること。 ・疾病の基礎的な概念を理解している ・主な疾病の病態生理について説明できる。 ・問題解決型の学習法を修得している。									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	オリエンテーション 病理医とは			病理医について、病理医の主な仕事について学ぶ。							
2	先天異常			病理学の概要、病因論（外因性疾患と内因性疾患）について学ぶ。							
3	中枢神経			脳・神経系の疾患、感染症等について学ぶ。							
4	免疫反応			自然免疫と適応免疫、アレルギー、免疫不全等について学ぶ。							
5	循環器			虚血性心疾患、心筋症、心筋炎、先天性心疾患等について学ぶ。							
6	泌尿器			腎臓・下部尿路の疾患について学ぶ。							
7	呼吸器			上気道の疾患、腫瘍、下気道の疾患等について学ぶ。							
8	血液疾患			赤血球系・白血球系・血小板・リンパ節の病理について学ぶ。							
9	腫瘍総論			腫瘍の分類、形態学、組織学的特徴について学ぶ。							
10	消化管・肝・胆嚢			各疾患について学ぶ。 肝障害、代謝異常、胆嚢および胆道等について学ぶ。							
11	循環障害			循環器系の概要、構成、全身の循環障害、局所の循環障害について学ぶ。							
12	感染症			日和見感染症、誤嚥性肺炎、結核症、肝炎ウイルスについて学ぶ。							
13	運動器			骨粗鬆症の病態について、骨折修復のメカニズム等について学ぶ。							
14	退行性・進行性病変			萎縮の種類について、褥瘡の原因、壊死とアポトーシスの違い、肥大と過形成等について学ぶ。							
15	まとめ			まとめ							
準備学習（予習復習）の具体的な内容		講義ノートを復習する。									
成 績 評 価		☒ 定期試験 （ 100 % ） ☐ 実技試験 （ % ） ☐ 小テスト （ % ） ☐ レポート （ % ） ☐ 課題 （ % ） ☐ 発表 （ % ） ☐ その他 （ ）									
教 科 書		わかりやすい病理学 改訂第7版（南江堂）									
参 考 書											
授業の留意点・備考		今までの受動的な学習態度から脱却し、より充実した学習を行うために、自主的な学習態度を身に付け、積極的に疑問に思ったことは質問すること。									

科目名	内科学	担当教員	藤本 和紀
-----	-----	------	-------

学科	理学療法学科	年次	2	開講期	前期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義
区分	専門基礎分野	教育内容	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進					選択・必修		必修	
担当教員の実務経験		内科臨床と係った経験を活かした講義を行うことができる。									
授 業 概 要		各症候、疾病がどのようにして発生するかという内科的病態生理を基礎として、要点はプリント図表に入れ、講義の習得が容易となるように配慮する。									
到 達 目 標		①国家試験の過去問題（10年程度）を十分に理解し、トレーニングを行い、思考力を育てる。 ②教科書、講師からの資料を研習し、グループワークを行う場合には、積極的に参加し意見を発表する。									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	循環器（Ⅰ）			循環器の解剖、病理を理解する。浮腫の診断ができる。							
2	循環器（Ⅱ）			虚血性心疾患、左心不全、右心不全を理解する。							
3	循環器（Ⅲ）			高血圧、末梢循環について学ぶ。							
4	呼吸器疾患（Ⅰ） 風邪症候群、その他			風邪を理解するために、症状の分析、原因を知り、診断する思考力を学ぶ。							
5	呼吸器疾患（Ⅱ） 閉塞性換気障害、拘束性換気障害			呼吸器の解剖、病理を復習し、代表的な疾患について学習する。							
6	糖尿病			糖尿病とは、合併症、低血糖症状を理解する。							
7	消化器疾患			主な疾患について学ぶ。							
8	肝疾患			ウイルス肝炎、肝硬変症、その他について学ぶ。							
9	内分泌			内分泌異常について学ぶ。							
10	膠原病			膠原病、自己免疫疾患などについて学ぶ。							
11	メタボリックとフレイル			メタボリックシンドローム、内臓脂肪と皮下脂肪、高齢者に見られるフレイル・サルコペニアについて学ぶ。							
12	感染症			感染症、院内感染対策、標準予防法について学ぶ。							
13	老年症候群、廃用症候群			高齢者の特有な疾患の内部障害を理解し、リハビリの臨床に役立たせる。							
14	その他の内科疾患、腎不全など			主な疾患について学ぶ。							
15	まとめ、復習			期末試験の対応について学ぶ。							
準備学習（予習復習）の具体的な内容		レポート（小テスト）を各テーマ毎に提出する。復習予習することで正確な解答を提出し、問題を解く思考力を育てる。									
成 績 評 価		☒ 定期試験 （ 90 % ） ☐ 実技試験 （ % ） ☐ 小テスト （ % ） ☒ レポート （ 10 % ） ☐ 課題 （ % ） ☐ 発表 （ % ） ☐ その他 （ ）									
教 科 書		標準理学療法学作業療法学 専門基礎分野 内科学 第4版 （医学書院）									
参 考 書											
授業の留意点・備考		内科学は単なる記憶の繰り返しではなく、症状を分析し、病理・解剖学などの知識を元に診断する。思考力が必要であることを理解する。									

科目名		整形外科学						担当教員		岩北 耕三		
学科	理学療法学科		年次	2	開講期	前期	単位数	2	時数	30	授業形態	講義
区分	専門基礎分野		教育内容		疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進					選択・必修		必修
担当教員の実務経験			整形外科領域の実務に携わった経験を活かし、整形外科領域の主な疾患における症状や検査、治療法について講義を行う。									
授 業 概 要			理学・作業療法士として整形外科疾患を理解することは臨床において重要である。本授業においては、講義を中心に整形外科学の基礎から各疾患に及ぶ幅広い知識を教授し、習得していく。									
到 達 目 標			運動器疾患を体系的に学び、その臨床症状や障害像を理解する。 代表的な整形外科疾患の病態生理、症状、経過、治療法、用語を理解する。									
授 業 計 画												
回	テーマ				授 業 内 容							
1	オリエンテーション・総論				整形外科の定義や領域を総合的に講義する。							
2	上肢の疾患				上肢の疾患の種類、病態、診断、治療法について講義する。							
3	下肢の疾患①				下肢の疾患の種類、病態、診断、治療法について講義する。							
4	下肢の疾患②				下肢の疾患の種類、病態、診断、治療法について講義する。							
5	体幹の疾患				脊椎疾患の種類、病態、診断、治療法について講義する。							
6	末梢神経損傷				代表的な末梢神経障害の病態、診断、治療法について講義する。							
7	外傷①				代表的な上肢の骨折の病態、診断、治療法について講義する。							
8	外傷②				代表的な下肢の骨折の病態、診断、治療法について講義する。							
9	外傷③				代表的な下肢の骨折/脱臼の病態、診断、治療法について講義する。							
10	外傷④				スポーツ外傷・障害総論の概要について講義する。							
11	リウマチ性疾患				炎症性疾患のリウマチについて病態、診断、治療法について講義する。							
12	慢性関節疾患				退行性疾患の種類、病態、診断、治療法について講義する。							
13	慢性関節疾患				退行性疾患の種類、病態、診断、治療法について講義する。							
14	骨・軟部腫瘍/代謝性骨疾患他				骨・軟部腫瘍/代謝・内分泌性疾患の種類、病態、診断、治療法について講義する。							
15	まとめ				これまでの授業内容を復習し理解を深める							
準備学習（予習復習）の具体的な内容			授業ごとの復習を行い、内容の理解を深めること									
成 績 評 価			☒ 定期試験 （ 80 % ） ☐ 実技試験 （ % ） ☐ 小テスト （ % ） ☒ レポート （ 20 % ） ☐ 課題 （ % ） ☐ 発表 （ % ） ☐ その他 （ ）									
教 科 書			病気がみえる vol.11 運動器・整形外科 第1版 メディックメディア									
参 考 書			標準整形外科学 第13版 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 整形外科学 第4版									
授業の留意点・備考			・ 授業を欠席しない。 ・ 積極的な授業態度を望む。 ・ 課題レポートの提出を課する。									

科目名	神経内科学							担当教員	小野 厚美		
学科	理学療法学科	年次	2	開講期	前期	単位数	2	時数	30	授業形態	講義
区分	専門基礎分野	教育内容	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験	主に急性期から回復期における中枢疾患のリハビリテーションに関わった経験を活かし講義を行うことができる。										
授 業 概 要	神経内科学的疾患（特に脳梗塞や神経変性疾患など、成人の運動機能障害を生じる疾患を中心に）の概説を行う。										
到 達 目 標	代表的な神経疾患の病態と診断、治療について総合的に理解する。具体的には、神経系の構成を理解し、機能障害が発生した場合にどのような症状が現れるか理解する。その障害に対し有効な治療（根治的／対症療法的／予防的、リハビリテーション／薬剤／その他）について、総合的に理解する。それを基礎に、神経疾患治療におけるリハビリテーションの目標・役割について理解する。										
授 業 計 画											
回	テーマ				授 業 内 容						
1	神経系の構造と機能				神経系の疾患を理解するために必要となる中枢神経の構造や機能、末梢神経などについて学習する						
2	脳動脈と脳血管障害				脳出血、くも膜下出血、脳梗塞などの病態と分類などについて学習する						
3	脳血管障害				脳血管障害の診断と治療、リハビリテーションの実際について学習する						
4	神経学的診断と評価／神経学的検査法				神経疾患の診断や評価に用いられる検査方法などの概要を学習する						
5	神経症候学①				意識障害や運動麻痺、錐体路徴候について学習する						
6	神経症候学②				錐体外路徴候、不随意運動について学習する						
7	神経症候学③				感覚障害について学習する						
8	神経症候学④ ～高次脳機能障害～				失語症、構音障害、嚥下障害失認、失行、記憶障害、注意障害、遂行機能障害について学習する						
9	認知症／脳腫瘍／外傷性脳損傷				認知症、脳腫瘍、外傷性脳損傷の症状や分類、治療などについて学習する						
10	変性疾患、脱髄疾患				脊髄小脳変性症、筋萎縮性側索硬化症、パーキンソン病、多発性硬化症などを中心に学習する						
11	末梢神経障害/神経筋接合部疾患				末梢神経損傷、ギランバレー症候群、重症筋無力症などを中心に						
12	筋疾患/小児神経疾患				筋ジストロフィーや脳性麻痺などを中心に学習する						
13	脊髄疾患				脊髄損傷を中心に、主な症状やリハビリテーションを学習する						
14	神経疾患に多い合併症				神経疾患に多い廃用、誤用症候群や合併症について学習する						
15	まとめ				これまでの授業内容を復習し理解を深める						
準備学習（予習復習）の具体的な内容		講義の中で出てくるポイントについて、復習を各自でしっかり行い理解することが望まれる。									
成 績 評 価		☒ 定期試験 （ 80 % ） ☐ 実技試験 （ % ） ☒ 小テスト （ 20 % ） ☐ レポート （ % ） ☐ 課題 （ % ） ☐ 発表 （ % ） ☐ その他 （ ）									
教 科 書		病気がみえるvol.7脳・神経 第2版(メディックメディア)									
参 考 書		標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 神経内科学 第5版(医学書院)									
授業の留意点・備考		国家試験出題の多い点については講義の中でも問題活用し進めていく。問題でわからないところなどを自分自身でも調べる習慣を身につけ努力すること。									

学科	理学療法学科	年次	2	開講期	後期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義
区分	専門基礎分野	教育内容	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進					選択・必修		必修	
担当教員の実務経験		脳神経疾患の治療や研究に携わった経験を講義に活用する。									
授 業 概 要		神経解剖や脳神経疾患について基本的な知識を概説する。									
到 達 目 標		リハビリテーションにおける脳神経外科学の重要性を理解し実臨床に活用できるようにする。									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	神経系の解剖 1			中枢神経、末梢神経、脳血管、脳脊髄液、等							
2	神経系の解剖 2			錐体路、錐体外路、知覚伝導路、等							
3	脳血管障害 1			脳出血、くも膜下出血、等							
4	脳血管障害 2			脳梗塞、一過性脳虚血発作、等							
5	頭部外傷			急性硬膜外血腫、急性硬膜下血腫、脳挫傷、等							
6	脳腫瘍			脳実質内腫瘍、脳実質外腫瘍、神経皮膚症候群、等							
7	脊髄・脊椎疾患			脊髄空洞症、脊髄腫瘍、脊髄半切症候群、等							
8	機能的脳神経外科			片側顔面けいれん、三叉神経痛、不随意運動、等							
9	先天異常			二分頭蓋、二分脊椎、等							
10	中枢神経系の感染症			髄膜炎、脳炎、脳膿瘍、等							
11	障害部位と神経症状 1			錐体路障害、錐体外路障害、等							
12	障害部位と神経症状 2			頭蓋内圧亢進、脳ヘルニア、等							
13	障害部位と神経症状 3			意識障害、高次脳機能障害、等							
14	まとめ 1			問題を解説しながら疾患の理解を深める							
15	まとめ 2			問題を解説しながら疾患の理解を深める							
準備学習（予習復習）の具体的な内容		教科書を読んでおく。講義ノートを復習する。									
成 績 評 価		☒ 定期試験 （ 100 % ） ☐ 実技試験 （ % ） ☐ 小テスト （ % ） ☐ レポート （ % ） ☐ 課題 （ % ） ☐ 発表 （ % ） ☐ その他 （ ）									
教 科 書		標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 神経内科学 第5版：医学書院									
参 考 書		病気がみえる vol.7 脳・神経：メディックメディア									
授業の留意点・備考		私語を慎み周囲の人に迷惑をかけない。									

学科	理学療法学科	年次	2	開講期	前期	単位数	2	時数	30	授業形態	講義
区分	専門基礎分野	教育内容	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進					選択・必修		必修	
担当教員の実務経験		精神科病院での臨床経験を活かし、実際の臨床像を交えながら、症候・疾患・治療について講義を行う									
授 業 概 要		リハビリテーション実践の場で必要とされる精神機能や精神症状を基本として、必要な精神疾患の概念や疫学、症状、治療など基本的事項について学ぶ。									
到 達 目 標		①精神医学の概要を説明することができる ②精神障害の成因と分類について説明することができる ③精神機能の障害と精神症状について説明することができる ④精神疾患について説明することが出来る									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	オリエンテーション 精神医学とは			本講義のオリエンテーション、精神医学の歴史、精神障害に関わる概念、精神障害の成因、精神障害の分類について学ぶ							
2	精神機能の障害と精神症状①			精神機能の障害と精神症状、意識・知能・性格・記憶とその障害を学ぶ							
3	精神機能の障害と精神症状②			感情、意志・欲動とその障害を学ぶ							
4	精神機能の障害と精神症状③			知覚・思考とその障害、病識を学ぶ							
5	統合失調症及びその関連障害①			統合失調症の疫学・成因、病態・精神症状の特徴を学ぶ							
6	統合失調症及びその関連障害②			統合失調症の病型、経過と予後、治療とリハビリテーションについて学ぶ							
7	気分（感情）障害①			うつ状態、躁状態における症状や精神機能の障害について学ぶ							
8	気分（感情）障害②			病型による経過と予後、治療について学ぶ							
9	認知症とその特徴			定義と分類、基本症状と随伴症状、大脳皮質の変性疾患（アルツハイマー病、ピック病、レビー小体型認知症、血管性認知症）について学ぶ							
10	神経症性障害とその特徴			神経症性障害の概念、類型とその症状をふくめた特徴について学ぶ							
11	精神作用物質による精神および行動の障害			精神作用物質による障害の定義、アルコール関連精神障害、薬物依存による精神障害、治療と回復について学ぶ							
12	パーソナリティ障害 精神遅滞			成人のパーソナリティの障害、精神遅滞の概念、疫学、頻度の高い精神遅滞について学ぶ							
13	てんかん			定義と概念、疫学、てんかんの発作症状と精神疾患、てんかんにともなう精神障害、経過と予後、てんかんの治療について学ぶ							
14	生理的障害および身体的要因に関連した障害			摂食障害（神経性無食欲症・神経性大食症）、睡眠障害について学ぶ							
15	まとめ			これまでの授業内容を復習し理解を深める							
準備学習(予習復習)の具体的な内容		広範囲に渡る講義であるため復習をその都度行うこと。									
成 績 評 価		☒ 定期試験（100％） ☐ 実技試験（ ％） ☐ 小テスト（ ％） ☐ レポート（ ％） ☐ 課題（ ％） ☐ 発表（ ％） ☐ その他（ ）									
教 科 書		標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 精神医学（第4版）医学書院									
参 考 書		現代臨床精神医学（改訂第11版） 金原出版 精神障害の理解と精神科作業療法 第3版（中央法規）									
授業の留意点・備考											

学科	理学療法学科	年次	2	開講期	後期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義
区分	専門基礎分野	教育内容	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		小児科医としての臨床・教育・研究の経験および行政での公衆衛生医師としての経験を活かして、小児の医療、関連する保健福祉の制度等について講義を行うことができる。									
授 業 概 要		小児の特徴は常に成長・発達していることである。出生から思春期にいたるまでの各時期の身体的特徴や機能の特徴、各身体領域の主な疾患、重要な疾患について、また疾患と障害との関連性について講義を行う。									
到 達 目 標		小児科学について学習することによりリハビリテーションに対する幅広い視野をもち、小児リハビリテーションに活かすことができるよう小児科学的基礎的な知識を習得する。									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	小児の成長と発達1			小児の各時期の身体発育、栄養などの特徴や特殊性とその評価法、主要な病態生理について学ぶ							
2	小児の成長と発達2			小児の各時期の運動機能の発達や精神発達、循環器、呼吸器などの生理的機能の発達の特徴とその評価法、主要な病態生理について学ぶ							
3	症候の病態生理、診断と治療			小児によくみられる症候の病態生理、診断、治療、事故・応急処置について学ぶ							
4	小児保健			小児保健に関する統計、社会的資源、母子保健、予防接種、学校保健、児童虐待などについて学ぶ							
5	新生児・未熟児と疾患			主な周産期異常、低出生体重児、新生児仮死、新生児の呼吸障害、中枢神経障害等の病態生理、その評価法、治療などについて学ぶ							
6	先天異常と遺伝病			遺伝子・染色体異常、先天代謝異常症、母子感染症などの主な疾患、病態生理について学ぶ							
7	神経・筋疾患、骨系統疾患1			主な神経疾患、けいれん性疾患、発達障がい、運動器疾患、骨系統疾患などについて学ぶ							
8	神経・筋疾患、骨系統疾患2			主な神経疾患、けいれん性疾患、発達障がい、運動器疾患、骨系統疾患などについて学ぶ							
9	循環器、腎・泌尿器系疾患			小児の循環器、腎機能の生理的な特徴、主な疾患、病態生理について学ぶ							
10	内分泌・代謝疾患			小児の内分泌・代謝の生理的な特徴、主な疾患、病態生理について学ぶ							
11	消化器疾患、血液疾患、腫瘍性疾患			主な消化器疾患、血液疾患、腫瘍性疾患について学ぶ							
12	感染症総論・各論			小児の感染症について概説し、主な感染症、重要な感染症について学ぶ							
13	免疫・アレルギー疾患、自己免疫疾患			免疫システムのメカニズムについて概説し、主なアレルギー疾患、自己免疫疾患について学ぶ							
14	重症心身障害、医療的ケア児、その他			重症心身障がい児、医療的ケア児の特徴や現状、身体管理、その他の小児疾患などについて学ぶ							
15	定期試験										
準備学習（予習復習）の具体的な内容		教科書および配布資料を基に学習すること									
成績評価		☒ 定期試験 （ 100 % ） ☐ 実技試験 （ % ） ☐ 小テスト （ % ） ☐ レポート （ % ） ☐ 課題 （ % ） ☐ 発表 （ % ） ☐ その他 （ ）									
教科書		標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 小児科学 第6版（医学書院）									
参考書		特になし。									
授業の留意点・備考		担当教員により授業計画は前後する。									

科目名	リハビリテーション医学	担当教員	非常勤講師
-----	-------------	------	-------

学科	理学療法学科	年次	3	開講期	前期	単位数	1	時数	30	授業形態	演習
区分	専門基礎分野	教育内容	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		医師としてリハビリテーションに携わってきた経験をもとに、リハビリテーション医学とは何か、疾患別のリハビリテーションについての講義を行う。									
授 業 概 要		リハビリテーション医学とは何か、成り立ちと今後について、さらに基礎となる学問体系を概説し、リハビリテーションで対象となる疾患に対する診断や治療の進め方を解説する。									
到 達 目 標		リハビリテーションの一連の流れ、概略、歴史について説明できる。 疾患別のリハビリテーションを説明できる。									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	リハビリテーション医学とは何か			リハビリテーション概論についての理解（リハビリテーションの理念や領域、チーム医療等）							
2	リハビリテーション医学とは何か			リハビリテーション概論についての理解（リハビリテーションの理念や領域、チーム医療等）							
3	リハビリテーション医学とは何か			リハビリテーション概論についての理解（リハビリテーションの理念や領域、チーム医療等）							
4	リハビリテーション医学とは何か			リハビリテーション概論についての理解（リハビリテーションの理念や領域、チーム医療等）							
5	脳卒中のリハビリテーション			疾患についての理解、病期別のリハビリテーション、具体的なアプローチ							
6	パーキンソン症候群のリハビリテーション			パーキンソン病とは、臨床症状、障害評価、治療とリハビリテーション							
7	神経変性疾患、神経筋疾患のリハビリテーション			疾患についての理解、一般的治療と薬物療法、リハビリテーション治療の概要							
8	脊髄損傷のリハビリテーション			脊髄損傷の症状、機能障害の評価、リハビリテーションプログラム							
9	四肢切断のリハビリテーション			四肢切断の症状、機能障害の評価、リハビリテーションプログラム							
10	運動器疾患のリハビリテーション			運動器疾患の症状、機能障害の評価、リハビリテーションプログラム							
11	関節リウマチのリハビリテーション			疾患についての理解、一般的治療の流れ、リハビリテーション治療の要点							
12	脳性麻痺のリハビリテーション			脳性麻痺の症状、機能障害の評価、リハビリテーションプログラム							
13	心筋梗塞のリハビリテーション			心筋梗塞の症状、機能障害の評価、リハビリテーションプログラム							
14	呼吸器疾患のリハビリテーション			呼吸器疾患の症状、機能障害の評価、リハビリテーションプログラム							
15	生活習慣病のリハビリテーション			生活習慣病の症状、機能障害の評価、リハビリテーションプログラム							
準備学習（予習復習）の具体的な内容		教科書や配布資料をよく読み復習すること。									
成 績 評 価		☒ 定期試験 （ 50 % ） ☐ 実技試験 （ % ） ☐ 小テスト （ % ） ☒ レポート （ 50 % ） ☐ 課題 （ % ） ☐ 発表 （ % ） ☐ その他 （ ）									
教 科 書		標準リハビリテーション医学 第4版									
参 考 書		適宜資料を配布									
授業の留意点・備考		特記なし									

学科	理学療法学科	年次	2	開講期	後期	単位数	2	時数	30	授業形態	講義・演習
区分	専門基礎分野	教育内容	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進					選択・必修	必修		
担当教員の実務経験		救急医療現場やアメリカ心臓協会主催の1・2次救命方法のインストラクターと係わった経験を活かし、リハビリテーションにおける理学・作業療法実施時の急変や患者様の症状に対応してきた経験について講義・演習を行うことができる。									
授 業 概 要		緊急を要する病態や疾患・外傷の基礎的な知識と考え方を学び心肺蘇生・応急処置について学習する。また、心肺蘇生・応急処置の方法について実習・演習を行い学ぶ。									
到 達 目 標		①緊急を要する病態や疾患・外傷の基礎的な知識と考え方を学び心肺蘇生・応急処置について説明できる。 1) 救急医療体制について説明できる。 2) 症候群（意識障害、けいれん、失神、めまい、呼吸困難、胸痛、動機、急性肺障害・急性呼吸促進症候群、嘔気・嘔吐、頭痛、咽頭痛、腰背部痛、全身性炎症反応症候群）について説明できる。 ②心肺蘇生・応急処置の方法について説明でき、的確に実施できる。									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	概要・救急医療体制 1			救急医療体制（インホスピタル・プレホスピタル）							
2	概要・救急医療体制 2			外傷医療・災害医療							
3	心電図 1			不整脈（頻拍）、動悸							
4	心電図 2			不整脈（徐脈）、失神、めまい							
5	症候群 1			意識障害、血圧と心拍数の関係							
6	症候群 2			急性脳卒中、頭痛、嘔吐・吐気、めまい							
7	症候群 3			胸痛（急性冠症候群）、胸痛（その他）							
8	症候群 4			腰背部痛、呼吸困難、咽頭痛、全身性炎症反応症候群							
9	応急手当			止血、創傷、熱傷、感電							
10	心肺蘇生 1			成人BLS（1人法）							
11	心肺蘇生 2			成人BLS（2人法）、AED、チームダイナミクス							
12	心肺蘇生 3			小児・乳児BLS（1人法）							
13	心肺蘇生 4			小児・乳児BLS（2人法）							
14	心肺蘇生 5			窒息、補助呼吸、演習							
15	心肺蘇生 6			BLS実技演習と実技テスト							
準備学習（予習復習）の具体的な内容											
成 績 評 価		☒ 定期試験（100%） ☐ 実技試験（%） ☐ 小テスト（%） ☐ レポート（%） ☐ 課題（%） ☐ 発表（%） ☐ その他（%）									
教 科 書		BLS プロバイダーマニュアル									
参 考 書											
授業の留意点・備考		実践の現場で活躍されている方に講師を依頼しているので、不明な点は積極的に質問して貴重な時間を有効活用すること。また、グループワークを行う場合は、ディスカッション等に積極的に参加すること。									

科目名	画像診断学	担当教員	椎木賢悟/小森隆司/岡村暢也
-----	-------	------	----------------

学科	理学療法学科	年次	2	開講期	後期	単位数	2	時数	30	授業形態	講義
区分	専門基礎分野	教育内容	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進					選択・必修		必修	
担当教員の実務経験		救急病院から療養病院まで勤務経験があり、専門技師として病院内のスタッフにも研修を行っており、現在実際行われている、検査方法、画像について、症状、受傷経緯もふまえて、画像評価について説明を行うことができる。									
授 業 概 要		臨床現場で行われている、X線写真 C T M R I 超音波画像の基本的な原理、画像の成り立ちを理解する。教科書の理解、パワーポイントでの各疾患の画像の見え方を理解する。解剖学的位置と画像上での位置関係を理解する。									
到 達 目 標		各モダリティの画像の区別、見方を理解し、画像評価を行えるようになり、疾患の影響による機能的、能力的予後を予測しリハビリテーション計画に反映させられることを目標とする。									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	画像検査の実際			現在病院で行われている様々な検査について見識を高める、AI診断							
2	放射線検査の基本			放射線の様々な検査方法、画像について理解をしていく							
3	画像解剖学 画像の見えかた			各種検査における、画像の基本的見方、左右、上下を理解する							
4	C T 検査 原理、画像の成り立ち			C T 検査の方法、時間、画像処理により様々な画像があることを学ぶ							
5	C T 検査 基本的画像			健常者の画像の見えかたを各部位ごとに学んでいく							
6	C T 検査 特徴的疾患画像			頭部の出血の変化、肺炎、イレウス、骨折の画像について学ぶ							
7	臨床と C T 画像			C T 検査が優先される症例、画像について特徴、理由を学ぶ							
8	M R I 検査 画像の基本			M R I の原理 磁場、電磁波 禁忌事項について学ぶ							
9	M R I 検査 基本的画像			頭部を中心に正常画像の見え方 T 1、T 2 の画像の違いを理解する							
10	M R I 検査 特徴的疾患画像			脳梗塞の画像の見え方、ヘルニア、筋、腱の症例を理解する							
11	臨床と MRI 画像			検査時間、M R I で診断がつく症例について理解する							
12	頭部の疾患			C T、M R I の画像を並べて見る事により症例の画像評価を行う							
13	四肢の疾患			X線画像を中心にリウマチ、骨折、手術後の変化を学ぶ							
14	脊椎 脊髄の疾患			症状による骨折、ヘルニア、腫瘍などの症例を学ぶ							
15	胸部、腹部の疾患 質問対応			肺炎 イレウスなどの症例、画像についての質問対応を受けます							
準備学習（予習復習）の具体的な内容		教科書を読み、事前に画像を見ていてください。また当日のスライドでわかりにくかったところ講義後や次の講義の前に質問を行ってください。									
成 績 評 価		☒ 定期試験 (90 %) ☐ 実技試験 (%) ☒ 小テスト (10 %) ☐ レポート (%) ☐ 課題 (%) ☐ 発表 (%) ☐ その他 ()									
教 科 書		PT・OTのための画像診断マニュアル：医学教育出版社 PT・OTのための画像のみかた 第2版：金原出版									
参 考 書											
授業の留意点・備考		シラバス、教科書にそって行いますが、臨床画像等はスライドを作成してきますので、気になる症例や、わかりにくいところはどんどん質問を行ってください。教科書にない部分は必ずノートを取るようにしてください。（講義中にノートを取る箇所は指示を行います）									

科目名	栄養・薬理					担当教員	中村 優希				
-----	-------	--	--	--	--	------	-------	--	--	--	--

学科	理学療法学科	年次	2	開講期	後期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義
区分	専門基礎分野	教育内容	基礎医学						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		薬局薬剤師としての経験を活かし、他のコメディカルが実務で活用しやすい実用的な知識について講義出来る									
授 業 概 要		生理学的な基礎知識を基盤に薬の特徴・臨床上の注意点について学習する									
到 達 目 標		生理学的な基礎的な事項を理解した上で薬学的な知識、薬の特徴・注意点を説明できる									
授 業 計 画											
回	テーマ					授 業 内 容					
1	薬理 ・中枢神経系など					中枢系に作用する薬剤について学ぶ					
2	薬理 ・消化器系・消毒液					胃腸に作用する薬剤、消毒液の違いについて学ぶ					
3	薬理 ・剤型、受容体、動態学					特徴的な剤型、基本的な受容体、血中濃度などの動態学の基礎を学ぶ					
4	薬理 ・抗生剤、抗アレルギー薬					抗生剤・抗菌薬の基礎、抗アレルギー薬の世代別の特徴について学ぶ					
5	薬理 ・ヘルペス、AD/MD、COPD、禁煙、嫌酒薬					生活習慣が密接に関わる薬について学習する。社会問題的な薬剤について触れる					
6											
7											
8											
9											
10											
11											
12											
13											
14											
15											
準備学習（予習復習）の 具体的な内容		生化学的な知識、人体の働きについて教科書で学習しておく									
成 績 評 価		☒ 定期試験 （ 100 % ） ☐ 実技試験 （ % ） ☐ 小テスト （ % ） ☐ レポート （ % ） ☐ 課題 （ % ） ☐ 発表 （ % ） ☐ その他 （ ）									
教 科 書		講師の先生が資料を用意									
参 考 書		わかりやすい薬理学 第3版 編集 安原 一									
授業の留意点・備考		毎回の小テストは必ず復習しておくこと									

科目名	栄養・薬理					担当教員	中村 繁良				
-----	-------	--	--	--	--	------	-------	--	--	--	--

学科	理学療法学科	年次	2	開講期	後期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義
区分	専門基礎分野	教育内容	基礎医学					選択・必修		必修	
担当教員の実務経験		大学卒業後は製薬会社にて薬の研究を携わっていました。38才から薬剤師としての業務を始めた。現在は、地域包括ケア構築に向けて熊本県・熊本市の会議に参加し、他職種との連携を図っている。もちろん、熊本市主催のリハビリテーション協議会にも参加している。 現状何が必要か今後何を実施すべきかの講義をすることもできる。									
授 業 概 要		患者がどういふ薬を服用しているかということは、理学療法・作業療法・言語聴覚療法士にとっても大切なことから、いろいろな疾患の病態生理ならびに代表的な治療薬について学ぶ。									
到 達 目 標		各疾患の病態生理を説明できる。 代表的な治療薬の名前を説明できる。漢方薬について学び、どの病態に効くか説明できる。 健康食品の現状と問題点を理解した上で、適正な判断・使用方法について説明できる。 対象患者は高齢者が多いことから、お薬の注意事項を説明できる。									
授 業 計 画											
回	テーマ					授 業 内 容					
1	漢方薬について					漢方概論について学び、漢方薬について適切な使い方について学習する。					
2	循環器・血液系等について					心臓、血管、血液について学び、それらに対する治療薬について学習する。					
3	代謝系・骨粗鬆症について					糖尿病、脂質異常症、甲状腺疾患、骨粗鬆症等について学び、それに対する治療薬について学習する。					
4	高齢者への投与、薬の使用で注意することについて					特に高齢者は臓器機能が弱まり、副作用の発現率が上がる可能性が高くなるために注意事項について学習する。					
5	健康食品・サプリメントについて					保健機能食品制度、健康食品の問題点、医薬品との違い、医薬品との相互作用等について学習し、健康食品の今後の展開：健康食品のあるべき姿についても学習する。					
6											
7											
8											
9											
10											
11											
12											
13											
14											
15											
準備学習（予習復習）の具体的な内容		講義ノート（パワーポイント）を復習する									
成 績 評 価		☒ 定期試験 （ 40 % ☐ 実技試験 （ % ☐ 小テスト （ % ☐ レポート （ % ☐ 課題 （ % ☐ 発表 （ % ☐ その他 （ %									
教 科 書		講師の先生が資料を用意									
参 考 書											
授業の留意点・備考											

科目名	栄養・薬理					担当教員	富永 志保				
-----	-------	--	--	--	--	------	-------	--	--	--	--

学科	理学療法学科	年次	2	開講期	後期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義
区分	専門基礎分野	教育内容	基礎医学					選択・必修	必修		
担当教員の実務経験		管理栄養士として病院や老健で勤務した経験を活かし、リハビリテーションを実施していくうえで必要な栄養素等について講義できる。									
授 業 概 要		臨床現場でPT・OT・STによる機能訓練を行う患者の多くが高齢者であり、リハビリを施行する患者は昨今低栄養素およびその可能性がある。ADL・QOLをUPさせるためには適切な栄養管理が必要である。その知識を習得するための学習を行う。									
到 達 目 標		栄養素の基礎、三大・五大栄養素について学ぶことにより病気の発症・治療・食事の関係について理解できる。又、自分の食生活について振り返り、自己管理できるよう学ぶことが出来る。									
授 業 計 画											
回	テーマ					授 業 内 容					
1	栄養学の基本知識					知っているようで意外と知らない栄養の基礎知識について学ぶ					
2	栄養学の最新情報①					押さえておきたい基礎知識から栄養学の「今」を学ぶ					
3	栄養学の最新情報②					押さえておきたい基礎知識から栄養学の「今」を学ぶ					
4	栄養素の働きについて					5大栄養素から機能性食品まで。働きや接種基準まで。					
5	症状別・栄養素の取り方					栄養・食の視点から身体の不調や病気への対策を学ぶ。					
6											
7											
8											
9											
10											
11											
12											
13											
14											
15											
準備学習（予習復習）の具体的な内容		講義資料を復習する									
成 績 評 価		☒ 定期試験 （ 90 %） ☐ 実技試験 （ %） ☐ 小テスト （ %） ☒ レポート （ 10 %） ☐ 課題 （ %） ☐ 発表 （ %） ☐ その他 （ ）									
教 科 書		講師の先生が資料を用意									
参 考 書		リハビリテーションに役立つ栄養学の基礎(医歯薬出版) よくわかる栄養学の基本としくみ(秀和システム)									
授業の留意点・備考		わからないことを積極的に質問してほしい。 とろみ剤や流動食の試飲等予定しています。積極的に参加してください。									

科目名	リハビリテーション概論	担当教員	有働 正二郎・岩北 耕三
-----	-------------	------	--------------

学科	理学療法学科	年次	1	開講期	前期	単位数	2	時数	30	授業形態	講義
区分	専門基礎分野	教育内容	保健医療福祉とリハビリテーションの理念						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		10年以上の臨床経験を活かし、リハビリテーションの概要について指導することが出来る。									
授 業 概 要		リハビリテーションの理念と基本原理及びその仕組みについて学習する。病気・障害・発達・心理等の基本的内容について教授する。その後、リハビリテーションの諸段階及びリハビリテーションの過程の概要を学習する。リハビリテーション概論で学習した内容を基盤として、各専門分野の理解が深まることを目的とする。									
到 達 目 標		リハビリテーションの概念理解が出来る。病気・障害・発達の概念理解が出来る。人間活動の階層構造が理解出来る。国際生活機能分類の概略が理解出来る。神経心理学・臨床心理学とその内容について説明出来る。リハビリテーションの過程と諸段階での課題について説明出来る。医学的・教育的・職業的・社会的・高齢者の諸相について説明出来る。リハビリテーションのプロセスと手段について説明出来る。									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	オリエンテーション 障害者と社会			理学療法（士）及び作業療法（士）・言語聴覚（士）は法律にどのように規定されているのかを学ぶ （有働）							
2	リハビリテーションの定義と目的			リハビリテーションの言葉の由来や意味について学び、リハビリテーションの目的の変遷や社会制度の変革について学ぶ （有働）							
3	病気とは			病気の捉え方の歴史的変遷を学ぶ （有働）							
4	障害とは			障害のモデル、特に国際障害分類（ICIDH）・国際生活機能分類（ICF）について学ぶ （有働）							
5	患者と障害者 慢性疾患モデル			患者と疾病行動や役割について学び、科学的根拠に基づく医療（EBM）やクリニカルパス、二次的障害や予防医学について学ぶ （有働）							
6	機能志向的アプローチ ヘルスケア・システムと包括的ケア			機能志向的アプローチについて学び、ヘルスケアの概要について学ぶ （有働）							
7	発達とは 人間活動			発達の定義を知り、発達研究や発達理論について概要を学ぶ （有働）							
8	リハビリテーションと心理1			心理アセスメントの概要について学ぶ 心理的機能とその障害について（意識・注意・記憶）学ぶ （有働）							
9	リハビリテーションと心理2			心理的機能とその障害について（遂行機能・認知・言語・行為・知能・認知リハ）学ぶ （有働）							
10	リハビリテーションと心理3			心理的適応の過程について学ぶ （有働）							
11	リハビリテーションの過程 リハビリテーションの諸段階			評価とはなにか、評価学の重要性を学ぶ 医学的・職業的・社会的・教育的リハビリテーション （岩北）							
12	チームアプローチ			リハ専門職の役割 （岩北）							
13	機能障害			疾病と外傷、先天異常及び精神障害 （岩北）							
14	地域リハビリテーションと高齢者対策			老人福祉法・老人保健法・介護保険制度 （岩北）							
15	まとめ			これまでの授業内容を復習し理解を深める							
準備学習（予習復習）の 具体的な内容		教科書のすべてを授業では行えません。講義が終わった項目までは、当日、教科書を読み直し復習を充分に行うこと。									
成 績 評 価		☒ 定期試験 （ 90 % ） ☐ 実技試験 （ % ） ☐ 小テスト （ % ） ☒ レポート （ 10 % ） ☐ 課題 （ % ） ☐ 発表 （ % ） ☐ その他 （ ）									
教 科 書		入門 リハビリテーション概論 第7版 中村隆一 編 医歯薬出版 リハビリテーション総論 診断と治療社									
参 考 書		なし									
授業の留意点・備考		リハビリテーションを学習する上での基本となる科目であることを充分認識しておくこと。									

学科	理学療法学科	年次	2	開講期	前期	単位数	2	時数	30	授業形態	講義
区分	専門基礎分野	教育内容	保健医療福祉とリハビリテーションの理念						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士として、長年にわたる福祉の現場での実践経験を踏まえて、より具体的な講義、GWなどの演習を行うことができる。									
授 業 概 要		保健医療福祉論の中の福祉に関して、高齢者、障害者、児童の福祉について、年金や生活保護などの金銭的な面、就労支援、権利擁護の考え方、制度に関して学ぶ。									
到 達 目 標		クライアントを、生活する人としてとらえ、その暮らしに関わる様々な社会福祉の基礎知識を得て、社会福祉制度に関して理解を深め、今、社会福祉がどのような現状にあり、課題を抱えているのか知り、クライアントを支援するための知識を得る。									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	オリエンテーション 障害者福祉①			授業のオリエンテーション。「福祉とは」考えてみる。							
2	社会と生活のしくみ			「生活」について、家族、地域、社会の視点で学ぶ。地域共生社会について学ぶ。							
3	日本の社会保障制度①			社会保障の基本的な考え方を学ぶ。日本の社会保障制度の歴史を学ぶ。							
4	日本の社会保障制度② 現代社会と社会保障制度			日本の社会保障制度の歴史を知る。現代社会の特徴を学び、今後の社会保障の在り方について考える。							
5	社会保障制度 障がい者保健福祉①			現代社会の特徴を学び、今後の社会保障の在り方について考える。 障がい者福祉の現状について学ぶ。							
6	障がい者保健福祉②			障がい者福祉の動向。障がい者福祉に関する法体系について学ぶ。							
7	障害者総合支援制度			障害者総合支援法のしくみを学ぶ。							
8	権利擁護			権利擁護について学ぶ。虐待防止法の考え方、法制度について学ぶ。							
9	多職種連携とチーム医療			多職種連携が求められる背景・その目的を学習する。 多職種を理解し医療職の専門性について学習する。							
10	チーム・アプローチにおける課題と対応			チームビルディング（組織化）の4場面と3要素について学習する。PDCAサイクルと目標と共有化、役割分担、リスクマネジメントについて学習する。							
11	多職種連携の実践（急性期・在宅）			急性期医療・在宅医療における多食連携のポイントを学習する。							
12	自分のコミュニケーションの特徴を知る 介護予防教室の企画・実施①			自分のコミュニケーションの特徴を知り、グループワークを行う。介護予防教室の企画・実施を通して、多職種連携について学習する。							
13	介護予防教室の企画・実施②			自分のコミュニケーションの特徴を知り、グループワークを行う。介護予防教室の企画・実施を通して、多職種連携について学習する。							
14	介護予防教室の企画・実施③			自分のコミュニケーションの特徴を知り、グループワークを行う。介護予防教室の企画・実施を通して、多職種連携について学習する。							
15	まとめ			これまでの授業内容を復習し理解を深める。							
準備学習（予習復習）の具体的な内容		事前に教科書を読む									
成 績 評 価		☐ 定期試験 （ 100 % ） ☐ 実技試験 （ % ） ☐ 小テスト （ % ） ☐ レポート （ % ） ☐ 課題 （ % ） ☐ 発表 （ % ） ☐ その他 （ ）									
教 科 書		2023年度版社会保障制度指差しガイド いとう総研編 日総研 リハベシック コミュニケーション論・多職種連携論 最新 介護福祉士養成講座2 社会の理解（中央法規）									
参 考 書											
授業の留意点・備考		・グループワークを行う際は、積極的に参加すること。 ・授業中の私語はしないこと。									

科目名	理学療法概論						担当教員	楠本 敏文			
-----	--------	--	--	--	--	--	------	-------	--	--	--

学科	理学療法学科	年次	1	開講期	前期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義
区分	専門分野	教育内容	基礎理学療法学						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		医療・介護保険領域において理学療法業務に携わった経験を持つ教員が、理学療法の基礎となる知識について講義を行う。									
授 業 概 要		理学療法を科学的に理解するとともに、臨床において効果的な理学療法を実践する上で必要となる理学療法の基本的事項について学ぶ。									
到 達 目 標		理学療法（学）の概論について理解する。									
授 業 計 画											
回	テーマ				授 業 内 容						
1	理学療法士の仕事				理学療法の概要について理解する						
2	理学療法士の歴史と現状				理学療法の起原や歴史、現状について理解する						
3	理学療法士の役割				理学療法に関わる法令・制度から職務について理解する						
4	リハビリテーションと関連職種				リハビリテーションと代表的な関連職種について理解する						
5	理学療法の過程				理学療法における評価・治療の大まかな流れについて理解する						
6	理学療法モデル				国際的な疾病および障害の概念・分類について理解する						
7	理学療法士の職域				理学療法士の活躍場面について理解する						
8	各病期の理学療法				各病期における理学療法の意義・目的について理解する						
9	理学療法の対象				理学療法の対象となる疾患について理解する						
10	診療報酬と労働対価				理学療法の診療報酬と労働対価について理解する						
11	職能団体				理学療法士の団体と役割について理解する						
12	理学療法士の教育課程				理学療法士の教育課程と生涯学習への姿勢について理解する						
13	理学療法士の倫理と適正				職業倫理と接遇について理解する						
14	理学療法の実際				理学療法の実際を理解する						
15	定期試験				筆記試験						
準備学習（予習復習）の具体的な内容		教科書等を用いて授業内容を事前に確認し、受講後は講義内容の振り返りを必ず実施すること。									
成 績 評 価		☒ 定期試験 （ 90 % ） ☐ 実技試験 （ % ） ☒ 小テスト （ 10 % ） ☐ レポート （ % ） ☐ 課題 （ % ） ☐ 発表 （ % ） ☐ その他 （ ）									
教 科 書		PTスタートガイド 基礎理学療法概論：メジカルビュー社									
参 考 書											
授業の留意点・備考		単なる暗記ではなく、理解に繋がるイメージづくりに努め、能動的かつ積極的な学習姿勢で臨むこと。									

科目名	理学療法セミナー I	担当教員	PT学科教員
-----	------------	------	--------

学科	理学療法学科	年次	1	開講期	前期	単位数	2	時数	60	授業形態	講義・演習
区分	専門分野	教育内容	基礎理学療法学						選択・必修	必修	

担当教員の実務経験	様々な分野での業務経験を活かし講義を行う。										
授 業 概 要	理学療法士の職業内容や職域、職業観を学ぶだけでなく、医療人や社会人として必要な知識や社会性を学習していく。										
到 達 目 標	・理学療法士を目指す学生として規則やマナーの重要性を理解することができる。 ・コミュニケーションの重要性を理解することができる。 ・理学療法士としてのプロフェッショナルリズムの基礎を身につけることができる。										

授 業 計 画											
---------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	本講義の授業概要の説明と導入、クラスの集いを通し仲間との連携を深める。
2	オリエンテーション	本講義の授業概要の説明と導入、クラスの集いを通し仲間との連携を深める。
3	理学療法士のコミュニケーション論	グループワークにてコミュニケーションについてディスカッションを行う。
4	理学療法士の仕事について①	理学療法の対象について学習する。
5	理学療法士の仕事について②	理学療法士の仕事についてグループワークにてディスカッションを行う。
6	理学療法士の活躍の場所①	理学療法士が活躍する分野を理解し、理学療法士の役割を知る。
7	理学療法士の活躍の場所②	理学療法士の活躍の場所についてグループワークでディスカッションを行う。
8	理学療法士の資質および学生に求められるもの①	社会人基礎力、職業倫理、学校や臨床現場にて求められていることを知る。
9	理学療法士の資質および学生に求められるもの②	理学療法士の資質についてグループワークにてディスカッションを行う。
10	医療人としての接遇とマナー①	医療現場における接遇について講義を通し学習する。
11	医療人としての接遇とマナー②	医療現場における接遇について演習を通し学習する。
12	個人情報の管理①	個人情報保護法について基本事項を学習し、記録の意義や、取り扱いなどの留意事項を学習する。
13	個人情報の管理②	個人情報の管理について事例を通しレポートを作成する。
14	医療事故とリスクマネジメント①	医療事故に関する法的責任や医療事故の実態を学習し、医療におけるリスクマネジメントの基本的概念を知る。
15	医療事故とリスクマネジメント②	医療事故とリスクマネジメントについて事例を通しレポートを作成する。

授 業 計 画		
回	テーマ	授 業 内 容
16	宿泊研修オリエンテーション	阿蘇宿泊研修オリエンテーションを行い、医療・福祉に携わるセラピストを目指す学生としての自覚を養うとともに協調性の意義を学習する。
17	援助的コミュニケーション①	阿蘇宿泊研修において、接遇およびコミュニケーション法を学習する。
18	援助的コミュニケーション②	阿蘇宿泊研修において、接遇およびコミュニケーション法を学習する。
19	援助的コミュニケーション③	阿蘇宿泊研修において、接遇およびコミュニケーション法を学習する。
20	宿泊研修振り返り	阿蘇宿泊研修を振り返り、「私が目指すPT像」レポート作成する。
21	見学実習について①	実習の手引きを用い、実習に向けて必要な態度・知識・技術を講義する。
22	見学実習について②	実習の手引きを用い、実習に向けて必要な態度・知識・技術を講義する。
23	基本動作の介助方法①	起居動作についての介助方法を講義・演習を通し学習する。
24	基本動作の介助方法②	歩行についての介助方法を講義・演習を通し学習する。
25	基本動作の介助方法③	車椅子についての介助方法を講義・演習を通し学習する。
26	基本動作の介助方法④	移乗動作についての介助方法を講義・演習を通し学習する。
27	見学実習の具体的準備①	実習直前のオリエンテーション
28	見学実習の具体的準備②	書類作成と確認
29	見学実習の具体的準備③	実習中の注意事項
30	まとめ	これまでの授業内容を復習し理解を深める
準備学習（予習復習）の具体的な内容		特記なし
成 績 評 価	☐ 定期試験 （ % ） ☐ 実技試験 （ % ） ☐ 小テスト （ % ） ☒ レポート （ 50 % ） ☒ 課題 （ 50 % ） ☐ 発表 （ % ） ☐ その他 （ ）	
教 科 書	随時講義資料を配布する。	
参 考 書	特になし	
授業の留意点・備考	積極的に授業に参加し、自ら「考え」「発言」する習慣を付けること。 実習などに関わる内容も多いため必ず必要事項をメモをとる習慣と忘れ物が無いように注意する。 演習時は福祉用具などの準備物も多いため、クラス全体で協力して準備・片付けを行う。	

科目名	理学療法セミナーⅡ	担当教員	PT学科教員
-----	-----------	------	--------

学科	理学療法学科	年次	1	開講期	後期	単位数	2	時数	60	授業形態	講義・演習
区分	専門分野	教育内容	基礎理学療法学						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		様々な分野での業務経験を活かし講義を行う。									
授 業 概 要		理学療法士に必要な不可欠となる知識・技術の中で、1年次に学ぶ専門基礎分野の内容をより臨臨床的につなげた学習を行うことにより、次学年の学習や国家試験に対応できる学習能力を身につける。									
到 達 目 標		・1年次に学ぶ専門基礎分野（特に解剖学・運動学・生理学）などについて理解を深める。 ・国家試験の問題を解き、調べ学習を行い、調べた内容を発表し理解を深める。 ・解剖学や運動学について実際に標本や体表に触れる演習を通し包括的に理解を深める。									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	オリエンテーション			理学療法セミナーⅡの授業進行・予定をオリエンテーションし、学習の到達目標について説明する。							
2	骨・筋および軟部組織等の解剖、生理			模型などを用いて演習し復習する。							
3	骨・筋および軟部組織等の解剖、生理			模型などを用いて演習し復習する。							
4	骨・筋および軟部組織等の解剖、生理			模型などを用いて演習し復習する。							
5	骨・筋および軟部組織等の解剖、生理			模型などを用いて演習し復習する。							
6	骨・筋および軟部組織等の解剖、生理			模型などを用いて演習し復習する。							
7	神経系の解剖、生理			模型などを用いて演習し復習する。							
8	神経系の解剖、生理			模型などを用いて演習し復習する。							
9	神経系の解剖、生理			模型などを用いて演習し復習する。							
10	神経系の解剖、生理			模型などを用いて演習し復習する。							
11	神経系の解剖、生理			模型などを用いて演習し復習する。							
12	その他の解剖、生理			模型などを用いて演習し復習する。							
13	その他の解剖、生理			模型などを用いて演習し復習する。							
14	その他の解剖、生理			模型などを用いて演習し復習する。							
15	その他の解剖、生理			模型などを用いて演習し復習する。							

授 業 計 画		
回	テーマ	授 業 内 容
16	国家試験について	国家試験問題に触れ、学習方法についてのオリエンテーション
17	解剖学①	問題を解く、調査、シェア、アウトプット、要点を講義、確認問題を解くの流れで、復習を行い専門基礎分野の理解を深める。
18	解剖学②	問題を解く、調査、シェア、アウトプット、要点を講義、確認問題を解くの流れで、復習を行い専門基礎分野の理解を深める。
19	解剖学③	問題を解く、調査、シェア、アウトプット、要点を講義、確認問題を解くの流れで、復習を行い専門基礎分野の理解を深める。
20	解剖学④	問題を解く、調査、シェア、アウトプット、要点を講義、確認問題を解くの流れで、復習を行い専門基礎分野の理解を深める。
21	運動学①	問題を解く、調査、シェア、アウトプット、要点を講義、確認問題を解くの流れで、復習を行い専門基礎分野の理解を深める。
22	運動学②	問題を解く、調査、シェア、アウトプット、要点を講義、確認問題を解くの流れで、復習を行い専門基礎分野の理解を深める。
23	運動学③	問題を解く、調査、シェア、アウトプット、要点を講義、確認問題を解くの流れで、復習を行い専門基礎分野の理解を深める。
24	運動学④	問題を解く、調査、シェア、アウトプット、要点を講義、確認問題を解くの流れで、復習を行い専門基礎分野の理解を深める。
25	運動学⑤	問題を解く、調査、シェア、アウトプット、要点を講義、確認問題を解くの流れで、復習を行い専門基礎分野の理解を深める。
26	生理学①	問題を解く、調査、シェア、アウトプット、要点を講義、確認問題を解くの流れで、復習を行い専門基礎分野の理解を深める。
27	生理学②	問題を解く、調査、シェア、アウトプット、要点を講義、確認問題を解くの流れで、復習を行い専門基礎分野の理解を深める。
28	生理学③	問題を解く、調査、シェア、アウトプット、要点を講義、確認問題を解くの流れで、復習を行い専門基礎分野の理解を深める。
29	生理学④	問題を解く、調査、シェア、アウトプット、要点を講義、確認問題を解くの流れで、復習を行い専門基礎分野の理解を深める。
30	まとめ	これまでの授業内容を復習し理解を深める。
準備学習（予習復習）の具体的な内容		授業の予習・復習を十分に行うこと。
成 績 評 価		☐ 定期試験 （ %） ☐ 実技試験 （ %） ☐ 小テスト （ %） ☐ レポート （ 50 %） ☒ 課題 （ 50 %） ☐ 発表 （ %） ☐ その他 （ ）
教 科 書		なし
参 考 書		からだが見える 病気が見える 運動器・整形外科 病気が見える 脳・神経（メディックメディア）
授業の留意点・備考		調べ学習は自ら積極的に行い、グループで行うシェア学習では解らないことを素直に発信するとともに、解らないことを全員で解決するよう協力して授業に取り組むこと。

科目名	理学療法セミナーⅢ	担当教員	PT学科教員
-----	-----------	------	--------

学科	理学療法学科	年次	2	開講期	後期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義
区分	専門分野	教育内容	基礎理学療法学						選択・必修	必修	

担当教員の実務経験	急性期、亜急性期、術後症例を担当し、運動器・代謝・心大血管疾患を中心に理学療法を実施した経験を 活かし、講義・演習を行う。
-----------	--

授 業 概 要	客観的臨床能力試験（Objective Structured Clinical Examination；以下「OSCE」という。）は、臨床実習前後に理学療法に関連する技能及び態度が一定の基準に到達しているかを客観的に評価するための試験を実施する。
---------	---

到達目標	1. 実習開始前に学生の基本的臨床技能の評価を行う。 2. 学生自らが現在の臨床技能を客観的に捉え、臨床技能を習得するための具体的な目標を設定する。 3. 臨床実習の準備段階として、より主体的な学習課程を具体的に学ぶ機会を与える。
------	---

[illegible]

回	テーマ	授 業 内 容
---	-----	---------

1	オリエンテーション	OSCEの概要について理解する。
---	-----------	------------------

2	症例揭示	症例の揭示を行う。
---	------	-----------

3	症例情報収集	症例情報より、必要な知識を学習する。
---	--------	--------------------

4	症例学習	症例情報をもとに基礎情報のアセスメントを実施する。
---	------	---------------------------

5	症例学習	症例情報をもとに理学療法所見のアセスメントを実施する。
---	------	-----------------------------

6	症例学習	症例情報をもとに理学療法所見のアセスメントを実施する。

7	検査測定	情意領域、医療面接、バイタルサインを演習する。

8	検査測定	形態測定、周径を演習する。
9	検査測定	円筒形と球状の測定を演習する。

9	検査測定	関節可動域測定を演習する。
10	検査測定	徒手筋力検査を演習する。

10	便宜測定	徒手助力便宜を演習する。
11	検査測定	感覚検査を演習する。

11	検査測定	感覚検査を演習する。
12	検査測定	反射検査を演習する。

13	検査測定	各検査測定を復習する。
----	------	-------------

14	OSCE (PBT)	Paper Based Testing (PBT) を実施する。
----	------------	----------------------------------

15	OSCE（実技）	Objective Structured Clinical Examination（OSCE）を実施する。
----	----------	---

準備学習（予習復習）の 具体的な内容	各講義において検者・被検者を設定し演習を中心に行う。授業内容の検査・測定手技については理学療法評価学で学んでいる内容を復習として確認していくため、必ず事前に理解しておくべき点を把握し取り組むこと。 授業の内容に必要と思われる検査・測定についての教材は各自で準備すること。
-----------------------	--

成 績 評 価	☒ 定期試験 (40 %) ☒ 実技試験 (40 %) ☐ 小テスト (%) ☐ レポート (%)
	☐ 課題 (%) ☐ 発表 (%) ☐ その他 ()

教科書	理学療法評価学で使用する教材を必要に応じて準備すること。 解剖学や運動学などの基礎内容の理解が不十分な場合、必要に応じて各自準備すること。
-----	--

参 考 書	・理学療法評価学（金原出版） ・ベッドサイドの神経の診かた（南山堂）
-------	------------------------------------

授業の留意点・備考	常に問題解決的意識を持って臨み、特にグループでの学習活動に際しては、能動的かつ積極的な学習姿勢で相互的理解に努めること。また、提出物や作成物等の提出は必ず期限を厳守すること。必要に応じて現場に即した身だしなみ（実習靴及び実習着用、整髪、貴金属類の装着不可等）で受講すること。
-----------	---

学科	理学療法学科	年次	3	開講期	前期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義・演習
区分	専門分野	教育内容	基礎理学療法学						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		各教員において医療・保健・福祉における様々な分野・領域で多様な疾患を経験し、急性期から回復期までの臨床経験を持ち、それぞれの専門分野において講義を行う。									
授 業 概 要		2年次までに学習した内容をグループ学習や調べ学習を通して振り返り、理学療法士学生に必要な基礎知識及び臨床実習や国家試験に必要な知識や考え方を身につけていく。									
到 達 目 標		・1年、2年次に学んだ基本的知識及び技術の振り返りと定着化を図る。 ・目の前の課題的事象に対して能動的に働きかけ、気づき、考え、行動する姿勢づくりと対象者意識を養う。									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	リハビリテーション専門基礎①			本講義の授業内容、評価法などの概要を説明する。(緒方)							
2	リハビリテーション専門基礎②			解剖学・運動学・生理学などの基礎知識を学習する。(山下)							
3	リハビリテーション専門基礎③			解剖学・運動学・生理学などの基礎知識を学習する。(山下)							
4	リハビリテーション専門基礎④			解剖学・運動学・生理学などの基礎知識を学習する。(緒方)							
5	専門基礎知識テスト			解剖学・運動学・生理学などの基礎知識の理解度を確認する。(緒方)							
6	理学療法専門・臨床医学①			疾患に関する概要を学習する。(骨関節障害 岩北)							
7	理学療法専門・臨床医学②			疾患に関する概要を学習する。(骨関節障害 岩北)							
8	理学療法専門・臨床医学③			疾患に関する概要を学習する。(骨関節障害 岩北)							
9	理学療法専門・臨床医学④			疾患に関する概要を学習する。(骨関節障害 山本)							
10	理学療法専門・臨床医学⑤			疾患に関する概要を学習する。(骨関節障害 山本)							
11	理学療法専門・臨床医学⑥			疾患に関する概要を学習する。(脳血管障害 楠本)							
12	理学療法専門・臨床医学⑦			疾患に関する概要を学習する。(脳血管障害 楠本)							
13	理学療法専門・臨床医学⑧			疾患に関する概要を学習する。(神経筋疾患 栗野)							
14	理学療法専門・臨床医学⑨			疾患に関する概要を学習する。(神経筋疾患 栗野)							
15	理学療法専門・臨床医学知識テスト			疾患に関する概要を学習する。(神経筋疾患 栗野)							
準備学習（予習復習）の具体的な内容		教科書等を用いて事前に確認し、受講後は振り返りを必ず実施すること。									
成 績 評 価		☒ 定期試験 （ 80 % ） ☐ 実技試験 （ % ） ☐ 小テスト （ % ） ☐ レポート （ % ） ☒ 課題 （ 20 % ） ☐ 発表 （ % ） ☐ その他 （ ）									
教 科 書		・PT/OT国家試験必修ポイント基礎PT学 ・PT/OT国家試験必修ポイント疾患別PT治療学									
参 考 書		・PT/OT国家試験必修ポイント専門基礎分野基礎医学 ・PT/OT国家試験必修ポイント専門基礎分野臨床医学 ・その他、各課題や問題に必要なこれまでの教材を必要に応じて準備すること									
授業の留意点・備考		常に問題解決的意識を持って臨み、特にグループでの学習活動に際しては、能動的かつ積極的な学習姿勢で相互的理解に努めること。また、提出物や作成物等の提出は必ず期限を厳守すること。必要に応じて現場に即した身だしなみ（実習靴及び実習着着用、整髪、貴金属類の装着不可等）で受講すること。									

科目名	機能障害学						担当教員	楠本 敏文			
-----	-------	--	--	--	--	--	------	-------	--	--	--

学科	理学療法学科	年次	2	開講期	前期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義
区分	専門分野	教育内容	基礎理学療法学						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		医療・介護保険領域において理学療法業務に携わった経験を持つ教員が、ADL能力の低下の原因になっている機能障害のメカニズムとその治療について講義を行う。									
授 業 概 要		理学療法を科学的に理解するとともに、臨床において効果的な理学療法を実践する上で必要となる理学療法的基本的事項について学習する。									
到 達 目 標		共通する機能障害の病態やそのメカニズムを理解する。									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	機能障害とは			機能障害の定義について理解する							
2	炎 症			炎症の基礎と発生メカニズム、治療について理解する							
3	疼 痛			疼痛（急性痛、慢性痛）の基礎と発生メカニズム、治療について理解する							
4	創傷、靱帯損傷			創傷、靱帯損傷の基礎と治癒過程、治療について理解する							
5	骨 折			骨折の基礎と治癒過程、治療について理解する							
6	腱損傷、筋損傷			腱損傷、筋損傷の基礎と治癒過程、治療について理解する							
7	末梢神経損傷			末梢神経損傷の基礎と治癒過程、治療について理解する							
8	筋萎縮			筋萎縮の基礎と発生メカニズム、治療について理解する							
9	関節可動域制限			関節可動域制限の基礎と発生メカニズム、治療について理解する							
10	麻 痺			麻痺（中枢神経障害）の基礎と発生メカニズム、治療について理解する							
11	筋トヌス異常			筋トヌス異常の基礎と発生メカニズム、治療について理解する							
12	協調運動障害			協調運動障害の基礎と発生メカニズム、治療について理解する							
13	意識障害			意識障害の基礎と発生メカニズム、治療について理解する							
14	高次脳機能障害			高次脳機能障害の基礎と発生メカニズム、治療について理解する							
15	定期試験			筆記試験							
準備学習（予習復習）の具体的な内容		教科書等を用いて授業内容を事前に確認し、受講後は講義内容の振り返りを必ず実施すること。									
成 績 評 価		☒ 定期試験 （ 90 % ） ☐ 実技試験 （ % ） ☒ 小テスト （ 10 % ） ☐ レポート （ % ） ☐ 課題 （ % ） ☐ 発表 （ % ） ☐ その他 （ ）									
教 科 書		機能障害科学入門：九州神稜文庫									
参 考 書											
授業の留意点・備考		単なる暗記ではなく、理解に繋がるイメージづくりに努め、能動的かつ積極的な学習姿勢で臨むこと。									

科目名		理学療法研究法Ⅰ					担当教員		栗野 博子・緒方 茂		
学科	理学療法学科	年次	3	開講期	前期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義・演習
区分	専門分野	教育内容	基礎理学療法学						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		学会発表ならびに大学院での研究の経験に基づいて講義を実施できる。									
授 業 概 要		・理学療法における研究の意義について学ぶ ・研究に際して必要となる基本的な知識を学び，具体的な計画書立案を経験する									
到 達 目 標		理学療法分野に関係する何気ない疑問から発展させて研究テーマを決定し，実践可能となる研究計画の立案と書式を作成することができる									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	研究の意義・目的			研究の必要性，研究の構成要素，研究の手順							
2	研究デザインの基礎知識			研究の種類							
3	研究課題の見つけ方			現状分析，研究課題の選択							
4	文献検索①			文献検索の方法，コンピューターを用いた検索							
5	文献検索②			演習：文献検索を実践し論文に触れ要点を読み取る							
6	研究課題の展開			研究タイプ，研究の限界，研究計画書							
7	倫理的配慮			研究を行う上で必要な倫理申請や要点について							
8	学会発表と論文執筆			論文作成と発表や執筆に向けた準備，引用や転載の注意点							
9	対象とデータの管理①			データをとるための実践と統計							
10	対象とデータの管理②			データをとるための実践と統計							
11	臨床研究			臨床研究の事例を紹介							
12	研究課題①			研究テーマと方法論の検討							
13	研究課題②			研究テーマと方法論の検討							
14	研究課題③			研究テーマと方法論の検討							
15	まとめ			これまでの学習の総括							
準備学習(予習復習)の具体的な内容		研究の材料となる疑問や課題は，日常的に意識しておく必要がある。常にメモを携帯しアイディアが浮かんだときにメモする習慣が必要。									
成 績 評 価		☒ 定期試験 (50 %) ☐ 実技試験 (%) ☐ 小テスト (%) ☒ レポート (20 %) ☒ 課題 (30 %) ☐ 発表 (%) ☐ その他()									
教 科 書		理学療法学講座 理学療法研究法 (医歯薬出版)									
参 考 書											
授業の留意点・備考		本講義はグループワークが中心となる。よって，全員が協力して遂行していくこと。									

科目名	理学療法研究法Ⅱ						担当教員	緒方 茂			
学科	理学療法学科	年次	3	開講期	後期	単位数	1	時数	30	授業形態	演習
区分	専門分野	教育内容	基礎理学療法学						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		臨床及び大学院でのドライ、ウェット双方の実験経験を有しデータ解析から考察、表出まで一連の経験がある。									
授 業 概 要		・人体もしくはそれを取り巻く環境に主眼を置き、研究デザインの立案から実験から得られたデータ解析、データの可視化及びその考察を導く。									
到 達 目 標		・疑問を解決できる研究デザインを立案できる。 ・客観的なデータの取得ができる。 ・データの可視化を行い第3者に説明できる。									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	オリエンテーション			研究テーマと具体的研究・学習の計画							
2	グループ活動①			グループ活動を通して研究テーマに関する演習							
3	グループ活動②			グループ活動を通して研究テーマに関する演習							
4	グループ活動③			グループ活動を通して研究テーマに関する演習							
5	グループ活動④			グループ活動を通して研究テーマに関する演習							
6	グループ活動⑤			グループ活動を通して研究テーマに関する演習							
7	グループ活動⑥			グループ活動を通して研究テーマに関する演習							
8	グループ活動⑦			グループ活動を通して研究テーマに関する演習							
9	グループ活動⑧			グループ活動を通して研究テーマに関する演習							
10	グループ活動⑨			グループ活動を通して研究テーマに関する演習							
11	グループ活動⑩			グループ活動を通して研究テーマに関する演習							
12	グループ活動⑪			グループ活動を通して研究テーマに関する演習							
13	グループ活動⑫			グループ活動を通して研究テーマに関する演習							
14	グループ活動⑬			グループ活動を通して研究テーマに関する演習							
15	まとめ			これまでの活動の総括							
準備学習（予習復習）の具体的な内容		消耗品の在庫確認や、被験者の予定管理を計画的に準備すること。									
成 績 評 価		☐ 定期試験 （ % ） ☐ 実技試験 （ % ） ☐ 小テスト （ % ） ☒ レポート （ 70 % ） ☐ 課題 （ % ） ☒ 発表 （ 30 % ） ☐ その他 （ ）									
教 科 書		理学療法学講座 理学療法研究法（医歯薬出版）									
参 考 書		なし									
授業の留意点・備考		本講義はグループワークが中心となる。よって、全員が協力して遂行していくこと。									

学科	理学療法学科	年次	3	開講期	後期	単位数	2	時数	60	授業形態	講義・演習
区分	専門分野	教育内容	理学療法管理学						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		介護支援専門員の資格と理学療法士として10年以上の臨床経験と部門管理者の経験を活かし、法令・管理運営について講義を行う。									
授 業 概 要		理学療法士における法令・管理とは、対象者に質の高い理学療法を施行するために運営することを目的とする。そのために、臨床現場におけるマネジメントの知識、職場管理、環境整備、リスクマネジメントなどの幅広い知識を本授業で教授していく。									
到 達 目 標		・理学療法における法令・管理運営論を体系的に学び、臨床現場に必要な知識を習得する。 ・理学療法管理運営の概要を理解する。 ・良質な医療を提供するために必要な知識を習得する。 ・理学療法の課題と解決法を理解する。									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	総論 法令・管理運営論とは			法令・管理運営論の授業進行・予定をオリエンテーションし、管理運営論を学ぶ意義について講義する。							
2	総論 法令・管理運営論とは			法令・管理運営論の授業進行・予定をオリエンテーションし、管理運営論を学ぶ意義について講義する。							
3	リスクマネジメント論			リスクマネジメントの概要と管理運営の手法を講義する。							
4	リスクマネジメント論			リスクマネジメントの概要と管理運営の手法を講義する。							
5	良質な医療提供 コミュニケーションスキル			患者・家族におけるコミュニケーションのポイントと技術について講義する。							
6	良質な医療提供 コミュニケーションスキル			医療者間の情報共有の実際やあり方について講義する。							
7	良質な医療提供 各手法・PDCAサイクル			PDCAサイクルの概要と手法を講義する。							
8	良質な医療提供 各手法・PDCAサイクル			PDCAサイクルに関する現場での実際について講義する。							
9	良質な医療提供 EBMと情報提供			EBMおよびEBPTの概要について講義する。							
10	良質な医療提供 EBMと情報提供			EBMおよびEBPTの活用方法や現場での実践について講義する。							
11	臨床現場におけるデータ管理			臨床現場でのデータ管理の意義や手法について講義する。							
12	臨床現場におけるデータ管理			臨床現場でのデータ管理の意義や手法について講義する。							
13	臨床現場におけるデータ管理			臨床現場でのデータ管理の講義について各自、理解度を確認する。							
14	臨床現場におけるデータ管理			臨床現場でのデータ管理の講義について各自、理解度を確認する。							
15	臨床現場におけるデータ管理			臨床現場でのデータ管理の講義について各自、理解度を確認する。							

授 業 計 画		
回	テーマ	授 業 内 容
16	社会保障と保険制度	社会保障の概要と保険制度（医療・介護）について講義する。
17	社会保障と保険制度	社会保障の概要と保険制度（医療・介護）について講義する。
18	社会保障と保険制度	社会保障と保険制度の講義について各自、理解度を確認する。
19	社会保障と保険制度	社会保障と保険制度の講義について各自、理解度を確認する。
20	社会保障と保険制度	社会保障と保険制度の講義について各自、理解度を確認する。
21	社会保障と保険制度	社会保障と保険制度の講義について各自、理解度を確認する。
22	身分法と職能団体	理学療法士の身分法と理学療法士に関わる団体について講義する。
23	身分法と職能団体	身分法と職能団体の講義について各自、理解度を確認する。
24	身分法と職能団体	身分法と職能団体の講義について各自、理解度を確認する。
25	職域の拡大	理学療法士の現状と職域の拡大について講義する。
26	職域の拡大	理学療法士の現状と職域の拡大について講義する。
27	職域の拡大	職域の拡大の講義について各自、理解度を確認する。
28	理学療法士の未来像	理学療法士を取り巻く現状と将来から理学療法士の未来像について講義する。
29	理学療法士の未来像	理学療法士を取り巻く現状と将来から理学療法士の未来像について各自、理解度を確認する。
30	まとめ	これまでの講義のまとめを行う。
準備学習（予習復習）の具体的な内容		授業ごとの復習を行い、内容の理解を深めること
成 績 評 価		☒ 定期試験 （ 80 % ） ☐ 実技試験 （ % ） ☐ 小テスト （ % ） ☒ レポート （ 20 % ） ☐ 課題 （ % ） ☐ 発表 （ % ） ☐ その他 （ ）
教 科 書		理学療法管理学 南江堂
参 考 書		
授業の留意点・備考		・ 授業を欠席しない。 ・ 積極的な授業態度を望む。 ・ わからないことはそのまま済ませず、積極的に質問する。

学科	理学療法学科	年次	2	開講期	前期	単位数	2	時数	60	授業形態	講義・演習
区分	専門分野	教育内容	理学療法評価学						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		急性期、亜急性期、術後症例を担当し、運動器・代謝・心血管疾患を中心に理学療法を実施した経験を活かし、講義・演習を行う。									
授 業 概 要		理学療法評価は対象者の身体的なを把握する上で、治療方針を決定するために重要な位置付けである。総論から各検査について講義と演習にて検査の意義、目的を学習し、学生同士で練習し技術の向上を図る。理学療法評価学Ⅰでは、総論、形態測定、関節可動域検査、反射検査、感覚検査、疼痛検査、協調性検査について学習する。									
到 達 目 標		各検査測定の意義と目的を理解し、正確に検査が実施できる。検査結果が何を意味しているか、また他の検査との関連性を説明することができる。									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	評価学総論①			評価の意義、目的、過程、およびICIDH、ICFに基いた評価について学習する。							
2	評価学総論②			評価の種類、記録の取り方、医療情報の種類と情報収集の取り方、検査尺度と定性定量について学習する。							
3	医療面接・意識障害、バイタルサイン			医療面接の方法、意識障害、心拍・脈拍、呼吸、血圧およびリハビリテーション中止基準について学習・演習する。							
4	形態測定①			形態測定の意義目的および形態測定の種類、実施時の注意事項を学習し、演習にて身長体重の測定を行い、栄養状態と体格指数を理解する。							
5	形態測定②			四肢長の種類と計測点を学習し、演習にてメジャーの使い方と実際の計り方を実践する。							
6	周径①			周径の意義目的および集計の種類、実施時の注意事項を学習し、演習にて身長体重の測定を行い、栄養状態と体格指数を理解する。							
7	周径②			四肢周径の種類と計測点を学習し、演習にてメジャーの使い方と実際の計り方を実践する。							
8	関節可動域測定①			関節可動域測定の定義と目的、身体の基本的肢位と基本的運動方向、測定上の注意事項を学習し、測定器具の取扱いを演習する。							
9	関節可動域測定②			関節可動域測定における肩甲帯の機能解剖を確認し、肩甲骨の動きとその計測法を演習する。							
10	関節可動域測定③			関節可動域測定における肩関節、肘関節の機能解剖を確認しその計測法を演習する。							
11	関節可動域測定④			関節可動域測定における前腕、手関節の機能解剖を確認しその計測法を演習する。							
12	関節可動域測定⑤			関節可動域測定における股関節の機能解剖を確認しその計測法を演習する。							
13	関節可動域測定⑥			関節可動域測定における膝関節、足関節の機能解剖を確認しその計測法を演習する。							
14	関節可動域測定⑦			関節可動域測定における頸部、体幹の機能解剖を確認しその計測法を演習する。							
15	関節可動域測定⑧			関節可動域測定のまとめで総合的な復習を行い、関節可動域測定の全体的な方法と注意点の理解を深める。							

授 業 計 画		
回	テーマ	授 業 内 容
16	疼痛検査	痛みの分類、受容器や伝導路、検査上の注意点および各種評価法について学習する。
17	反射検査①	反射の種類、発生するメカニズム、反射の異常について理解する。
18	反射検査②	反射検査を行う意義・目的、注意点を理解する。
19	反射検査③	脳神経領域および深部腱反射検査を実施する。
20	反射検査④	脳神経領域および深部腱反射検査を実施する。
21	反射検査⑤	病的反射および表在反射を実施する。
22	感覚検査①	感覚の分類、感覚の役割、感覚の伝導路、感覚の障害について理解する。
23	感覚検査②	感覚検査の意義や目的、注意点について理解する。
24	感覚検査③	表在感覚の検査を実施する。
25	感覚検査④	深部感覚の検査を実施する。
26	感覚検査⑤	複合感覚の検査を実施する。
27	協調性検査①	運動の調節と実行を理解し、運動麻痺と運動失調を理解する。
28	協調性検査②	協調性検査の意義と目的、注意点について理解する。
29	協調性検査③	協調性検査を実施する。
30	まとめ	これまでの学習を総括する。
準備学習（予習復習）の具体的な内容		検査の意義を速やかに理解できるよう、解剖学、生理学を見直して臨むこと。学生同士で練習し復習すること。
成 績 評 価		☒ 定期試験 （ 50 % ） ☒ 実技試験 （ 50 % ） ☐ 小テスト （ % ） ☐ レポート （ % ） ☐ 課題 （ % ） ☐ 発表 （ % ） ☐ その他 （ ）
教 科 書		理学療法評価学 改訂第6版：金原出版
参 考 書		Cross link 理学療法評価学：メジカルビュー社、ベッドサイドの神経の診かた （南山堂）
授業の留意点・備考		実技・演習が主な講義になるため、動きやすい服装で参加すること。 実技のデモンストレーションを行う際は、積極的に被験者になること。

科目名		理学療法評価学Ⅱ						担当教員		山本 英夫		
学科	理学療法学科		年次	2	開講期	後期	単位数	2	時数	60	授業形態	講義・演習
区分	専門分野	教育内容		理学療法評価学						選択・必修		必修
担当教員の実務経験		総合リハビリテーション病院での業務経験を活かし、理学療法評価の各種検査測定について講義、演習を行うことができる。										
授 業 概 要		理学療法評価は対象者の身体的なを把握する上で、治療方針を決定するために重要な位置付けである。総論から各検査について講義と演習にて検査の意義、目的を学習し、学生同士で練習し技術の向上を図る。理学療法評価学Ⅱでは、徒手筋力テスト、片麻痺機能検査、筋緊張検査、脳神経検査、高次脳機能検査について学習する。										
到 達 目 標		各検査測定の意義と目的を理解し、正確に検査が実施できる。検査結果が何を意味しているか、また他の検査との関連性を説明することができる。										
授 業 計 画												
回	テーマ				授 業 内 容							
1	オリエンテーション				オリエンテーションにてシラバスを使用し授業内容の説明する。今後の授業の方向性や進め方を理解する。							
2	徒手筋力テスト（MMT）：総論①				MMTの成り立ちや歴史について学習する。筋力検査の原理、段階づけについて学習し基本的な考え方とMMTの方法について演習する。							
3	徒手筋力テスト（MMT）：総論②				MMTの代償運動について、筋力検査の妥当性と限界について学習する。							
4	徒手筋力テスト（MMT）各論：上肢①				肩甲帯のMMTについて、主動筋と補助筋、代償運動や検査方法について学習し、演習する。							
5	徒手筋力テスト（MMT）各論：上肢②				肩甲帯のMMTについて、主動筋と補助筋、代償運動や検査方法について学習し演習する。							
6	徒手筋力テスト（MMT）各論：上肢③				肩関節のMMTについて、主動筋と補助筋、代償運動や検査方法について学習し演習する。							
7	徒手筋力テスト（MMT）各論：上肢④				肩関節のMMTについて、主動筋と補助筋、代償運動や検査方法について学習し演習する。							
8	徒手筋力テスト（MMT）各論：上肢⑤				肘関節・前腕のMMTについて、主動筋と補助筋、代償運動や検査方法について学習し演習する。							
9	徒手筋力テスト（MMT）各論：上肢⑥				手関節・手指のMMTについて、主動筋と補助筋、代償運動や検査方法について学習し演習する。							
10	徒手筋力テスト（MMT）各論：下肢①				股関節のMMTについて、主動筋と補助筋、代償運動や検査方法について学習し演習する。							
11	徒手筋力テスト（MMT）各論：下肢②				股関節のMMTについて、主動筋と補助筋、代償運動や検査方法について学習し演習する。							
12	徒手筋力テスト（MMT）各論：下肢③				膝関節のMMTについて、主動筋と補助筋、代償運動や検査方法について学習し演習する。							
13	徒手筋力テスト（MMT）各論：下肢④				足関節・足部・足趾のMMTについて、主動筋と補助筋、代償運動や検査方法について学習し演習する。							
14	徒手筋力テスト（MMT）各論：体幹①				頭部・頸部のMMTについて、主動筋と補助筋、代償運動や検査方法について学習し演習する。							
15	徒手筋力テスト（MMT）各論：体幹②				体幹のMMTについて、主動筋と補助筋、代償運動や検査方法について学習し演習する。							

授 業 計 画		
回	テーマ	授 業 内 容
16	整形外科テスト①	整形外科テストの意義や目的を理解する。頸部疾患の整形外科検査について学習し、演習する。
17	整形外科テスト②	腰部疾患、上肢疾患の整形外科検査について学習し、演習する。
18	整形外科テスト③	下肢疾患、その他の整形外科検査について学習し、演習する。
19	姿勢反射検査・バランス検査①	各レベルの姿勢反射について復習し、バランスとの関連について学習し、演習する。
20	姿勢反射検査・バランス検査②	「バランス」の定義について理解し、様々なバランス検査の方法について学習し、演習する。
21	片麻痺機能検査①	片麻痺機能検査について、片麻痺の理解を深め、検査の意義・目的について学習する。
22	片麻痺機能検査②	片麻痺機能検査（Brunnstrom recovery stage）の基本的な概念について学習し、検査方法を演習する。
23	片麻痺機能検査③	その他片麻痺機能検査（SIAS、12段階片麻痺機能テスト）について学習し、演習する。
24	筋緊張検査①	筋緊張異常について理解を深め、検査の意義・目的を学習する。
25	筋緊張検査②	筋緊張検査（検査方法・Ashworthscale）について学習し、演習する。
26	脳神経検査①	脳神経障害について理解を深め、検査の意義・目的を学習する。
27	脳神経検査②	脳神経検査の方法について学習し、演習する。
28	高次脳機能検査①	高次脳機能障害について、失語症、失行症を中心に責任病巣と症状を理解し、検査方法について学習する。
29	高次脳機能検査②	高次脳機能障害について失認症の責任病巣と症状を理解し、検査方法について学習する。
30	まとめ	これまで学習したことを復習し、理解を深める。
準備学習（予習復習）の具体的な内容		検査の意義を速やかに理解できるよう、解剖学、生理学を見直して臨むこと。学生同士で練習し復習すること。
成 績 評 価		☒ 定期試験 （ 70 % ） ☒ 実技試験 （ 30 % ） ☐ 小テスト （ % ） ☐ レポート （ % ） ☐ 課題 （ % ） ☐ 発表 （ % ） ☐ その他 （ ）
教 科 書		新徒手筋力検査法 （協同医書出版社） 理学療法評価法 （神陵文庫）
参 考 書		なし
授業の留意点・備考		実技のデモンストレーションを行う際は、積極的に被験者になること。

学科	理学療法学科	年次	3	開講期	前期	単位数	1	時数	30	授業形態	演習
区分	専門分野	教育内容	理学療法評価学						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		総合リハビリテーション病院での業務経験を活かし、理学療法評価の思考過程について演習を行うことができる。									
授 業 概 要		理学療法評価の流れにおいて、得られた患者情報から障害やその原因の仮説をたて、必要な検査測定項目を選択する。得られた検査結果から治療へ繋がる問題点を導き出すための思考過程（統合と解釈）を構築するための演習を行う。									
到 達 目 標		初期情報から、模擬患者の社会的背景、疾患の病態や特徴を包括的に把握し、意義のある検査項目を選定することができ、評価時のリスクを考慮することができる。また、患者を包括的に捉え治療すべき問題点を導き出すことができる。									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	オリエンテーション 評価の思考過程①			理学療法評価における検査測定の選択の根拠について、多角的に捉える視点を学習し演習する。							
2	評価の思考過程②			得られた検査結果から治療すべき問題点を抽出する「統合と解釈」について演習する。							
3	評価の思考過程③			ICFの分類を用いて障害像の分類について演習する。							
4	整形外科疾患①			整形外科疾患の模擬症例について理解し、初期情報より問題点の仮説を立て必要な評価項目を選択する。							
5	整形外科疾患②			整形外科疾患の模擬症例について理解し、初期情報より問題点の仮説を立て必要な評価項目を選択する。							
6	整形外科疾患③			整形外科疾患の模擬症例について、得られた検査結果より治療すべき問題点を包括的に捉えることができる。（統合と解釈）							
7	整形外科疾患④			整形外科疾患の模擬症例について、得られた検査結果より治療すべき問題点を抽出し、それに対する理学療法プランを立てる。							
8	整形外科疾患⑤			整形外科疾患の模擬症例について、得られた検査結果より治療すべき問題点を抽出し、それに対する理学療法プランを立てる。							
9	中枢神経疾患①			中枢神経疾患の模擬症例について理解し、初期情報より問題点の仮説を立て必要な評価項目を選択する。							
10	中枢神経疾患②			中枢神経疾患の模擬症例について理解し、初期情報より問題点の仮説を立て必要な評価項目を選択する。							
11	中枢神経疾患③			中枢神経疾患の模擬症例について、得られた検査結果より治療すべき問題点を包括的に捉えることができる。（統合と解釈）							
12	中枢神経疾患④			中枢神経疾患の模擬症例について、得られた検査結果より治療すべき問題点を抽出し、それに対する理学療法プランを立てる。							
13	中枢神経疾患⑤			整形外科疾患の模擬症例について、得られた検査結果より治療すべき問題点を抽出し、それに対する理学療法プランを立てる。							
14	レジュメの作成			模擬症例を通して考えた思考過程をレジュメにする。							
15	まとめ			これまで学習したことを復習し、理解を深める。							
準備学習（予習復習）の具体的な内容		疾患に関する知識（病態、症状など）、解剖学、運動学、生理学や検査測定の意義、目的を復習して理解しておくこと。									
成 績 評 価		☒ 定期試験 （ 50 % ） ☐ 実技試験 （ % ） ☐ 小テスト （ % ） ☐ レポート （ % ） ☒ 課題 （ 50 % ） ☐ 発表 （ % ） ☐ その他 （ % ）									
教 科 書		特に指定なし									
参 考 書		随時、必要な文献を用意すること									
授業の留意点・備考		能動的に学習すること。視野を広くもち考える習慣をつけること。									

科目名		臨床動作分析学						担当教員		栗野 博子		
学科	理学療法学科		年次	2	開講期	後期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義・演習
区分	専門分野	教育内容		理学療法評価学						選択・必修		必修
担当教員の実務経験		理学療法士として、主に急性期から回復期における病院勤務の中で、実際のリハビリテーションに関わった経験を活かし講義・演習を行うことができる。										
授 業 概 要		・ヒトが動くためのメカニズムを学び、異常動作を引き起こす原因を究明するための臨床評価を学び、逸脱動作とその代償動作を動作分析を実践する中で導き出し考察する。 ・症例の動画より動作分析を実践し、動作分析症例検討会の中で専門的用語を用いた表現や分析結果の解釈を共通にして全員で理解を深める。										
到 達 目 標		・動作のメカニズムを理解する。 ・正常動作パターンを理解し動作を阻害する逸脱及び代償動作に気付くことができる。 ・代表的異常動作のメカニズムを説明できる。										
授 業 計 画												
回	テーマ				授 業 内 容							
1	動作分析学総論				動作分析の目的, 手順, 基礎用語, 動作分析の着眼点, 動作のメカニズム, 逸脱運動, 代償運動について学ぶ							
2	姿勢				姿勢制御のバイオメカニクスを復習し、各関節に起こる運動と姿勢や動作に影響する現象を学び理解する							
3	起居動作				動作の概要・メカニズムの復習及び、目視による動作分析・評価を、演習を通して学び理解する							
4	寝返り・起き上がり動作　～演習～				症例の起き上がり動作を動画にて観察し、逸脱・代償動作とその原因を検討する。							
5	起立・着座動作				動作の概要・メカニズムの復習及び、目視による動作分析・評価を、演習を通して学び理解する							
6	起立・着座動作　～演習～				症例の起立・着座動作を動画にて観察し、逸脱・代償動作とその原因を検討する。							
7	正常歩行				動作の概要・メカニズムの復習及び、目視による動作分析・評価を、演習を通して学び理解する							
8	異常歩行				歩行中の重心の観方と異常歩行観察のポイントを学び理解する							
9	異常歩行「運動器疾患」				運動器疾患における逸脱・代償動作, その原因を検討する							
10	異常歩行「神経疾患」				神経疾患における逸脱・代償動作, その原因を検討する							
11	症例の歩行分析　～演習～				演習：各症例の動画を選択し、これまでの学習内容を活用し歩行分析をする							
12	症例の歩行分析　～演習～				演習：歩行分析内容をロジックツリーを活用し思考過程をまとめ理解を深める							
13	症例の歩行分析　～発表～				発表：各症例歩行分析内容を発表し意見交換を行うことで、観察の視点を増やし理解を深める							
14	症例の歩行分析　～発表～				発表：各症例歩行分析内容を発表し意見交換を行うことで、観察の視点を増やし理解を深める							
15	まとめ				これまでの授業内容を復習し理解を深める							
準備学習(予習復習)の具体的な内容		動作分析には、観察力が必要であり日頃からヒトの動作に興味を持ち観る練習をしておくこと。また、解剖学・運動学・臨床運動学の内容が関わるため復習をしておくこと。										
成 績 評 価		☒ 定期試験　(　70　%) ☐ 実技試験　(　　%) ☐ 小テスト　(　　%) ☒ レポート　(　20　%) ☐ 課題　(　　%) ☒ 発表　(　10　%) ☐ その他(										

学科	理学療法学科	年次	3	開講期	後期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義・演習
区分	専門分野	教育内容	理学療法評価学						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		臨床で運動器疾患や中枢疾患など多くの実務経験をもつ。									
授 業 概 要		画像評価学は、レントゲン検査やCT検査などの画像検査から理学療法実施に必要な留意点を学ぶことを目的としている。運動器や中枢疾患の種々の画像をもとに疾患の障害や予後、治療の留意点を学ぶ。									
到 達 目 標		理学療法における画像評価の概要を理解する。 運動器や中枢の各種疾患における画像評価の留意点を説明できる。									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	中枢疾患の画像評価① 楠本			画像診断をもとに留意点や障害、予後について学ぶ							
2	中枢疾患の画像評価② 楠本			画像診断をもとに留意点や障害、予後について学ぶ							
3	運動器疾患の画像評価① 岩北			画像診断をもとに留意点や障害、予後について学ぶ							
4	運動器疾患の画像評価② 岩北			画像診断をもとに留意点や障害、予後について学ぶ							
5	内部障害の画像評価① 山下			画像診断をもとに留意点や障害、予後について学ぶ							
6	内部障害の画像評価② 山下			画像診断をもとに留意点や障害、予後について学ぶ							
7	重心動揺の評価① 山下			重心動揺計の留意点や障害、評価について学ぶ							
8	重心動揺の評価② 山下			重心動揺計の留意点や評価について学ぶ							
9	体圧分散の評価① 栗野			体圧分散計をもとに留意点や障害、予後について学ぶ							
10	体圧分散の評価② 栗野			体圧分散計をもとに留意点や障害、予後について学ぶ							
11	運動解析① 栗野			三次元運動解析画像をもとに留意点や評価について学ぶ							
12	運動解析② 栗野			三次元運動解析画像をもとに留意点や評価について学ぶ							
13	筋電図評価① 山本			筋電図をもとに留意点や障害、予後について学ぶ							
14	筋電図評価② 山本			筋電図をもとに留意点や障害、予後について学ぶ							
15	まとめ			これまでの授業内容を復習し理解を深める							
準備学習(予習復習)の具体的な内容		各種疾患の概要や画像診断学で学んだ内容について復習する。									
成 績 評 価		☐ 定期試験 (%) ☐ 実技試験 (%) ☐ 小テスト (%) ☒ レポート (100 %) ☐ 課題 (%) ☐ 発表 (%) ☐ その他 ()									
教 科 書		PT/OT国家試験 必須ポイント 障害別PT治療学 医歯薬出版 PT・OTのための画像診断マニュアル：医学教育出版社 PT・OTのための画像のみかた 第2版：金原出版									
参 考 書		随時紹介									
授業の留意点・備考		実議を行うことがあるので事前に確認を行うこと。									

科目名	運動療法							担当教員	楠本 敏文		
学科	理学療法学科	年次	2	開講期	後期	単位数	2	時数	60	授業形態	講義・演習
区分	専門分野	教育内容	理学療法治療学						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		医療・介護保険領域において理学療法業務に携わった経験を持つ教員が、様々な運動療法技術を修了した経験を活かして実践に即した運動療法について講義・演習を行う。									
授 業 概 要		安全かつ効果的な理学療法が提供できるように、疾患・障害に関係なく適用される基本的な技術について学習する。									
到 達 目 標		基本的な技術について知識を理解すると共に、演習を通して、実施できるようにする。									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	総 論①			運動・運動療法の定義と特徴、分類について理解する							
2	総 論②			運動療法の適用と禁忌、一般的な手順について理解する							
3	関節可動性と運動療法①			関節の可動性について理解する							
4	関節可動性と運動療法②			関節包内運動（副運動）について理解する							
5	関節可動性と運動療法③			関節可動性評価の基本について理解する							
6	関節可動性と運動療法④			関節可動性障害における臨床推論・問題点の整理について理解する							
7	関節可動性と運動療法⑤			ストレッチングについて理解する①							
8	関節可動性と運動療法⑥			ストレッチングについて理解する②							
9	関節可動性と運動療法⑦			関節可動性障害に対する運動療法の実際について理解する①							
10	関節可動性と運動療法⑧			関節可動性障害に対する運動療法の実際について理解する②							
11	筋機能と運動療法①			筋の機能について理解する							
12	筋機能と運動療法②			関節運動と関連させた筋収縮様式の分類について理解する							
13	筋機能と運動療法③			筋力増強の理論、筋力・筋持久力低下の改善について理解する①							
14	筋機能と運動療法④			筋力増強の理論、筋力・筋持久力低下の改善について理解する②							
15	筋機能と運動療法⑤			筋力・筋持久力評価の基本について理解する							

授 業 計 画		
回	テーマ	授 業 内 容
16	筋機能と運動療法⑥	筋力・筋持久力低下における臨床推論・問題点の整理について理解する
17	筋機能と運動療法⑦	筋力・筋持久力低下に対する運動療法の実際について理解する①
18	筋機能と運動療法⑧	筋力・筋持久力低下に対する運動療法の実際について理解する②
19	バランス機能と運動療法①	姿勢・動作におけるバランスの意義、バランス機能の低下について理解する
20	バランス機能と運動療法②	バランス機能改善の考え方、評価の基本について理解する
21	バランス機能と運動療法③	バランス機能障害に対する臨床推論・問題点の整理について理解する
22	バランス機能と運動療法④	バランス機能障害に対する運動療法の実際について理解する
23	協調性機能と運動療法①	運動における協調性機能について理解する
24	協調性機能と運動療法②	協調性障害に対する運動療法について理解する
25	中枢神経機能と運動療法①	運動における中枢神経機能について理解する
26	中枢神経機能と運動療法②	中枢神経障害に対する運動療法について理解する
27	基本動作と運動療法①	背臥位・寝返り動作障害に対する運動療法について理解する
28	基本動作と運動療法②	背臥位・起き上がり動作障害に対する運動療法について理解する
29	基本動作と運動療法③	座位・立ち上がり動作障害に対する運動療法について理解する
30	定期試験	筆記試験
準備学習（予習復習）の 具体的な内容		教科書等を用いて授業内容を事前に確認し、受講後は講義内容の振り返りを必ず実施すること。
成 績 評 価		☒ 定期試験 （ 90 % ） ☐ 実技試験 （ % ） ☒ 小テスト （ 10 % ） ☐ レポート （ % ） ☐ 課題 （ % ） ☐ 発表 （ % ） ☐ その他 （ ）
教 科 書		Crosslink理学療法科学テキスト 運動療法学：メジカルビュー社
参 考 書		
授業の留意点・備考		現場に即した身だしなみ（実習着着用）や態度での受講すること。 単なる暗記ではなく、理解に繋がるイメージづくりに努め、能動的かつ積極的な学習姿勢で臨むこと。

科目名	運動器理学療法Ⅰ							担当教員	山本 英夫 荒木 翔大		
学科	理学療学科	年次	3	開講期	前期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義・演習
区分	専門分野	教育内容	理学療法治療学						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		総合リハビリテーション病院での業務経験を活かして講義、演習を行う。									
授 業 概 要		理学療法士として運動器疾患を理解することは臨床において重要である。本授業においては、講義・演習を通じて整形外科の基礎から各疾患に及ぶ幅広い知識を教授し、習得していく。									
到 達 目 標		運動器疾患を体系的に学び、その臨床症状や障害像を理解し、病態生理、症状、経過に応じた基本的な治療法、用語を理解する。									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	オリエンテーション・総論			運動器理学療法の領域や内容について講義する							
2	腰痛			腰痛の理学療法							
3	腰椎部手術前後の理学療法			腰椎部手術前後の理学療法							
4	肩関節周囲炎と周辺疾患			肩関節周囲炎の理学療法							
5	肩関節周囲炎と周辺疾患			肩関節周囲炎の理学療法							
6	骨折			骨折の理学療法							
7	高齢者の骨折			高齢者の骨折の理学療法							
8	変形性関節症			変形性関節症の理学療法							
9	変形性関節症			変形性関節症の理学療法							
10	人工股関節全置換術・人工膝関節置換術			人工股関節全置換術・人工膝関節置換術の理学療法							
11	人工股関節全置換術・人工膝関節置換術			人工股関節全置換術・人工膝関節置換術の理学療法							
12	関節リウマチ/頸椎と頸髄疾患			関節リウマチの理学療法/頸椎と頸髄疾患の理学療法							
13	いわゆる肩こり/膝の靱帯損傷			いわゆる肩こりの理学療法/膝の靱帯損傷の理学療法							
14	いわゆる肩こり/膝の靱帯損傷			いわゆる肩こりの理学療法/膝の靱帯損傷の理学療法							
15	まとめ			これまでの授業内容を復習し理解を深める							
準備学習（予習復習）の具体的な内容		授業ごとの復習を行い、内容の理解を深めること									
成 績 評 価		☒ 定期試験 （ 80 % ） ☐ 実技試験 （ % ） ☐ 小テスト （ % ） ☒ レポート （ 20 % ） ☐ 課題 （ % ） ☐ 発表 （ % ） ☐ その他 （ ）									
教 科 書		ここがポイント！整形外科疾患の理学療法 第3版									
参 考 書		病気がみえる vol.11 運動器・整形外科 第1版									
授業の留意点・備考		・授業を欠席しない。 ・積極的な授業態度を望む。 ・わからないことはそのまま済ませず、積極的に質問する。									

科目名		運動器理学療法Ⅱ						担当教員		岩北 耕三 中田 海聖		
学科	理学療法学科		年次	3	開講期	後期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義・演習
区分	専門分野	教育内容		理学療法治療学						選択・必修		必修
担当教員の実務経験		理学療法士として10年以上、運動器疾患理学療法の臨床経験をもち、多数の症例を経験してきたことを活かし、運動器疾患理学療法の講義を行う。										
授 業 概 要		理学・作業療法士として整形外科疾患を理解することは臨床において重要である。本授業においては、講義を中心に整形外科学の基礎から各疾患に及ぶ幅広い知識を教授し、習得していく。										
到 達 目 標		運動器疾患を体系的に学び、その臨床症状や障害像を理解する。 代表的な整形外科疾患の病態生理、症状、経過、治療法、用語を理解する。										
授 業 計 画												
回	テーマ				授 業 内 容							
1	オリエンテーション・総論				本授業の領域や内容について講義する							
2	運動器理学療法疾患①				運動器疾患のアセスメント・問題点抽出・ゴール設定・プログラム立案を行う							
3	運動器理学療法疾患②				運動器疾患のアセスメント・問題点抽出・ゴール設定・プログラム立案を行う							
4	運動器理学療法疾患③				運動器疾患のアセスメント・問題点抽出・ゴール設定・プログラム立案を行う							
5	運動器理学療法疾患④				運動器疾患のアセスメント・問題点抽出・ゴール設定・プログラム立案を行う							
6	運動器理学療法疾患⑤				運動器疾患のアセスメント・問題点抽出・ゴール設定・プログラム立案を行う							
7	運動器理学療法疾患⑥				運動器疾患のアセスメント・問題点抽出・ゴール設定・プログラム立案を行う							
8	運動器理学療法疾患⑦				運動器疾患のアセスメント・問題点抽出・ゴール設定・プログラム立案を行う							
9	運動器理学療法疾患⑧				運動器疾患のアセスメント・問題点抽出・ゴール設定・プログラム立案を行う							
10	運動器理学療法疾患⑨				運動器疾患のアセスメント・問題点抽出・ゴール設定・プログラム立案を行う							
11	運動器疾患理学療法の実践①				運動器疾患理学療法の実践							
12	運動器疾患理学療法の実践②				運動器疾患理学療法の実践							
13	運動器疾患理学療法の実践③				運動器疾患理学療法の実践							
14	運動器疾患理学療法の実践④				運動器疾患理学療法の実践							
15	まとめ				これまでの授業内容を復習し理解を深める							
準備学習（予習復習）の具体的な内容		授業ごとの復習を行い、内容の理解を深めること										
成 績 評 価		☒ 定期試験 （ 80 % ） ☐ 実技試験 （ % ） ☐ 小テスト （ % ） ☒ レポート （ 20 % ） ☐ 課題 （ % ） ☐ 発表 （ % ） ☐ その他 （ ）										
教 科 書		ここがポイント！整形外科疾患の理学療法 第3版										
参 考 書		病気がみえる vol.11 運動器・整形外科 第1版										
授業の留意点・備考		・ 授業を欠席しない。 ・ 積極的な授業態度を望む。 ・ わからないことはそのまま済ませず、積極的に質問する。										

学科	理学療法学科	年次	3	開講期	前期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義・演習
区分	専門分野	教育内容	理学療法治療学						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		医療・介護保険領域において理学療法業務に携わった経験を持つ教員が、脳血管障害の病態、障害像、理学療法評価及び治療プログラムについて講義する。									
授 業 概 要		脳血管障害の概要（病態生理）を理解し、的確な評価に基づいて患者の障害構造を正しく理解するとともに、病期に応じた適切な介入について学習する。									
到 達 目 標		神経解剖学および生理学の基本的内容について理解できる。 脳血管障害に対する理学療法の方向性、脳損傷の病態および症状について理解できる。									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	解剖生理学の知識①			神経系の概観と組織学について理解する							
2	解剖生理学の知識②			脳・脊髄の構造と機能について理解する							
3	解剖生理学の知識③			脳の血管について理解する							
4	脳卒中の病態と治療①			虚血性病変に対する病態と治療について理解する							
5	脳卒中の病態と治療②			出血性病変に対する病態と治療について理解する							
6	脳卒中の障害と評価①			運動麻痺の発生メカニズムと評価について理解する							
7	脳卒中の障害と評価②			異常筋緊張の発生メカニズムと評価について理解する							
8	脳卒中の障害と評価③			感覚障害の発生メカニズムと評価について理解する							
9	脳卒中の障害と評価④			高次脳機能障害の発生メカニズムと評価について理解する							
10	脳卒中の障害と評価⑤			脳卒中後疼痛と二次性機能障害について理解する							
11	脳血管障害と理学療法の実践①			脳卒中危険因子・脳卒中の種類と病型・病態 脳血管の解剖							
12	脳血管障害と理学療法の実践②			脳構の特定と解剖・脳機能ネットワーク							
13	脳血管障害と理学療法の実践③			CT・MRIの種類と特性・中心溝等のランドマークの同定・病巣と症状について							
14	脳血管障害と理学療法の実践④			脳卒中片麻痺評価・ICFの説明とその活用							
15	定期試験			筆記試験							
準備学習（予習復習）の具体的な内容		教科書等を用いて授業内容を事前に確認し、受講後は講義内容の振り返りを必ず実施すること。									
成 績 評 価		☒ 定期試験 （ 90 % ） ☐ 実技試験 （ % ） ☒ 小テスト （ 10 % ） ☐ レポート （ % ） ☐ 課題 （ % ） ☐ 発表 （ % ） ☐ その他 （ ）									
教 科 書		脳卒中理学療法の理論と技術 第5版：メジカルビュー社									
参 考 書		脳卒中リハビリテーション治療・支援のFirst STEP-初めての臨床からわかる・できるステップガイド：メジカルビュー社 病気がみえるvol.7 脳・神経 第2版：株式会社メディックメディア									
授業の留意点・備考		現場に即した身だしなみ（実習着着用）や態度での受講すること。 単なる暗記ではなく、臨床実習や資格取得後の実務における治療対象であることを認識し、理解に繋がるイメージづくりに努め、能動的かつ積極的な学習姿勢で臨むこと。									

科目名	神経理学療法Ⅱ							担当教員	楠本 敏文、瀧崎 寛臣		
-----	---------	--	--	--	--	--	--	------	-------------	--	--

学科	理学療法学科	年次	3	開講期	後期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義・演習
区分	専門分野	教育内容	理学療法治療学						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		医療・介護保険領域において理学療法業務に携わった経験を持つ教員が、脳血管障害の病態、障害像、理学療法評価及び治療プログラムについて講義する。									
授 業 概 要		脳血管障害の概要（病態生理）を理解し、的確な評価に基づいて患者の障害構造を正しく理解するとともに、病期に応じた適切な介入について学習する。									
到 達 目 標		脳血管障害の病期に応じた理学療法について理解できる。 脳血管障害に対する治療の考え方、基本的な介入方法について理解できる。									
授 業 計 画											
回	テーマ					授 業 内 容					
1	脳卒中リハビリテーションの理論とリスク管理					脳卒中リハビリテーションの理論とリスク管理について理解する					
2	病期別の脳卒中理学療法					各病期における理学療法の目標設定について理解する					
3	脳卒中の理論と理学療法①					ポジショニング、関節可動域運動の理論と実際について理解する					
4	脳卒中の理論と理学療法②					ファシリテーションの理論と実際について理解する					
5	脳卒中の理論と理学療法③					半側空間無視に対する治療の理論と実際について理解する					
6	脳卒中の理論と理学療法④					姿勢定位障害に対する治療の理論と実際について理解する					
7	脳卒中の理論と理学療法⑤					歩行訓練の理論と実際について理解する					
8	脳卒中の理論と理学療法⑥					装具療法の理論と実際について理解する					
9	脳卒中の理論と理学療法⑦					ADL訓練の理論と実際について理解する					
10	脳卒中の理論と理学療法⑧					嚥下訓練の理論と実際について理解する					
11	脳血管障害と理学療法の実践①					脳血管障害患者に対する理学療法士としての関わり					
12	脳血管障害と理学療法の実践②					脳血管障害患者に対する理学療法士としての関わり					
13	脳血管障害と理学療法の実践③					脳血管障害患者に対する理学療法士としての関わり					
14	脳血管障害と理学療法の実践④					脳血管障害患者に対する理学療法士としての関わり					
15	定期試験					筆記試験					
準備学習（予習復習）の具体的な内容		教科書等を用いて授業内容を事前に確認し、受講後は講義内容の振り返りを必ず実施すること。									
成 績 評 価		☒ 定期試験 （ 90 % ） ☐ 実技試験 （ % ） ☒ 小テスト （ 10 % ） ☐ レポート （ % ） ☐ 課題 （ % ） ☐ 発表 （ % ） ☐ その他 （ ）									
教 科 書		脳卒中理学療法の理論と技術 第5版：メジカルビュー社									
参 考 書		脳卒中リハビリテーション治療・支援のFirst STEP-初めての臨床からわかる・できるステップガイド：メジカルビュー社 病気がみえるvol.7 脳・神経 第2版：株式会社メディックメディア									
授業の留意点・備考		現場に即した身だしなみ（実習着着用）や態度での受講すること。 単なる暗記ではなく、臨床実習や資格取得後の実務における治療対象であることを認識し、理解に繋がるイメージづくりに努め、能動的かつ積極的な学習姿勢で臨むこと。									

学科	理学療法学科	年次	3	開講期	後期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義・演習
区分	専門分野	教育内容	理学療法治療学						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		医療・介護保険領域において理学療法業務に携わった経験を持つ教員が、神経筋疾患の病態、障害像、理学療法評価及び治療プログラムについて講義する。									
授 業 概 要		神経筋疾患の概要（病態生理）を理解し、的確な評価に基づいて患者の障害構造を正しく理解するとともに、病期に応じた適切な介入について学習する。									
到 達 目 標		神経解剖学および生理学の基本的内容について理解できる。 神経筋疾患に対する理学療法の方向性、病態および症状について理解できる。									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	総論			神経系の基礎知識と神経障害の概要を振り返り今後の各論に向けて理解する							
2	脊髄小脳変性症・多系統萎縮症①			脊髄小脳変性症・多系統萎縮症の病態と治療、評価について理解する							
3	脊髄小脳変性症・多系統萎縮症②			脊髄小脳変性症・多系統萎縮症の理学療法について理解する							
4	筋萎縮性側索硬化症			筋萎縮性側索硬化症の病態と治療、評価、理学療法について理解する							
5	多発性硬化症			多発性硬化症の病態と治療、評価、理学療法について理解する							
6	ギラン・バレー症候群			ギラン・バレー症候群の病態と治療、評価、理学療法について理解する							
7	末梢神経損傷			末梢神経損傷の病態と治療、評価、理学療法について理解する							
8	重症筋無力症			重症筋無力症の病態と治療、評価、理学療法について理解する							
9	筋ジストロフィー①			筋ジストロフィーの病態と治療、評価について理解する							
10	筋ジストロフィー②			筋ジストロフィーに対する理学療法について理解する							
11	パーキンソン病①			パーキンソン病の病態と治療、評価について理解する							
12	パーキンソン病②			パーキンソン病に対する理学療法について理解する							
13	神経筋疾患と理学療法の実際①			神経筋疾患患者に対する理学療法士としての関わり							
14	神経筋疾患と理学療法の実際②			神経筋疾患患者に対する理学療法士としての関わり							
15	定期試験			筆記試験							
準備学習（予習復習）の具体的な内容		教科書等を用いて授業内容を事前に確認し、受講後は講義内容の振り返りを必ず実施すること。									
成 績 評 価		☒ 定期試験 （ 90 % ） ☐ 実技試験 （ % ） ☒ 小テスト （ 10 % ） ☐ レポート （ % ） ☐ 課題 （ % ） ☐ 発表 （ % ） ☐ その他 （ ）									
教 科 書		Crosslink理学療法学テキスト 神経障害理学療法学Ⅱ 神経筋障害：メジカルビュー社									
参 考 書		病気がみえるvol.7 脳・神経 第2版：株式会社メジカルビュー社									
授業の留意点・備考		現場に即した身だしなみ（実習着着用）や態度での受講すること。 単なる暗記ではなく、臨床実習や資格取得後の実務における治療対象であることを認識し、理解に繋がるイメージづくりに努め、能動的かつ積極的な学習姿勢で臨むこと。									

学科	理学療法学科	年次	3	開講期	前期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義・演習
区分	専門分野	教育内容	理学療法治療学						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		急性期、亜急性期、術後症例を担当し、運動器・代謝・心血管疾患を中心に検査・測定を行った経験を活かし、各疾患の検査・測定手技について講義・演習を行う。									
授 業 概 要		身体障害者の数は高齢化とともに年々増加傾向にある。なかでも、心疾患を中心とした内部障害患者は聴覚・視覚障害、肢体不自由者が近年横ばいであるのに対し、急増している。 本講義内では、各分野における代表疾患を例とし、その捉え方について学んでいく。 また、心血管疾患に対する理学療法を学ぶ。									
到 達 目 標		循環器疾患を対象に理学療法を組み立てるための医学的知識とその理論的背景に基づいた患者評価を理解する。病態を把握するための臨床検査結果を理解し、その結果に即した理学療法評価を実施し、的確な運動処方を立案することができる。									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	循環器の構造としくみ			心臓および血管の構造と機能を理解する。							
2	循環器の構造としくみ			循環器における生理学的知識を理解する。							
3	運動生理と運動処方			運動時の生体反応と運動処方について、運動時の呼吸代謝反応および運動強度について理解する。							
4	全身状態の観察とバイタルサインの診方			主要なバイタルサインとその臨床的意義について理解する。							
5	心電図の診かた			心電図の基礎を理解する。							
6	不整脈と心電図の診かた			異常波形を読むポイントを理解する。							
7	身体機能評価			身体機能評価の臨床的意義を理解し、評価方法と判定方法を実施し理解する。							
8	心不全と理学療法			疾患の病態および症候、障害を理解し医学的検査や治療を理解する。							
9	虚血性心疾患と理学療法			疾患の病態および症候、障害を理解し医学的検査や治療を理解する。							
10	症例検討			症例を提示し、検査結果からアセスメントを実施する。							
11	心血管障害と理学療法の実践①			心血管障害の病態、評価および治療に対する理学療法士としての関わり							
12	心血管障害と理学療法の実践②			心血管障害の病態、評価および治療に対する理学療法士としての関わり							
13	心血管障害と理学療法の実践③			心血管障害の病態、評価および治療に対する理学療法士としての関わり							
14	心血管障害と理学療法の実践④			心血管障害の病態、評価および治療に対する理学療法士としての関わり							
15	まとめ			これまでの授業内容を復習し理解を深める							
準備学習（予習復習）の具体的な内容		講義ごとに随時復習を行い、理解度を高めること。 1. 2年次に学習した解剖・運動生理・内科学を復習すること。									
成 績 評 価		☒ 定期試験 （ 90 % ） ☐ 実技試験 （ % ） ☒ 小テスト （ 10 % ） ☐ レポート （ % ） ☐ 課題 （ % ） ☐ 発表 （ % ） ☐ その他 （ ）									
教 科 書		Crosslink 理学療法テキスト 内部障害理学療法学：MEDICAL VIEW、医歯薬出版株式会社、病気がみえる 循環器 vol.2 第4版：MEDIC MEDIA、リハビリテーション リスク管理 ハンドブック 改訂第3版：MEDICAL VIEW									
参 考 書		指導士資格認定試験準拠 心臓リハビリテーション必携：心臓リハビリテーション学会 循環器リハビリテーションの理論と技術 改訂第2版：MEDICAL VIEW									
授業の留意点・備考		理学療法評価および実技を行う機会があるため、服装は軽装で受講とする。軽装が必要時には、講義前に連絡を行う。									

科目名	内部障害理学療法	担当教員	山下 俊/神崎 亜矢子
-----	----------	------	-------------

学科	理学療法学科	年次	3	開講期	後期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義・演習
区分	専門分野	教育内容	理学療法治療学						選択・必修	必修	

担当教員の実務経験	急性期、亜急性期、術後症例を担当し、運動器・代謝・心血管疾患を中心に検査・測定を行った経験を活かし、各疾患の検査・測定手技について講義・演習を行う。
-----------	--

授 業 概 要	身体障害者の数は高齢化とともに年々増加傾向にある。なかでも、心疾患を中心とした内部障害患者は聴覚・視覚障害、肢体不自由者が近年横ばいであるのに対し、急増している。また、重複障害として、内部障害を持つ患者も少なくない。 本講義内では、各分野における代表疾患を例とし、その捉え方について学んでいく。
---------	---

到達目標	内部障害を有する対象者への理学療法について、疾患別リハビリテーション枠組にとらわれずに臨床現場で必ず対応に迫られる疾病を中心に、その疾患概念・病態・治療・理学療法について理解、実施することができる。
------	---

授 業 計 画

回	テーマ	授 業 内 容
1	内部障害理学療法 総論	内部障害の定義、種類、最近の傾向について学習する。
2	呼吸機能障害と理学療法①	呼吸器の構造と呼吸調節機能について学習する。
3	呼吸機能障害と理学療法②	呼吸機能評価の意義と方法について学習する。
4	呼吸機能障害と理学療法③	呼吸障害における理学療法手技について学習・演習する。
5	呼吸機能障害と理学療法④	COPDに対する理学療法評価および理学療法治療について学習する。
6	呼吸機能障害と理学療法⑤	症例検討を行い、統合と解釈、問題点抽出、プログラム立案を実施する。
7	喀痰等の吸引①	吸引の定義と目的を学習する。吸引の適応と禁忌を学習する。吸引の手順を把握し実施することができる。
8	喀痰等の吸引③	開放式吸引方法、閉鎖式吸引方法、口腔および鼻腔吸引を実施することができる。
9	代謝障害と理学療法①	糖尿病の症候および障害を理解し、運動療法を実施する。がんの理学療法評価および理学療法士による治療を学習する。
10	がんの理学療法①	がんの概要および病態について学習する。がんの理学療法評価および理学療法士による治療を学習する。
11	内部障害と理学療法の実践①	内部障害の病態、評価および治療に対する理学療法士としての関わり
12	内部障害と理学療法の実践②	内部障害の病態、評価および治療に対する理学療法士としての関わり
13	内部障害と理学療法の実践③	内部障害の病態、評価および治療に対する理学療法士としての関わり
14	内部障害と理学療法の実践④	内部障害の病態、評価および治療に対する理学療法士としての関わり
15	まとめ	これまでの授業内容を復習し理解を深める

準備学習（予習復習）の 具体的な内容	講義ごとに随時復習を行い、理解度を高めること。 1.2年次に学習した解剖・運動生理・内科学を復習すること。
-------------------------------	--

成 績 評 価	☒ 定期試験 (90 %) ☐ 実技試験 (%) ☒ 小テスト (10 %) ☐ レポート (%)
	☐ 課題 (%) ☐ 発表 (%) ☐ その他 ()

教科書	Crosslink 理学療法テキスト 内部障害理学療法学：MEDICAL VIEW、医歯薬出版株式会社、病気がみえる 呼吸器 vol.4 第3版：MEDIC MEDIA、
-----	---

参 考 書	糖尿病の理学療法：MEDICAL VIEW、リハ実践テクニック 呼吸ケア：MEDICAL VIEW
-------	---

授業の留意点・備考	理学療法評価および実技を行う機会があるため、服装は軽装で受講とする。軽装が必要時には、講義前に連絡を行う。
-----------	---

学科	理学療法学科	年次	3	開講期	後期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義・演習
区分	専門分野	教育内容	理学療法治療学						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		総合リハビリテーション病院での脊髄損傷患者や、小児疾患患者に対するリハビリテーション（幼児期～青年期）の経験を活かし、講義・演習を行うことができる。									
授 業 概 要		脊髄損傷の病態や分類、症状、二次障害、合併症、機能障害などの基礎知識の復習から評価、障害に応じたリハビリテーション、予後まで系統的に学習し演習する。 小児理学療法の特徴やパラダイムシフトを基盤として、脳性まひや二分脊椎など小児疾患の基礎的な知識を理解し、小児理学療法評価法ならびに治療プログラム立案について学習する。									
到 達 目 標		各種病態の基礎知識から評価、障害に応じたリハビリテーション、予後まで一連の理学療法について理解する。									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	オリエンテーション 脊髄損傷総論①			脊髄損傷を学習する上で必要な解剖生理を復習し、脊髄損傷の概要、分類（完全損傷、不完全損傷、ブラウンセカール症候群、中心性頸髄損傷等）について学習する。							
2	脊髄損傷総論② 障害			脊髄損傷の症状、呼吸障害、排尿排便障害、痙縮等、自律神経機能障害、循環障害等）、合併症（褥瘡、異所性骨化、拘縮）、心理的問題について学習する。							
3	脊髄損傷の機能障害の評価			Frankelの分類、Zancolliの四肢機能分類、ASIAの神経学的評価について学習する。							
4	脊髄損傷の理学療法①			急性期のリハビリテーションと合併症管理、機能残存レベル別の基本的な理学療法について学習する。							
5	脊髄損傷の理学療法②			運動療法（ROM訓練、筋力増強訓練、姿勢保持訓練など）について学習し、脊髄損傷患者に対する運動療法を演習する。							
6	脊髄損傷の理学療法③			頸髄損傷の機能残存レベル別の起居動作（坐位保持、寝返り、起き上がり）プッシュアップ、移乗動作について学習し、指導・介助方法とその動作を演習する。							
7	脊髄損傷の理学療法④			頸髄損傷の機能残存レベル別の車椅子駆動、キャスター上げの指導・介助方法とその動作を演習し、脊髄損傷患者の社会復帰と環境設定を学習する。							
8	小児理学療法の概念			小児理学療法のパラダイムシフト、小児理学療法の最新の動向、小児理学療法におけるICF、家族中心療法の重要性について学ぶ							
9	低出生体重児・ハイリスク児の病態・特徴			低出生体重児・ハイリスク児の病態や特徴、近年の出生状況などを学ぶ							
10	疾患別評価・治療アプローチ：脳性麻痺1			脳性まひの概念、病態や運動的特徴、脳性まひタイプ別特徴の違いについて学ぶ							
11	疾患別評価・治療アプローチ：脳性麻痺2			脳性まひの理学療法評価、治療プログラムの立案、脳性まひのEBM、痙性治療の実践について学ぶ。							
12	疾患別評価・治療アプローチ：小児整形疾患			二分脊椎・Perthes病・発育性股関節形成不全など小児整形疾患の病態や特徴について学ぶ							
13	疾患別評価・治療アプローチ：先天性疾患			Down症候群や小児先天性疾患、発達障害の病態や特徴について学ぶ							
14	小児疾患のまとめ			講義のまとめ・国試問題・ディスカッション							
15	まとめ			これまでの授業内容を復習し理解を深める							
準備学習（予習復習）の具体的な内容		速やかに理解できるよう、疾患の概要とそれに関わる解剖学、生理学の基礎知識を予習して臨むこと。									
成 績 評 価		☒ 定期試験 （ 90 % ） ☒ 実技試験 （ 10 % ） ☐ 小テスト （ % ） ☐ レポート （ % ） ☐ 課題 （ % ） ☐ 発表 （ % ） ☐ その他 （ ）									
教 科 書		脊髄損傷マニュアル（医学書院） Crosslink 理学療法テキスト 小児理学療法学（メジカルビュー）									
参 考 書											
授業の留意点・備考		疾患の病態、症状から適切な理学療法を選択するまでのつながりを理解すること。									

授 業 計 画		
回	テーマ	授 業 内 容
16	リハビリテーション支援機器	リハビリテーション支援機器の分類と移動補助具について学ぶ。
17	中枢神経障害患者へのADL指導①	脳卒中片麻痺患者における基本的動作におけるADL指導を学び演習する
18	中枢神経障害患者へのADL指導②	脳卒中片麻痺患者におけるSelf-careに対するADL指導を学び演習する
19	中枢神経障害患者へのADL指導③	脳卒中片麻痺患者における乗り物への乗降などのADL指導を学び演習する
20	運動器障害患者に対するADL指導①	松葉杖処方と荷重負荷設定を中心に下肢骨折患者のADL指導を学び演習する
21	運動器障害患者に対するADL指導②	人工関節全置換術後患者の疾患特性を踏まえてADL指導を学び演習する
22	運動器障害患者に対するADL指導③	関節リウマチ（RA）患者の疾患特性とともにADL指導上の留意点を学習する
23	運動器障害患者に対するADL指導④	有痛性疾患患者の疾患特性とともにADL指導上の留意点を学習する
24	神経難病患者に対するADL指導①	パーキンソン病（PD）患者の疾患特性とともにADL指導上の留意点を学習する
25	神経難病患者に対するADL指導②	筋萎縮性側索硬化症（ALS）患者の疾患特性とともにADL指導上の留意点を学習する
26	神経難病患者に対するADL指導③	筋ジストロフィー（MD）患者・児の疾患特性とともにADL指導上の留意点を学習する
27	神経難病患者に対するADL指導④	脳性麻痺（CP）患者・児の疾患特性とともにADL指導上の留意点を学習する
28	心・肺機能障害患者に対するADL指導①	循環器障害患者の疾患特性とともにADL指導上の留意点を学習し演習する
29	心・肺機能障害患者に対するADL指導②	呼吸器障害患者の疾患特性とともにADL指導上の留意点を学習し演習する
30	まとめ	講義の質疑応答ならびに総復習を行う。
準備学習（予習復習）の具体的な内容		教科書を読んで予習しておいてください。また、授業で配る資料の復習をしてください。
成 績 評 価		☒ 定期試験 （ 90 % ） ☐ 実技試験 （ % ） ☒ 小テスト （ 10 % ） ☐ レポート （ % ） ☐ 課題 （ % ） ☐ 発表 （ % ） ☐ その他 （ ）
教 科 書		Crosslink 理学療法テキスト 日常生活活動学：メジカルビュー社
参 考 書		動作分析臨床活用講座：メジカルビュー社、標準理学療法 日常生活活動学・生活環境学：医学書院、PT・OTビジュアルテキスト ADL：羊土社
授業の留意点・備考		学習内容に対して自分なりの考えを持ち、能動的かつ積極的な学習姿勢で他者と分かち合いながら相互的に理解していくように努めること。また、提出物や作成物等の提出は必ず期限を厳守すること。

科目名	物理療法学Ⅰ							担当教員	岩北 耕三		
学科	理学療法学科	年次	3	開講期	前期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義・演習
区分	専門分野	教育内容	理学療法治療学						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		医療の現場で実際に物理療法を実施した経験を活かして、物理療法の有効性や実際の使い方について講義を行う。									
授 業 概 要		物理療法は運動療法とともに理学療法の両輪であり重要な治療手段である。物理療法は、様々な生体反応に好影響をもたらし、運動療法と併用・同時実施することで治療効果を相乗的に高められる。本科目では物理療法のうち、熱を使うもの（温熱療法と寒冷療法）について、生体内の反応を含めた効果や適応・禁忌を学ぶ。									
到 達 目 標		熱を用いる物理療法について理解し、理論的に説明することが可能である。また、機器の安全かつ正確な操作が実施できる。									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	オリエンテーション 物理療法とは			物理療法とは何か、その概要について学ぶ。							
2	物理療法におけるリスク管理			リスク管理の基礎・実際							
3	温熱療法①			温熱療法の定義・分類、実施手順、適応と禁忌							
4	温熱療法②			温熱療法の定義・分類、実施手順、適応と禁忌							
5	寒冷療法①			寒冷療法・極超短波の定義・分類、実施手順、適応と禁忌							
6	寒冷療法②			寒冷療法・極超短波の定義・分類、実施手順、適応と禁忌							
7	電磁波療法①			電磁波療法の定義・分類、実施手順、適応と禁忌							
8	電磁波療法②			電磁波療法の定義・分類、実施手順、適応と禁忌							
9	超音波療法①			超音波療法の定義・分類、実施手順、適応と禁忌							
10	超音波療法②			超音波療法の定義・分類、実施手順、適応と禁忌							
11	電気療法①			電気療法の定義・分類、実施手順、適応と禁忌							
12	電気療法②			電気療法の定義・分類、実施手順、適応と禁忌							
13	水治・牽引療法①			水治・牽引療法の定義・分類、実施手順、適応と禁忌							
14	水治・牽引療法②			水治・牽引療法の定義・分類、実施手順、適応と禁忌							
15	まとめ			これまでの授業内容を復習し理解を深める							
準備学習(予習復習)の具体的な内容		物理療法を実施する場合、生体内でどのような変化が起こるか理解することが大切であり、生理学の知識が必要。生理学の知識の整理、復習を行うこと									
成 績 評 価		☒ 定期試験 (80 %) ☐ 実技試験 (%) ☐ 小テスト (%) ☐ レポート (20 %) ☐ 課題 (%) ☐ 発表 (%) ☐ その他 (%)									
教 科 書		物理療法学 第3版									
参 考 書		網本和、菅原憲一編集 標準理学療法学専門分野 物理療法学 医学書院 庄本康治編集 エビデンスから身につける物理療法 羊土社									
授業の留意点・備考		各種物理療法の実践時は軽装を準備すること									

科目名	物理療法学Ⅱ							担当教員	岩北 耕三		
学科	理学療法学科	年次	3	開講期	後期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義・演習
区分	専門分野	教育内容	理学療法治療学						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		医療の現場で実際に物理療法を実施した経験を活かして、物理療法の有効性や実際の使い方について講義を行う。									
授業概要		物理療法は運動療法と並ぶ代表的治療であり、熱・光・水・電気・機械的刺激など各種物理的刺激を生体に加えることで症状の改善を図る理学療法の一手段である。臨床の場で扱われている物理療法について、その作用、効果、禁忌を理解し、患者の症状に合わせた治療法の選択、提供が出来るように学習する。									
到達目標		基本的な物理療法について理解し、理論的に説明することが可能である。また、機器の安全かつ正確な操作が実施できる。									
授業計画											
回	テーマ			授業内容							
1	オリエンテーション			授業の進め方・物理療法におけるエビデンスを学ぶ							
2	物理療法研究			物理療法における研究を行う							
3	物理療法研究			物理療法における研究を行う							
4	物理療法研究			物理療法における研究を行う							
5	物理療法研究			物理療法における研究を行う							
6	物理療法研究			物理療法における研究を行う							
7	物理療法研究			物理療法における研究を行う							
8	物理療法研究			物理療法における研究を行う							
9	物理療法研究			物理療法における研究を行う							
10	物理療法演習			物理療法の演習を行う							
11	物理療法演習			物理療法の演習を行う							
12	物理療法演習			物理療法の演習を行う							
13	物理療法演習			物理療法の演習を行う							
14	物理療法演習			物理療法の演習を行う							
15	まとめ			これまでの授業内容を復習し理解を深める							
準備学習(予習復習)の具体的な内容		物理療法を実施する場合、生体内でどのような変化が起こるか理解することが大切であり、生理学の知識が必要。生理学の知識の整理、復習を行うこと									
成績評価		☒ 定期試験 (60 %) ☐ 実技試験 (%) ☐ 小テスト (%) ☒ レポート (40 %) ☐ 課題 (%) ☐ 発表 (%) ☐ その他 ()									
教科書		物理療法学 第3版									
参考書		網本和, 菅原憲一編集 標準理学療法学専門分野 物理療法学 医学書院 庄本康治編集 エビデンスから身につける物理療法 羊土社									
授業の留意点・備考		各種物理療法の実践時は軽装を準備すること									

科目名	義肢装具学	担当教員	藏原 和也
-----	-------	------	-------

学科	理学療法学科	年次	3	開講期	前期	単位数	2	時数	60	授業形態	講義・演習
区分	専門分野	教育内容	理学療法治療学						選択・必修	必修	

担当教員の実務経験	義肢装具士として採型・製作・適合に多くの臨床経験を活かして、役割や総合支援法の制度等について講義・演習を行う事が出来る。										
授 業 概 要	義肢装具の定義・歴史・目的・構造・素材等の基本的な知識とリハビリテーションにおける。位置付け、及び装具の適合判定について演習を取り入れて学習する。										
到 達 目 標	理学療法士として疾患・症状・状態等を理解して、適応する装具を選択できるようにする。装着後のチェックアウトが出来るようにする。										

授 業 計 画

回	テーマ	授 業 内 容
1	義肢総論：切断と義肢の基礎知識	基本的構成要素・名称・種類・適合・アライメントを理解する。
2	義足総論	分類・構造と各種構成部品の特徴を理解する。
3	義肢各論：下腿義足	各種義足の特徴・構成部品を理解する。
4	義足各論：股義足・大腿義足・膝義足	各種義足の特徴・構成部品を理解する。
5	義足各論：足部義足・サイム義足	各種義足の特徴・構成部品を理解する。
6	義手総論	分類・構造と各種構成部品の特徴を理解する。
7	装具総論：装具の基礎知識	基本的構成要素・名称・種類・適応・役割を理解する。
8	装具各論：頸部及び体幹装具	基本構造・種類・機能・目的・適応疾患について理解する。
9	装具総論：上肢装具	基本構造・種類・機能・目的・適応疾患について理解する。
10	装具各論：特殊装具	対麻痺用装具の種類や機能と小児疾患の装具の種類や機能について理解する。
11	装具各論：下肢装具	下肢装具を構成する各関節の継手や足部、基本的な部品の名称・構造・機能を理解する。
12	装具各論：下肢装具	下肢装具を構成する各関節の継手や足部、基本的な部品の名称・構造・機能を理解する。
13	演習：足底装具の採型	足底装具の採型体験、体幹装具と短下肢装具の採型見学
14	演習：短下肢装具の製作見学	プラスチック製短下肢装具の製作見学。トリミング～仮合わせ、評価まで
15	まとめ	

授 業 計 画		
回	テーマ	授 業 内 容
16	演習：切断の総論	切断のリハビリテーションについて、断端後の症状や対応、断端管理について理解する。
17	切断の総論	切断のリハビリテーションについて、義肢への展開と注意点について理解する。
18	大腿義足	大腿義足の適合・アライメントチェック・異常歩行との関連を理解する。
19	演習：大腿義足	症例課題：異常歩行から考えられる義足のチェックアウトを検討し理解を深める。
20	下腿義足	下腿義足の適合・アライメントチェック・異常歩行との関連を理解する。
21	股義足、その他	股義足・膝義足・下腿義足・足部の義足の適合・アライメントチェック・異常歩行との関連を理解する。義足でのADL動作の基本的考え方を理解する。
22	下肢装具（中枢疾患）	脳卒中片麻痺患者の装具を用いたリハビリテーションの展開を理解する。
23	演習：長下肢装具	疾患の症状と長下肢装具の適合・調整を演習を通し理解する。また、患者への指導やADL動作指導について理解する。
24	演習：短下肢装具	疾患の症状と短下肢装具の適合・調整を演習を通し理解する。
25	上肢装具	整形疾患における上肢装具の適応とリハビリテーション時の注意点を理解する。
26	演習：頸部・体幹装具	整形疾患における頸部・体幹装具の適応とリハビリテーション時の注意点を理解する。
27	演習：下肢装具（整形疾患）	整形疾患における下肢装具やサポーター、靴型装具・足底板などの適応とリハビリテーション時の注意点を理解する。
28	課題	
29	課題	
30	まとめ	これまでの授業内容を復習し理解を深める
準備学習（予習復習）の具体的な内容		履修内容に関連した範囲は必ず学習する事。（教科書の予習・復習する。）
成 績 評 価		☒ 定期試験 （ 100 % ） ☐ 実技試験 （ % ） ☐ 小テスト （ % ） ☐ レポート （ % ） ☐ 課題 （ % ） ☐ 発表 （ % ） ☐ その他 （ ）
教 科 書		Crosslink 理学療法学テキスト 義肢装具学
参 考 書		教科書以外の内容は適宜資料を配布
授業の留意点・備考		配布資料は必ず確認・理解して、分からない部分は積極的に質問して解決するように努力すること。

科目名	理学療法特論演習Ⅰ						担当教員	理学療法学科教員			
-----	-----------	--	--	--	--	--	------	----------	--	--	--

学科	理学療法学科	年次	3	開講期	後期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義・演習
区分	専門分野	教育内容	理学療法治療学						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		医療・保健・福祉における様々な分野・領域で多様な疾患を経験し、急性期から回復期までの臨床経験を持つ。									
授業概要		理学療法士学生に必要な基本的情動・認知・精神運動の各領域を演習・実技を通して習得し、評価実習に必要な資質を身につける。他学年との交流にて3学年の課題についてイメージできることで学習の目標設定を明確にし活動できるように取り組む。									
到達目標		・理学療法士学生に必要な心構えを身につける。 ・評価実習に必要な情意領域、認知領域、精神運動領域を身につける。									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	オリエンテーション			本授業の概要と授業進行、評価方法について説明する。(緒方)							
2	理学療法専門領域演習			理学療法評価・治療の基礎・応用 (ROM- t 山下)							
3	理学療法専門領域演習			理学療法評価・治療の基礎・応用 (ROM- t 山下)							
4	理学療法専門領域演習			理学療法評価・治療の基礎・応用 (形態測定 山下)							
5	理学療法専門領域演習			理学療法評価・治療の基礎・応用 (整形外科テスト 岩北)							
6	理学療法専門領域演習			理学療法評価・治療の基礎・応用 (整形外科テスト 岩北)							
7	理学療法専門領域演習			理学療法評価・治療の基礎・応用 (反射検査 緒方)							
8	理学療法専門領域演習			理学療法評価・治療の基礎・応用 (感覚検査 栗野)							
9	理学療法専門領域演習			理学療法評価・治療の基礎・応用 (感覚検査 栗野)							
10	理学療法専門領域演習			理学療法評価・治療の基礎・応用 (MMT 山本)							
11	理学療法専門領域演習			理学療法評価・治療の基礎・応用 (MMT 山本)							
12	理学療法専門領域演習			理学療法評価・治療の基礎・応用 (MMT 山本)							
13	理学療法専門領域演習			理学療法評価・治療の基礎・応用 (片麻痺機能検査 楠本)							
14	理学療法専門領域演習			理学療法評価・治療の基礎・応用 (片麻痺機能検査 楠本)							
15	理学療法専門領域演習			理学療法評価・治療の基礎・応用 (片麻痺機能検査 楠本)							
準備学習（予習復習）の具体的な内容		教科書等を用いて事前に確認し、受講後は振り返りを必ず実施すること。									
成績評価		☒ 定期試験 (50 %) ☒ 実技試験 (50 %) ☐ 小テスト (%) ☐ レポート (%) ☐ 課題 (%) ☐ 発表 (%) ☐ その他 ()									
教科書		特になし									
参考書		・理学療法評価学 (金原出版) ・ベッドサイドの神経の診かた (南山堂)									
授業の留意点・備考		常に問題解決的意識を持って臨み、特にグループでの学習活動に際しては、能動的かつ積極的な学習姿勢で相互の理解に努めること。また、提出物や作成物等の提出は必ず期限を厳守すること。必要に応じて現場に即した身だしなみ（実習靴及び実習着着用、整髪、貴金属類の装着不可等）で受講すること。									

科目名	理学療法特論演習Ⅱ	担当教員	理学療法学科教員
-----	-----------	------	----------

学科	理学療法学科	年次	4	開講期	前期	単位数	4	時数	120	授業形態	講義・演習
区分	専門分野	教育内容	理学療法治療学						選択・必修	必修	

担当教員の実務経験	5年以上の臨床経験を持つ理学療法学科各教員が、それぞれの分野について教授する。										
授 業 概 要	実際の現場で求められる専門的な視点とその関わりについて学ぶ。 また、リハビリテーションサービスにおける理学療法士の役割や関わりの相違について学ぶ。										
到 達 目 標	臨床実習や資格取得後に経験する症例について病態や特徴の把握を通して理解を深め、さらに生活者として捉え、在宅におけるより具体的な生活イメージの構築につなげる。										

授 業 計 画											
---------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	講義の進め方、成績評価について
2	理学療法臨床基礎	運動器障害患者に関する基礎知識①
3	理学療法臨床基礎	運動器障害患者に関する基礎知識②
4	理学療法臨床基礎	運動器障害患者に関する基礎知識③
5	理学療法臨床基礎	運動器障害患者に関する基礎知識④
6	理学療法臨床基礎	運動器障害患者に関する基礎知識⑤
7	理学療法臨床応用	運動器障害患者に対する評価と治療①
8	理学療法臨床応用	運動器障害患者に対する評価と治療②
9	理学療法臨床応用	運動器障害患者に対する評価と治療③
10	理学療法臨床応用	運動器障害患者に対する評価と治療④
11	理学療法臨床応用	運動器障害患者に対する評価と治療⑤
12	理学療法臨床応用	運動器障害患者に対する評価と治療⑥
13	理学療法臨床応用	運動器障害患者に対する評価と治療⑦
14	理学療法臨床応用	運動器障害患者に対する評価と治療⑧
15	理学療法臨床応用	運動器障害患者に対する評価と治療⑨
16	理学療法臨床基礎	中枢神経障害患者に関する基礎知識①
17	理学療法臨床基礎	中枢神経障害患者に関する基礎知識②
18	理学療法臨床基礎	中枢神経障害患者に関する基礎知識③
19	理学療法臨床基礎	中枢神経障害患者に関する基礎知識④
20	理学療法臨床基礎	中枢神経障害患者に関する基礎知識⑤

授 業 計 画		
回	テーマ	授 業 内 容
21	理学療法臨床応用	中枢神経障害患者に対する評価と治療①
22	理学療法臨床応用	中枢神経障害患者に対する評価と治療②
23	理学療法臨床応用	中枢神経障害患者に対する評価と治療③
24	理学療法臨床応用	中枢神経障害患者に対する評価と治療④
25	理学療法臨床応用	中枢神経障害患者に対する評価と治療⑤
26	理学療法臨床応用	中枢神経障害患者に対する評価と治療⑥
27	理学療法臨床応用	中枢神経障害患者に対する評価と治療⑦
28	理学療法臨床応用	中枢神経障害患者に対する評価と治療⑧
29	理学療法臨床応用	中枢神経障害患者に対する評価と治療⑨
30	理学療法臨床基礎	循環器障害患者に関する基礎知識①
31	理学療法臨床基礎	循環器障害患者に関する基礎知識②
32	理学療法臨床基礎	循環器障害患者に関する基礎知識③
33	理学療法臨床基礎	循環器障害患者に関する基礎知識④
34	理学療法臨床基礎	循環器障害患者に関する基礎知識⑤
35	理学療法臨床応用	循環器障害患者に対する評価と治療①
36	理学療法臨床応用	循環器障害患者に対する評価と治療②
37	理学療法臨床応用	循環器障害患者に対する評価と治療③
38	理学療法臨床応用	循環器障害患者に対する評価と治療④
39	理学療法臨床応用	循環器障害患者に対する評価と治療⑤
40	理学療法臨床基礎	呼吸器障害患者に関する基礎知識①
41	理学療法臨床基礎	呼吸器障害患者に関する基礎知識②
42	理学療法臨床基礎	呼吸器障害患者に関する基礎知識③
43	理学療法臨床基礎	呼吸器障害患者に関する基礎知識④
44	理学療法臨床基礎	呼吸器障害患者に関する基礎知識⑤
45	理学療法臨床応用	呼吸器障害患者に対する評価と治療①
46	理学療法臨床応用	呼吸器障害患者に対する評価と治療②
47	理学療法臨床応用	呼吸器障害患者に対する評価と治療③
48	理学療法臨床応用	呼吸器障害患者に対する評価と治療④
49	理学療法臨床応用	呼吸器障害患者に対する評価と治療⑤

50	理学療法臨床基礎	その他疾患に関する基礎知識①
51	理学療法臨床基礎	その他疾患に関する基礎知識②
52	理学療法臨床基礎	その他疾患に関する基礎知識③
53	理学療法臨床応用	その他疾患に対する評価と治療①
54	理学療法臨床応用	その他疾患に対する評価と治療②
55	理学療法臨床応用	その他疾患に対する評価と治療③
56	理学療法臨床応用	その他疾患に対する評価と治療④
57	まとめ	これまで学習したことを復習し、理解を深める。
58	まとめ	これまで学習したことを復習し、理解を深める。
59	まとめ	これまで学習したことを復習し、理解を深める。
60	まとめ	これまで学習したことを復習し、理解を深める。
準備学習（予習復習）の具体的な内容		各テーマの前には事前学習に努めること。
成績評価		☒ 定期試験（100%） ☐ 実技試験（ %） ☐ 小テスト（ %） ☐ レポート（ %） ☐ 課題（ %） ☐ 発表（ %） ☐ その他（ ）
教科書		なし
参考書		担当教員より都度指示します。
授業の留意点・備考		遅刻や欠席をしないよう心がけ、最後まで集中して講義に臨むこと。

科目名		理学療法専門分野特論Ⅰ						担当教員		理学療法学科教員		
学科	理学療法学科		年次	4	開講期	後期	単位数	2	時数	60	授業形態	講義・演習
区分	専門基礎分野	教育内容		理学療法治療学						選択・必修		必修
担当教員の実務経験		理学療法士として10年以上臨床に携わった経験から国家試験問題対策を教授する。										
授 業 概 要		国家試験対策として自己学習、ペアでの学習、グループでの学習、特別講義、模擬試験 等を行なう。学習状況や理解度を確認しながら炊事検討を図り、 妥当な時期や実施の必要性を見極めながら取り入れていく。										
到 達 目 標		理学療法士国家試験における専門分野における治療的内容に関する知識を理解する。										
授 業 計 画												
回	テーマ				授 業 内 容							
1	オリエンテーション				近年の国家試験における専門分野の出題傾向を説明する。							
2	専門分野				運動学習，身体とテコ，神経伝達速度測定							
3	専門分野				運動学習，身体とテコ，神経伝達速度測定							
4	専門分野				関節可動域運動，伸張運動							
5	専門分野				関節可動域運動，伸張運動							
6	専門分野				関節可動域運動，伸張運動							
7	専門分野				神経生理学的アプローチ，運動生理，筋力増強運動 リスク管理							
8	専門分野				神経生理学的アプローチ，運動生理，筋力増強運動 リスク管理							
9	専門分野				神経生理学的アプローチ，運動生理，筋力増強運動 リスク管理							
10	専門分野				温熱療法と寒冷療法							
11	専門分野				温熱療法と寒冷療法							
12	専門分野				温熱療法と寒冷療法							
13	専門分野				電気刺激療法，バ ^ク イ ^ト バ ^ク 療法，牽引療法							
14	専門分野				電気刺激療法，バ ^ク イ ^ト バ ^ク 療法，牽引療法							
15	専門分野				電気刺激療法，バ ^ク イ ^ト バ ^ク 療法，牽引療法							

授 業 計 画		
回	テーマ	授 業 内 容
16	専門分野	徒手筋力テスト, 関節可動域測定
17	専門分野	徒手筋力テスト, 関節可動域測定
18	専門分野	徒手筋力テスト, 関節可動域測定
19	専門分野	ブルンストローム法, 形態測定
20	専門分野	ブルンストローム法, 形態測定
21	専門分野	ブルンストローム法, 形態測定
22	専門分野	運動負荷強度, 最大酸素摂取量・エネルギー消費量・呼吸商
23	専門分野	運動負荷強度, 最大酸素摂取量・エネルギー消費量・呼吸商
24	専門分野	呼吸機能評価, 呼吸理学療法, 在宅酸素療法
25	専門分野	呼吸機能評価, 呼吸理学療法, 在宅酸素療法
26	専門分野	運動発達, 小児の反射反応, 脳性麻痺
27	専門分野	運動発達, 小児の反射反応, 脳性麻痺
28	専門分野	熱傷, 腰痛症, 頸部・脊椎の障害
29	専門分野	関節リウマチ
30	模擬試験	これまでの専門分野のまとめおよび習得内容の確認
準備学習（予習復習）の具体的な内容		日々の国家試験過去問やリハナビでの問題回答をしっかりと行なっていく。
成 績 評 価		☒ 定期試験 （ 100 % ） ☐ 実技試験 （ % ） ☐ 小テスト （ % ） ☐ レポート （ % ） ☐ 課題 （ % ） ☐ 発表 （ % ） ☐ その他 （ ）
教 科 書		・クエスチョンバンク 理学療法士国家試験問題解説 ・TRY過去問 専門分野
参 考 書		その他、専門分野に関連する教科書
授業の留意点・備考		グループ（活動班）による学習を通して、国家試験合格率の向上に努める。

科目名		理学療法専門分野特論Ⅱ						担当教員		理学療法学科教員		
学科	理学療法学科		年次	4	開講期	後期	単位数	2	時数	60	授業形態	講義・演習
区分	専門基礎分野	教育内容		理学療法治療学						選択・必修		必修
担当教員の実務経験		理学療法士として10年以上臨床に携わった経験から国家試験問題対策を教授する。										
授 業 概 要		国家試験対策として自己学習、ペアでの学習、グループでの学習、特別講義、模擬試験 等を行なう。学習状況や理解度を確認しながら炊事検討を図り、 妥当な時期や実施の必要性を見極めながら取り入れていく。										
到 達 目 標		理学療法士国家試験における専門分野における治療的内容に関する知識を理解する。										
授 業 計 画												
回	テーマ				授 業 内 容							
1	オリエンテーション				近年の国家試験における専門分野の出題傾向を説明する。							
2	専門分野				膝関節の障害（変形性関節症含む）							
3	専門分野				膝関節の障害（変形性関節症含む）							
4	専門分野				膝関節の障害（変形性関節症含む）							
5	専門分野				大腿骨における骨折							
6	専門分野				大腿骨における骨折							
7	専門分野				大腿骨における骨折							
8	専門分野				肩関節、その他上肢機能における障害							
9	専門分野				肩関節、その他上肢機能における障害							
10	専門分野				肩関節、その他上肢機能における障害							
11	専門分野				整形外科的検査法							
12	専門分野				整形外科的検査法							
13	専門分野				整形外科的検査法							
14	専門分野				脳血管障害（高次脳機能障害含む）							
15	専門分野				脳血管障害（高次脳機能障害含む）							

授 業 計 画		
回	テーマ	授 業 内 容
16	専門分野	脳血管障害（高次脳機能障害含む）
17	専門分野	基本的動作訓練
18	専門分野	基本的動作訓練
19	専門分野	Pusher現象・肩手症候群
20	専門分野	Pusher現象・肩手症候群
21	専門分野	パーキンソン病，多発性硬化症，筋萎縮性側索硬化症
22	専門分野	パーキンソン病，多発性硬化症，筋萎縮性側索硬化症
23	専門分野	多発性筋炎，筋ジストロフィー
24	専門分野	多発性筋炎，筋ジストロフィー
25	専門分野	上肢および下肢装具
26	専門分野	上肢および下肢装具
27	専門分野	ADLの概念，ADLの評価
28	専門分野	FIM, Barthel Index, ICF
29	専門分野	インフォームドコンセント，研究法，理学療法士に関連する法規
30	模擬試験	これまでの専門分野のまとめおよび習得内容の確認
準備学習（予習復習）の具体的な内容		日々の国家試験過去問やリハナビでの問題回答をしっかりと行なっていく。
成 績 評 価		☒ 定期試験 （ 100 % ） ☐ 実技試験 （ % ） ☐ 小テスト （ % ） ☐ レポート （ % ） ☐ 課題 （ % ） ☐ 発表 （ % ） ☐ その他 （ ）
教 科 書		・クエスチョンバンク 理学療法士国家試験問題解説 ・TRY過去問 専門分野
参 考 書		その他、専門分野に関連する教科書
授業の留意点・備考		グループ（活動班）による学習を通して、国家試験合格率の向上に努める。

学科	理学療法学科	年次	2	開講期	後期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義・演習
区分	基礎分野	教育内容	地域理学療法学						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		回復期病棟や地域包括ケア病棟、通所リハビリテーションにおける臨床経験を活かし生活環境が地域の障がい者や高齢者に与える影響について講義・演習を行う事が出来る									
授 業 概 要		障がい者や高齢者の生活環境（日常生活）の中にどのような問題があるのか、理学療法士として、人的環境、社会的環境、物理的環境の多面的な側面から考え、考察を行なっていく									
到 達 目 標		- 生活環境上の評価項目を挙げることができる。 - 生活環境上の問題点を挙げることができる。 - 生活環境上の問題点に対する解決方法を考えることができる。									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	生活環境の概念①			生活環境の定義について理解し、対象者の生活環境の範囲や理学療法と環境との関連性について学ぶ。							
2	生活環境の概念②			医学モデルと社会モデルの問題を両面から捉え、対象者のニーズや生活環境との関係性について理解する。							
3	生活環境の概念③			ICFの構成要素を理解し、ICFを活用した生活環境支援について学習する。							
4	生活環境の評価①			生活環境の評価の目的や項目について学び、在宅生活を送る上での生活状況や環境因子について理解を深める。							
5	生活環境の評価②			生活状況を知る上での情報収集の方法について、聞き取りを行う対象や訪問調査の流れなどを学習する。							
6	生活環境の評価③			日常生活活動（ADL）と生活環境の評価について理解し、生活動作に合わせた環境調整を学ぶことができる。							
7	生活環境の評価④			人的環境と物的環境について学習する。							
8	生活環境支援①			義肢・装具や歩行補助具など移動に関連した生活環境支援について学ぶ。							
9	生活環境支援②			住宅改修の事例を通じて、住宅環境に関連した生活環境支援の方法や評価の視点について理解する。							
10	生活環境支援③			医療保険や介護保険制度の概要を学びながら、生活環境支援における制度の利用について学習する。							
11	代表的な疾患における生活環境①			脳卒中片麻痺患者における疾患特性に応じた生活環境に関する評価や支援の要点を理解する。							
12	代表的な疾患における生活環境②			脳卒中片麻痺患者模擬症例の環境調整について、グループワークや発表を通し事例検討する。							
13	代表的な疾患における生活環境③			関節疾患・地域在住高齢者における疾患特性に応じた生活環境に関する評価や支援の要点を理解する。							
14	代表的な疾患における生活環境④			関節疾患患者模擬症例の環境調整について、グループワークや発表を通し事例検討する。							
15	まとめ			まとめ							
準備学習（予習復習）の具体的な内容		予習は求めないが、復習は講義が終わった後教科書やノート配布資料等で必ず確認を行なう。									
成 績 評 価		☒ 定期試験 （ 80 % ） ☐ 実技試験 （ % ） ☐ 小テスト （ % ） ☒ レポート （ 10 % ） ☐ 課題 （ % ） ☒ 発表 （ 10 % ） ☐ その他 （ ）									
教 科 書		Crosslink リハビリテーションテキスト 生活環境学									
参 考 書		配布資料									
授業の留意点・備考		不明な点はそのままにせず積極的に質問して貴重な講義を有効活用すること。また、グループワークを行う場合は、ディスカッション等に積極的に参加すること。									

科目名	地域理学療法学	担当教員	松井 亨
-----	---------	------	------

学科	理学療法学科	年次	3	開講期	後期	単位数	2	時数	60	授業形態	講義
区分	専門分野	教育内容	地域理学療法学						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		医療・介護分野での実務経験や会社経営を通し通所介護、訪問看護ステーションなどの運営をおこなっている。また、市町村の委託事業などを通して行政との関わりも多く、地域における理学療法士の関わり方や役割について講義・演習を行うことができる。									
授 業 概 要		地域リハビリテーションの背景や現状を理解し、地域における理学療法士としての専門的な関わりを学習する。また、介護保険制度や地域包括ケアシステムに関する知識も深め、今後の理学療法士の在り方を学ぶ。高齢者施設の演習やボランティアに参加して地域貢献活動を学ぶ。									
到 達 目 標		1. 地域リハビリテーションに関わる専門職としての知識の習得のみならず、地域で暮らす障害者や高齢者の具体的な支援方法を説明できる。2. 地域リハビリテーションの必要性、関連職種役割や連携について説明できる。3. 介護保険制度の位置づけを説明できる。訪問リハ・デイサービス・デイケアの目的、対象、具体的内容について説明できる。4. 介護老人保健施設・特別養護老人ホームの目的、対象、具体的内容について説明できる。									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	介護保険サービス下での（生活支援場面）での理学療法（士）			生活支援にかかわる理学療法士の役割							
2	介護保険サービス下での（生活支援場面）での理学療法（士）			介護老人保健施設の機能と役割							
3	介護保険サービス下での（生活支援場面）での理学療法（士）			介護老人保健施設の機能と役割							
4	介護保険サービス下での（生活支援場面）での理学療法（士）			介護老人保健施設の機能と役割							
5	介護保険サービス下での（生活支援場面）での理学療法（士）			通所リハ（デイケア）の機能と役割							
6	介護保険サービス下での（生活支援場面）での理学療法（士）			通所リハ（デイケア）の機能と役割							
7	介護保険サービス下での（生活支援場面）での理学療法（士）			通所リハ（デイケア）の機能と役割							
8	介護保険サービス下での（生活支援場面）での理学療法（士）			通所介護（デイサービス）の機能と役割							
9	介護保険サービス下での（生活支援場面）での理学療法（士）			通所介護（デイサービス）の機能と役割							
10	介護予防と健康増進			介護予防と健康増進の概念							
11	介護予防と健康増進			介護予防と健康増進の概念							
12	介護予防と健康増進			これまでの介護予防事業の在り方							
13	介護予防と健康増進			介護予防・日常生活支援総合事業の実際							
14	介護予防と健康増進			健康増進を目指す取り組み							
15	まとめ			これまでの授業内容を復習し理解を深める							
準備学習（予習復習）の具体的な内容		「地域リハビリとは何か」病院以外での理学療法士の活躍を調べてみる。インターネット等のメディアを通して最新の介護保険事情を調べておくこと。									
成 績 評 価		☒ 定期試験 （ 80 % ） ☐ 実技試験 （ % ） ☐ 小テスト （ % ） ☒ レポート （ 20 % ） ☐ 課題 （ % ） ☐ 発表 （ % ） ☐ その他 （ ）									
教 科 書		地域リハビリテーション学テキスト 改訂版第3版 （南江堂）									
参 考 書		講師からの配布資料									
授業の留意点・備考		高齢者支援制度は日々変化している。様々な情報に耳を傾けるよう意識してほしい。									

学科	理学療法学科	年次	3	開講期	後期	単位数	2	時数	60	授業形態	講義・演習
区分	専門分野	教育内容	地域理学療法学						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		医療・介護分野での実務経験や地域密着リハビリテーションセンター(平成30年より認定)としての地域活動経験を有しており、地域における理学療法士の関わり方や役割について現場の声を活かした講義・演習を行うことができる。 実務経験-回復期病棟：1年、クリニック(入院・外来)：10年、訪問看護ステーション：1年半、通所リハビリ：2年)									
授業概要		・リハビリテーションの背景や現状を理解し、地域における理学療法士としての専門的な関わりを学習する。また、リハビリテーション専門職として、多岐に渡る役割を学習し、様々な知識を身につける。 ・介護予防事業における地域住民との関わり方や自立支援型地域ケア会議における多職種連携を学ぶことで、理学療法士としての専門性を磨く									
到達目標		1. 地域リハビリテーションに関わる専門職としての知識の習得のみならず、地域で暮らす障害者や高齢者の具体的な支援方法を説明できる。2. 医療保険・介護保険制度を理解し、各分野における理学療法士の役割について説明できる。3. 住み慣れた地域で生活するために必要な支援やフォーマル・インフォーマルサービスを学び、適切なリハビリテーションを選択ができるようになる。4. 理学療法士として国家資格習得後、即戦力となれる知識・技術を習得する。									
授業計画											
回	テーマ			授業内容							
1	地域リハビリテーション概論			地域リハの定義、医療・介護リハの種類、各分野における理学療法士の役割							
2	生活環境場面における理学療法			ポジショニング調整、シーティング、モジュールタイプの車いす調整、様々な条件における環境調整についての指導及び実技							
3	住環境整備について			介護保険制度を理解する。また住環境整備における基本的な知識を身につける							
4	住環境整備について(演習)			症例を元にサークル棟を用いて、実際に模擬的に家屋調査をグループで実施。							
5	住環境整備について(発表)			調査した内容を元に在宅復帰に必要な改修及び福祉用具、介護サービスの検討をグループ毎に行い、発表する							
6	介護予防事業について(実技)			地域包括ケアシステム、地域密着リハ、体力測定(実技)							
7	介護予防事業について(発表)			体力測定を元に健康講話についてのグループ発表							
8	自立支援型地域ケア会議について			自立支援型地域ケア会議の定義、役割、例題を元にグループ発表							
9											
10											
11											
12											
13											
14											
15											
準備学習(予習復習)の具体的な内容		教科書を読んでおく。医療・介護リハビリテーションの種類について調べておく。インターネットを用いて、文献・資料を準備しておく。									
成績評価		☒ 定期試験 (100%) ☐ 実技試験 (%) ☐ 小テスト (%) ☐ レポート (%) ☐ 課題 (%) ☐ 発表 (%) ☐ その他 (%)									
教科書		地域リハビリテーション学テキスト 改訂第版：南江堂									
参考書		講師からの配布資料									
授業の留意点・備考		4年次の長期臨床実習において、使用できそうな知識・技術習得を目指す。									

科目名		地域理学療法学					担当教員		非常勤講師			
学科	理学療法学科		年次	3	開講期	後期	単位数	2	時数	60	授業形態	講義
区分	専門分野	教育内容		地域理学療法学						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		一般・回復期・療養病棟のリハ業務や介護保険計画で地域や行政など多職種と関わった経験を活かし、地域リハビリテーションにおける理学療法士の役割や制度・今後の展望について講義・演習を行うことができる。										
授 業 概 要		地域リハビリテーションの概念、思想、実践方法について総括的に述べる。特に地域リハビリテーションの具体的内容、課題、あるべき将来像、在宅リハビリテーションとの関連などについて説明する。高齢者・障害者にとって地域生活に重要な介護保険の意義・制度・問題点や、高齢者・障害者への支援体制のあり方と問題点を述べる。新たに導入される地域包括ケアについて述べる。										
到 達 目 標		1 地域リハビリテーション、ノーマライゼーションの概念、思想、実践方法について説明できる。 2 在宅リハビリテーションのサービス、地域リハビリテーションとの関連などについて説明できる。 3 地域リハビリテーションの関連サービス、関連専門職の役割について説明できる。 4 地域包括ケアとそのシステムについて説明できる。 5 介護保険の理念と実践、リハビリテーション医療との関係について説明できる。 6 地域リハビリテーションの支援体制について説明できる。 7 地域リハビリテーションのあるべき将来像を考え、説明できる。										
授 業 計 画												
回	テーマ				授 業 内 容							
1	地域リハビリテーションの考え方				地域リハビリテーションの定義・活動を知り求められる理学療法士像を考える							
2	制度の変遷				地域リハビリテーションの歴史・背景を知り制度の変遷を理解する							
3	介護保険サービス概論Ⅰ				介護保険制度の理解を深める							
4	介護保険サービス概論Ⅱ				介護保険制度の中での理学療法士の役割について考える							
5	地域包括ケアシステムのなかでの理学療法士の役割Ⅰ				人口構造の変化と社会保障への影響を考え、地域包括ケアシステムを理解する							
6	地域包括ケアシステムのなかでの理学療法士の役割Ⅱ				地域リハビリテーションに関連する主な政策の動向を知り、マネジメントの考え方を経験する							
7	地域包括ケアシステムのなかでの理学療法士の役割Ⅲ				地域リハビリテーションにかかわるリハビリテーション職に期待される役割を考える							
8												
9												
10												
11												
12												
13												
14												
15												
準備学習（予習復習）の具体的な内容												
成 績 評 価		☒ 定期試験 （ 100 % ） ☐ 実技試験 （ % ） ☐ 小テスト （ % ） ☐ レポート （ % ） ☐ 課題 （ % ） ☐ 発表 （ % ） ☐ その他 （ ）										
教 科 書		地域リハビリテーション学テキスト 改訂第4版：南江堂										
参 考 書		講師からの配布資料										
授業の留意点・備考												

科目名	理学療法見学実習						担当教員	臨床実習指導者 理学療法学科教員		
-----	----------	--	--	--	--	--	------	---------------------	--	--

学科	理学療法学科	年次	1	開講期	前期	単位数	1	時数	45	授業形態	実習
区分	専門分野	教育内容	臨床実習						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		理学療法士の免許を有し、見学実習の指導を行う資格がある者。									
授 業 概 要		当校における1年次の実習は、早期臨床体験実習と同じ位置づけで行い、養成校入学時の漠然とした理学療法士になるという目標から、具体的な理学療法士像を構築し明確な目標を持つことを目指す。									
到 達 目 標		将来理学療法士となる上での資質の向上を図ることを目的としている。資質とは、認知・情意・精神運動の3つの領域における適正と考えている。ただし、今回の実習においては、認知領域および情意領域の向上を図ることとする。									
授 業 計 画											
回	テーマ				授 業 内 容						
1	臨床理学療法の見学				令和7年8月25日（月）～8月30日（土）のうち5日間						
2					令和7年9月1日（月）～9月6日（土）のうち5日間						
3					上記期間のいずれかで、各々の臨床実習施設で実施する。						
4											
5											
6											
7											
8											
9											
10											
11											
12											
13											
14											
15											
準備学習（予習復習）の具体的な内容											
成 績 評 価		☐ 定期試験 （ %） ☐ 実技試験 （ %） ☐ 小テスト （ %） ☐ レポート （ %） ☒ 課題 （ 100 %） ☐ 発表 （ %） ☐ その他 （ ）									
教 科 書											
参 考 書											
授業の留意点・備考											

科目名	評価実習						担当教員	臨床実習指導者			
-----	------	--	--	--	--	--	------	---------	--	--	--

学科	理学療法学科	年次	3	開講期	後期	単位数	4	時数	180	授業形態	実習
区分	専門分野	教育内容	臨床実習						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		臨床現場での5年以上の実務経験 臨床実習指導者講習の修了									
授 業 概 要		各種理学療法適応疾患における実際を理解し、認知領域・情意領域・精神運動領域それぞれの向上を図り、総合臨床実習並びに卒業後の実務へと繋げる。									
到 達 目 標		各種疾患の病態を理解し必要な理学療法評価を行うことができる。また理学療法の対象となる問題点を抽出し、目標の設定や対象に適切な理学療法プログラムの立案ができる。									
授 業 計 画											
回	テーマ				授 業 内 容						
1	理学療法学科評価実習				評価実習：令和8年1月13日（月）～令和8年2月7日（土）4週間						
2	理学療法学科評価実習				臨床実習指導者に準ずる						
3	理学療法学科評価実習				臨床実習指導者に準ずる						
4	理学療法学科評価実習				臨床実習指導者に準ずる						
5	理学療法学科評価実習				臨床実習指導者に準ずる						
6	理学療法学科評価実習				臨床実習指導者に準ずる						
7	理学療法学科評価実習				臨床実習指導者に準ずる						
8	理学療法学科評価実習				臨床実習指導者に準ずる						
9	理学療法学科評価実習				臨床実習指導者に準ずる						
10	理学療法学科評価実習				臨床実習指導者に準ずる						
11	理学療法学科評価実習				臨床実習指導者に準ずる						
12	理学療法学科評価実習				臨床実習指導者に準ずる						
13	理学療法学科評価実習				臨床実習指導者に準ずる						
14	理学療法学科評価実習				臨床実習指導者に準ずる						
15	理学療法学科評価実習				臨床実習指導者に準ずる						
準備学習（予習復習）の具体的な内容		解剖学、運動学、生理学はもとより、疾患の基礎知識や検査測定の意味、目的の復習を行う。また、基本的な検査測定手技の練習を十分に行うこと。									
成 績 評 価		☐ 定期試験（ %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 小テスト（ %） ☐ レポート（ %） ☒ 課題（ 100 %） ☐ 発表（ %） ☒ その他（総合的に判断する ）									
教 科 書		必要なものを準備すること。									
参 考 書		必要なものを準備すること。									
授業の留意点・備考		・実習に関わる全ての方々に感謝し相手の立場にたって丁寧に接すること。 ・積極的学習ならびに実習に取り組むこと。対象者に感謝の気持ちを持って接すること。									

科目名	総合臨床実習					担当教員	臨床実習指導者 理学療法学科教員				
学科	理学療法学科	年次	4	開講期		単位数	17	時数	765	授業形態	実習
区分	専門分野	教育内容	臨床実習						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		臨床実習指導者は臨床経験5年以上, 理学療法学科教員は臨床経験5年以上の経験を有している。									
授業概要		臨床実習指導者の指導のもと, 評価から治療および記録・報告などの一連の理学療法業務を経験し修得するとともに, 包括的リハビリテーションにおける理学療法の意義を考え, 理学療法士の役割と機能を学ぶとともに, 今後進むべき方向性や研究テーマを考える									
到達目標		臨床実習指導者の指導を受けながら, 現場のスケジュールに従って行動し, 理学療法業務全般を経験する。 臨床の現場で対象者の評価, 治療計画立案, 具体的治療を実践する。 対象者から得られた情報など必要に応じて記録・報告する。									
授業計画											
回	テーマ				授業内容						
1	【第1期 総合臨床実習】 令和7年 5月12日（月）～7月5日（土） 【第2期 総合臨床実習】 令和7年 7月14日（月）～9月6日（土）										
2											
3											
4											
5											
6											
7											
8											
9											
10											
11											
12											
13											
14											
15											
do											
成績評価		☐ 定期試験（ %） ☒ 実技試験（ %） ☐ 小テスト（ %） ☐ レポート（ %） ☐ 課題（ %） ☐ 発表（ %） ☒ その他(OSCE, 評価表, ポートフォリオ等から) 総合的に判断									
教科書											
参考書											
授業の留意点・備考											

科目名	地域実習					担当教員	臨床実習指導者 理学療法学科教員				
-----	------	--	--	--	--	------	---------------------	--	--	--	--

学科	理学療法学科	年次	4	開講期	後期	単位数	1	時数	45	授業形態	実習
区分	専門分野	教育内容	臨床実習						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		臨床実習指導者は臨床経験5年以上, 理学療法学科教員は臨床経験5年以上の経験を有している。									
授 業 概 要		地域領域における1週間の臨床実習である。									
到 達 目 標		地域包括ケアシステムにおける通所リハビリテーション又は訪問リハビリテーションの、役割やリハビリテーションマネジメント等について基本的な業務や知識・考え方を、見学を通し学ぶことを目的とする。									
授 業 計 画											
回	テーマ					授 業 内 容					
1	地域実習					令和7年9月16日（火）～9月22日（月）までの1週間					
2						各々の臨床実習施設で実施する					
3											
4											
5											
6											
7											
8											
9											
10											
11											
12											
13											
14											
15											
準備学習（予習復習）の具体的な内容											
成 績 評 価		☐ 定期試験 （ % ） ☐ 実技試験 （ % ） ☐ 小テスト （ % ） ☐ レポート （ % ） ☐ 課題 （ % ） ☐ 発表 （ % ） ☒ その他 （ 臨床実習指導者による評価・症例レポート等提出物 ）									
教 科 書											
参 考 書											
授業の留意点・備考		担当ケース1事例を症例レポートとしてまとめ、実習終了後に報告会レジュメとあわせて速やかに提出すること									